

且ツハ果汁ノ濾過ニ供ス。板（橙ヲ乗スモノニテ右策ノ上部ニオキ壓搾臺トモ云フベキモノナリ）壓搾棒（板上ノ橙ヲ壓搾スルニ用フモノ）布袋（壓搾ノ際橙ヲコノ袋中ニ入レテ殘粕ノ擴散ヲ防グ）（製造法）橙ヲ二ツ切リトナシコレヲ布袋ニ入レ前記装置セル壓搾臺上ニオキ棒ニテ壓搾シ之ヲ製造スコレガ製造時期ハ一月上旬乃至下旬ノ頃ニテ一人一日ノ製造工程ハ四斗樽一本ナリ然シテコレニ要スル原料ハ約果汁四斗ニ付約三千個ナリ

（製造品ノ價格）價格ハ甚ダ不定ニシテ一石ニ付一圓四十錢乃至三圓ナリ

荷造及ビ輸送

製品ハ多クハ四斗樽ニ容レ又ハ二合瓶詰トシテ荷造シコレヲ網代港ヨリ東京ニ輸出ス

收支計算

収入 金一圓二十三錢 果汁四斗賣却代
 支出 金二圓三十七錢
 内譯 金一圓八十七錢 原料三千個代金
 金五十錢 四斗樽代金其他
 差引 金一圓十七錢 不足

本業ハ原料ヲ購入シ或ハ果汁ノミヲ目的トセバ收支相償ハザルガ多クハ自家産ノ原料ヲ供シ果ツ橙皮ノ副産カヘリテ大ナレバ漸クニシテ收支相見ルニ至ルモノナリ

主ナル製造者

田方郡多賀村上多賀 向井春助 稻穂又兵衛

販路

東京

將來ノ見込

ぼんすノミヲ以テ目的トセバ本業ハ將來ノ見込ナシ

第二節 橙皮

沿革

田方郡多賀村ニ於テハ約明治三十六年頃ヨリ東京藥店ニ向ヒ橙ノ果汁ヲ輸出シツ、アリシガ後年ニ至リ果汁製造ノ殘粕タル果皮乾燥シ東京方面ニ販出セシニ現今ニ於テハカヘリテ果汁ヨリハ橙皮ノ方市場ニ歡迎セラル、ニ至レリ

産額

生産戸數	數量	量	價	額
六		1,110	360	360

製造方法

橙果汁殘粕中ヨリ瓢囊ヲ除去シ橙皮ノミヲ紐ニ吊シ、晴天約十日間日乾セルモノニテ約二百五十個ヨリ一

貫目ノ橙干皮ヲ得ルナリ

荷造方法

カク乾燥セルモノヲ一俵ニ付十二三貫—十六貫トシ箆包トナシ販出ス

橙皮ノ價格

一貫ニ付二五乃至三〇錢ナリ

收支計算

橙皮十二貫ニ付コノ收支計算(一日製造高)

收入 金三圓六十錢 橙皮十二貫賣却代

支出 金二圓十四錢

内譯 金一圓八十七錢 原料三千個代金

金二十二錢 運送費(東京マデ)

金五錢 包裝費

差引 金一圓四十六錢 (益)

主ナル生産家

田方郡多賀村 山田彦右衛門、稻穂又兵衛、向井春助、梅原彌八、小松爲作、土屋吉兵衛

販路

東京

將來ノ見込

製造時期ハ一月中ナルヲ以テ何レモ農閑ニシテ他ノ作業ニ關係スル事ナク本業ハコレガ副産物トシテほんすヲ得利益多シ、幸ヒニ多賀村ノ如キ原料豊富ナル地方ニアリテハ農家副業トシテ將來ノ見込多シ

第四節 柴胡

沿革

柴胡ハ古來藥用トシテ需用廣ク本縣ニ於テモ古クヨリ採收セラレタリ然ルニ近時産地殆ド開墾セラレ且各種副業ノ發達ニツレコレガ採收ニ從事スルモノモ甚ダ減少シ現今ニアリテハ箱根山附近ノ細民コレニ從事スルニ過ギズ

産額

郡	村名	數	量	價	格
田方郡	兩南村		二、五〇〇		一、〇〇〇
駿東郡	富士岡村		五〇〇		二〇〇
計			三、〇〇〇		一、二〇〇

從事戸數及人口

郡	村	名	戸	數	人	口
田方郡	南村			二		二五
東縣	富士岡村			一		一
計				二四		二六

柴胡ノ性質

柴胡ハ本名ヲみしまさいト稱シ又かまくらさいゴトモ云フ古來相州鎌倉ヨリ掘出スユエ鎌倉柴胡ノ名アリ春苗ヲ生ジ大葉麥門冬ニ似テ短ク粉綠色莖高サ二三尺傘狀ヲナシテ小黄花ヲ開ク小茴香ニ似タリ實ハ防風子ノ如ク條理アリ根黃黑色微香アリ

採收法

(時期) 採收時期ハ十月ヨリ翌年四月マデナルモ最モ多クコレニ從事スルハ十二月ヨリ二月マデナリ
(採收用具) 柴胡堀ト稱スル幅一寸長四寸ナル齒ニ柄ヲ附シタル筥棒ノ鍬ヲ用フ一打金二十錢
(採收量) 一日一人ノ採收量ハ極メテ不定ナルモノニテ產地ノ如何ニヨリ甚ダ異ル處ニシテ十五匁乃至一貫二百匁ナリ

調整及荷造

カクシテ採收セシモノハコレヲ洗ヒ、日乾スル事三―四日ニシテ販賣用ニ供スルナリ
荷造ハ蓆ニ包ミ一俵十六貫トナシ出ス

主ナル取扱人

駿東郡富士岡村駒門 勝 又安 太郎 田方郡南村平井 室 伏 万 三 同村丹那 鈴 木 精吉
同郡北狩野村下和田 西 島 常 吉

販 路

名古屋市京町四丁目 内 藤 源 七

經濟的概況

コレニ從事スルモノハ何レモ細民ニシテ正月ノ小遣取ニ行フモノ多シコレガ採收ニヨリ一家七八圓ノ收入アルハ普通トナス

第五節 赤楊ノ種實

沿 草

賀茂郡ハ到ル處山岳重疊シ殆ンド低平ノ地ヲ見ル故ニ耕地面積ハ至ツテ狭少ニシテ原野及山林面積ハ耕地反別ノ十餘倍タリ之等原野及山林ニハ赤楊ノ自然樹或ハ薪炭林中ニ混生セルモノ多ク從來ヨリ此種實ヲ採收シ染料トナシ居レリ即チ種實利用ノ起原ハ知ルニ由ナキモ既ニ往古ヨリ採收シ染料ニ供シタルヤ古老ノ言ニヨリテ明ナリ然レドモ當時ニアリテハ自家用ニ止リ其後織物業ノ盛ナルニ從ヒ需要益々増加シ遂ニ八王子及東京地方ニ販出スルニ至レリ爾來産額豊富ナルヲ以テ好個ノ副業トナシ其産出モ少ナカラザリシガ今ヤ各種事業ノ發展ニ伴ヒ勞働賃ノ騰貴及年々市價低落トハ本業ニ對スル大打撃ニシテ年々衰微ノ傾向アルハ甚ダ遺憾トスル所ナリ

產地及産額

賀茂郡南上、仁科、南中、田方郡中大見村等ノ諸村ハ主ナル産地ニシテ就中南上村ハ一ケ年千餘圓ノ産額アリ其他ノ町村ニ於テモ山林多キ地方ハ何レモ多少ノ産額ヲ見ザル所ナシ而シテ、正元年ニ於ケル總産額ハ二千二百五十餘石ニシテ此價額三千餘圓ナリトス

收穫時期及收穫方法

種實ノ充分成熟シ未ダ黒色ニ變ゼザル七、八月ノ兩月間ニシテ最モ適期トスルハ七月下旬ヨリ八月中旬迄ノ土用中トス而シテ是ガ收穫ハ手ニテ一個ヅツ採收スルニアリ一日一人三斗ヲ採集スベシ

乾燥方法

收穫シタル種實ハ快晴ノ日ヲ撰ビテ日干スルニハ先ヅ下敷ヲ行ヒ更ニ莖ヲ敷キ一枚ニ對シ一斗位ノ種實ヲ薄ク擴ゲテ乾燥セシメ五六日間ニシテ乾燥ヲ終ルモノトス是ガ乾燥ハ前記ノ如ク日干ナルヲ以テ其方法至テ簡單ナリト雖モ乾燥中ニ於ケル天候ノ良否ハ品質ニ大ナル影響ヲ及ボシ市價ニ苦シキ關係アルモノトス

價格

年々著シク低落ヲ來タシ今四十二年ヨリ大正二年ニ至ル五ケ年間ノ價格ヲ示セバ次ノ如シ
明治四十二年 一石平均價格 壹圓四拾錢
同 四十三年 同 壹圓四拾錢
同 四十四年 同 壹圓貳拾五錢

大正 元年 同

壹圓貳拾錢

大正 二年 同

九拾壹錢

荷造及販路

乾燥シタル種實ハ菰ニテ作リタル俵ニ入レ俵詰トナシ一石三斗ヲ以テ一俵トナス販路ハ八王子及東京市ニシテ兩地ニ於ケル主ナル取扱人ハ東京市市橋區金子常三郎金子倉藏八王子ニテハ朝倉甚五郎澤渡彌吉ノ四氏トス

第六節 楊梅エキス

沿革

楊梅ノ樹皮ハ古來染料トシテ使用セラレ四國ノ産地ニ名アリ然ルニ歐洲戰爭ノ結果染料ノ暴騰ハ斯界ノ企業家ヲ興奮セシメタリ茲ニ房州人石井米三ナルモノ田方郡對島村赤澤ニ楊梅樹多キヲ聞キ遂ニ大正五年四月對島村八幡野ニコレガ工場ヲ設立シ行フニ至リシモ其後染料ノ下落等ノタメ振ハザルモノノ如シ目下コレガ同業者ハ紀州ニアルノミナリ

産額

産地	戸數	畝數	畝價	額	單	價
田方郡對島村	一	三〇〇〇	三六〇〇	一〇		

原料

(原料ノ購入) 對島村ニテ石井氏ニ賣却セシ原料木ハ區有林中無結果樹百六十本及赤澤區ノ同上樹全部ナリ故ニ果實ノ結果良好ナルモノハ伐木セラレズ

(原料ノ價格) 五尺廻リ一本金二圓五十錢要スルニ尺ベニ付二十錢ノ價格ナリ

(原料ノ調整) 原料樹ハ長二尺五寸ニ切り皮剝器ニテ木皮ヲ剝取ル一日一人冬期ハ十貫目夏期ハ二十貫目ノ木皮ヲ剝離シ得ベシ後コレヲ長一寸厚二分大ニ刻ム一日(午前七時乃至午後五時)一人ニ付二十五貫ヲ處理スベシ然シテ材部ハ燃料トナスベシ

製造法

カ、ル細刻セル原料ヲ一釜一四〇貫入ル、釜ニ投ジ煮沸シ濃厚トナルニツレ順次釜ヲ變ズル事七回、火力ハ最後ノ釜ホド低温トナリ居ルニテ即チ七箇ノ釜ヲ通過シテ煮沸スルニテ其時間二晝夜七ツ目ノ釜ニテハ液ハ殆ド泥狀トナリコ、ニテ夏期六時間冬期三時間練ル事餅ノ丁度マデ行ヒコレヲ包裝紙ヲ敷キタル木製形(長三寸幅一寸八分厚八分)ニスレ冷却乾固セバ包裝紙ニテ包ム

製造量ハ原料一四貫ニ付二百封ノエキスヲ得

當場生産量ハ一ヶ月五千封ニテ一封ノ價格ハ十二錢ナリ

荷造法及販路

エキス五十箇ヲ木箱ニ入レ即チ五十封一箱トシテ販賣シ其價金六圓ナリ販路ハ東京及大阪

生産人

田方郡對島村八幡野 石井米三

將來ノ見込

本業ハ專業家ノ行フ處ニシテ原料ノ都合上一時的ノモノナリ對島村赤澤ニハ平均五尺貫ノ楊梅千本自生シ本工場定度ノ製造商會ニテハ約一ヶ年ノ作業アリ大正五年四月ヨリ大正六年一月マデニ約産地全産額ノ六割ハステニ伐木セリサレバ本業ハ將來ノ見込ミナシ

第七章 食用作物製品類

第一節 澤庵漬

沿革

古來澤庵大根ノ産名高カキハ安倍郡豊田村ナリ當地ハ約百數十年前ヨリナリ故ニ澤庵漬モ其ニ引續キ行ハレシナランモ記録ノ據ルベキモノ不明ニテ明治二十年頃ヨリ現今ニ至ルマデ著シキ増減ナク現狀維持ノ狀勢ナリ次ニ濱名郡ニテハ芝川村ノ産名高ク明治四十四年頃ヨリコレガ需要増加シ産地ノ區域モ白脇村天神町村ノ諸村ニ擴大サレタリ

尙近時急激ニ産額増加セシハ田方郡錦田村ニテ當地ハ明治四十年前マデ駿東郡片濱村附近ヨリ輸入セシモ

四十一年來ハ其産額増大シ盛ニ三島、沼津、箱根地方へ輸出シツ、アリ

産額

郡町村名	生産戸数	数量	價	額	單價	價
田方郡錦田村(原料)	九〇戸	一、五〇〇 <small>キ</small>	一、九五〇 <small>圓</small>	一圓三〇錢(樽×キ)		
安倍郡豊田村(漬物)	一五	二、〇〇〇	五、〇〇〇	二圓五十錢(樽×キ)		
同(原料)	三〇	四、〇〇〇	一、〇〇〇	一圓(樽×キ)		
濱名郡白脇村(漬物)	七〇	九〇〇	一、八〇〇	二圓		
同 芝川村(同)	二〇五	二、八〇〇	五、六〇〇	二圓		
計		一一、二〇〇	一五、三五〇	二圓		

(一) 田方郡ニ於ケル澤庵原料

田方郡錦田村産澤庵ハ何レモ澤庵原料ニテ澤庵漬トシテノ産出ハ甚ダ僅少ナリ、同村ハ三矢、塚原ノ兩字

ニ最モ多ク産セラレ其他一ノ山、笹原ニモ相等ノ産アリ其産出歩合ハ次ノ如シ

三矢(八〇〇樽) 塚原(四〇〇樽) 笹原(二〇〇樽) 一ノ山(二〇〇樽)

大根ノ種類

品種不明ナルモ栽培最モ多キハ一種ノ細根大根ニシテ産地方言聖護院ト稱ス

大根ノ産額及用途

栽培面積 收穫高 用途

三五 丁 一八萬貫 澤庵用(七割)生賣(三割)

採收及乾燥調整

採收期ハ十一月中旬乃至十二月二十五日ニシテ乾燥ニハ陽干一週間ニシテ大根ヲ曲ゲ折レザル程度ヲ宜シトス

カク生干ノモノ六貫一把トナシ一樽分ハ十八貫トス

主ナル生産人

田方郡錦田村塚原 小針 龜 吉 同村三矢 官 澤 森 吉

販路

三島、沼津、箱根温泉地

(二) 安倍郡ニ於ケル澤庵

本會編輯静岡縣特種産物調査(大正四年三月發行)参照スベシ

(三) 濱名郡ニ於ケル澤庵漬

(生産状態) 農家ノ副業トナスモノニシテ十二月二十日前後ニ大根ヲ採集シ十二月下旬ヨリ一月上旬中ニ漬ケ終ルモノトス

(原料ノ需給) 生産地タル天神町、白脇ノ芳川ノ諸村ハ畑地多ク大根ノ栽培盛ニシテ原料大根ハ殆ンド自家生産ノモノヲ用ヒ多數製造スル家ニテハ自家生産ノモノニ不足ヲ來シタルトキ購入スル事アリ故ニ自

家栽培ノ大根ハ殆ド總テヲ漬物ニ供ス左ニ大根ノ産額ヲ示セバ次ノ如シ

村名	栽培反別	産額	単價
白鴈村(蟹草、楊子)	一、二〇〇	六〇、〇〇〇	一、五〇〇
芳川村(大柳、三野、都盛)	三〇〇	一八〇、〇〇〇	七、二〇〇
天神町(馬頂家)	一、二〇〇	八四、〇〇〇	二、五二〇

(原料ノ品種) イ、つるくび 白鴈村芳川村ハ此品種多シ該種ハ形態稍々宮重ニ類似シテ細ク先端尖リ一本平均重量二百匁内外トス細キガ故ニ乾燥早ク且漬込ムニ容易ナリトス製品ノ味ハ宮重ニ劣ルモノトスロ、宮重 前者ニ次デ澤庵用トシテ貴バレ製品ハ甘味多ク澤庵大根トシテ適當ナルモ稍乾燥ニ時日ヲ要スルノ尖點アリ

(製造ニ要スル器具材料) 糠、糠ハ生搗即チ無砂搗ノ夾雜物ナキ糠糠ヲ炮焙ニテ煎リタルモノヲ用フルヲ最可トシ小米ヲ混ジタルモノ又ハ糯糠ハ用フ可カラズ故ニ糠糠ヲ篩ニテ小米ヲ去ルヲ可トス一日位日光ニ乾スモノモアリ

鹽、鹽ハ防腐ト加味ヲ兼ネタルモノニシテ澤庵ノ鹽加減ハ味ヲ左右スルコト大ナリ故ニ良品ヲ選ビ適度ニ用フルヲ要ス普通二等三等鹽ヲ用ヒヨク之ヲ篩ニ掛ケテ夾雜物ヲ除キ漬込前糠トヨク手ニテ混合ス樽、酒樽ヲ用フ樽ノ新シクシテ酒ノ香ノ失セヌモノハ製品ノ味特ニ佳ナリト云フ普通同一樽ヲ毎年使用ス故ニ漬込前ヨリ洗ヒテ水氣ヲ去リ置タヲ要ス漬込後ノ漏ラザル様充分注意シテ修繕ヲ加フ可シ

壓石、普通圓キ大ナル自然石ヲ用フルモこんくりトヲ以テ立方ニ固メ特ニ壓石トシテ製造セルモノアリ之ヲ動かスニハ滑車ヲ用フコノこんくりトハ重量二十貫内外ヲ普通トス

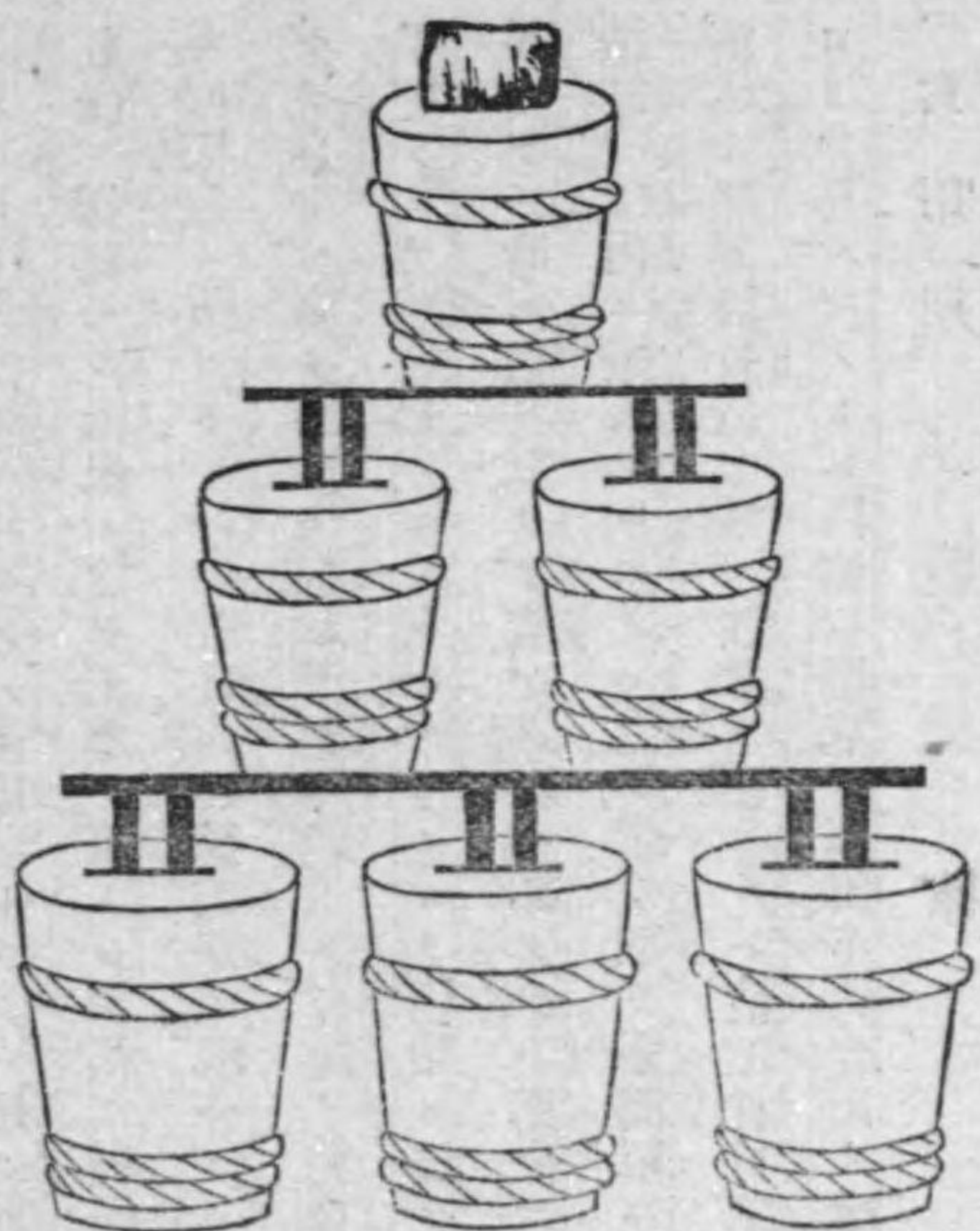
大根ノ採集、大根ハ普通十二月二十日前後即チ冬至迄ニ採集スルモノトス畑ニアル内ニ氷結スルトキハ鬆ノ入ルコトアリカ、ルモノハ澤庵漬トシテハ用フ可カラズ

乾燥、採集セル大根ハ之ヲ十本一束トシテ稻ヲ乾燥ノ爲メ作リタル稻架ニ掛ケ乾燥スルモノニシテ西風吹キ好天氣ノ續クトキハ十五日内外曇天等ノ場合ニハ二十日間乃至三十日間ニテ乾燥スツノ程度ハ大根ヲ曲ゲテ自由ニ曲リ然シテ折レザル程度トス乾燥不充分ナルトキハ製品ノ品質ニ影響スルコト大ナリ斯クシテ手解リニテ漸次充分ニ乾上レルモノヨリ稻架ニ掛ケタル儘葉ヲ切りテ家内ニ運搬ス(從來ハ架ニ掛ケタルモノヲ一時ニ切り取りテ漬ケタルモ斯クテハ充分ニ乾燥セザルモノアル爲メ品質ヲ害スルコト少カラズ)漬込、屋内ニ搬入セルモノハ之ヲ鬚ヲ取り極簡單ニ藁ニテ擦リ附着セル土ヲ落ス

漬込ミ澤庵漬製造中最モ注意ヲ要スルハ漬込材料タル糠及鹽ノ配合法ナリ殊ニ鹽ノ量ハ乾燥度合食用期ニヨリテ異ルモノトス白鴈村蟹草ノ藤田多與吉氏ノ鹽及糠ノ使用法ヲ記セバ左ノ如シ

食用期	鹽	糠
四月―五月	三升	二升
六月	四升	二升
土用以後	五升	三升

以上ノ如ク食用期ニヨリ多少ノ差アリ鹽ノ量ニヨリテ甘鹽ト幸鹽トヲ區別ス先ヅ前表ニヨリテ適宜糠ト鹽トヲ混ジテ良ク揉ミ合セ其ノ少量ヲ清洗乾燥セル桶中ニ入レ其ノ上ニ大根ヲ一列ニ間隙ナク並ベ鹽ト糠トヲ一様ニ撒キ層々斯クシテ滿ツルニ至リテ止ム大根ハ成ル可ク堅クシメ間隙ヲ生ゼザル様ニナス間隙アル時ハ其ノ部ニ水溜リヲ生ジ黒變セルモノヲ生ズ可シ



大根ハ成ル可ク太サ一様ナル物ヲ選ビ漬ケ其層ハ凹凸少キ様注意ス可シ最上層ハ樽上ニ出スル迄漬ケ其上ニ糠鹽ノ餘レルモノヲ全部撒布シテ壓蓋ヲナシ壓石ヲ置ク可シ漬込ノ時ハ注意シテ腐蝕シカ、レル大根又ハ鬆ヲ生ゼルモノヲ去ルベシ

壓石ハ藤田多與吉氏ハ二十貫位ノモテ最モ適當トス普通四五月食用ニ供スルモノハ一本樽六月頃使用ノモノハ二本重ネ七八月頃土用後ニ食用ニ供スルモノハ三本重ネトナシ其最上部ニ壓石ヲ置ク土用以後ニ

用フルモノハ二十貫ノ壓石ヲ五月上旬ニ至リ更ニ四十貫トナス之ヲ二段三段ニ重ヌルニハ圖ノ如クナス然シテ自然石ヲ壓石トナストキハ石ト石ノ間ニさんだわらノ如キモノヲ使用シテ動搖ヲ防グ
漬込ノ際風味色澤等ヲ良好ナラシムル爲メ樽内ニ酒ヲ吹キ掛クルカ又ハ大根ノ干葉茄ノ葉ノ干シタルモノ

ヲ混入スルコトアリ漬込ミタルモノハ冷所ニ貯藏シ日光ノ差シ込ム所ヲ忌ム各々食用期ニヨリ漬リ次第取リ出シテ濱名市ニ販賣ス

製造工程、漬込ハ頗ル綿密丁寧ニシテ一日大ナル大根ニテ二樽小ナルモノハ一樽トス一樽ニ要スル大根ハ大ナルモノハ二百—三百本大ナルモノハ一千本乃至一千百本トス一樽ノ價額四斗樽一本二圓乃至三圓(本年ハ三圓以上)ニシテ食用期後キモノハ稍高價ナリトス

品質ニ及ボス諸條件

- 一、乾燥ハ最モ品質ニ影響スルコト大ナリ故ニ一様ニ乾燥スル爲メニナル可ク太サ一様ナル蘿蔔ヲ選ブト共ニ架ヨリ取り外ストキモ順次充分ニ乾燥シタルモノヨリ漬ケルヲ可トス
- 一、鹽及糠ノ量ハ最モ重要ナル關係ヲ有ス鹽ノ量少キニ失スル時ハ酸變シ多キニ失スル時ハ鹽辛キニ過グ
- 一、漬込ミニ際シ大根トス根トヲヨク密接セシメ隙ヲ生ゼシメザル様スベシ
- 一、壓石ノ重量 壓石輕キトキハ内部ニ水溜リヲ生ジ酸變スルコトアリ一樽ニツキ二十貫以上ノモノヲ使用ス可シ

收支計算 (一樽)

收入 金二圓五十錢 一樽ノ價額

支出 壹圓九拾參錢

内譯 金五拾錢 酒樽一箇

金四錢 糠二升
 金拾四錢 鹽二升
 金二拾五錢 勞力男半人分
 金壹圓 原料大根三百本(三本一錢)

差引 利益、五拾七錢
 但シ樽ハ毎年同一ノモノヲ用フルガ故ニ毎年樽ノ代ヲ支出スルモノニアラズ

販賣取引

同地生産家ノ多クハ製品ヲ四月ヨリ八月迄ニ濱松市ニ擔ヒテ小賣スルモノ多ク之ヲ他ニ移出スルモノ稀ナリトス濱松市後道商店ニツキ移出先ノ調査ヲナセルモノ多クハ市内ノ諸工場及聯隊ニ於ケル需要極メテ多ク未ダ他ニ移出スル餘地ナキモノ、如シ

主ナル生産家

濱 名	郡	主ナル生産家
白脇村蟹草	藤田多與吉	
芳川村	矢野繁次郎	
芳川村	鈴木京次郎	

第二節 干大根

沿革

干大根ノ産名高キハ榛原郡五和村ナリ同地ニテハ農家ハ茶樹ノ間作トシテ盛ニ蘿蔔ヲ栽培シ澤庵大根トシテ生ノ儘移出スルコト多ク從ツテ大根ノ加工品等モ幾分他ヨリ異レルモノヲ出スコ、ニ調査セル干大根ノ如キノレナリコノ干大根ハ古クヨリ自家用製造シツ、アルモノニシテ記録ノ據ル可キモノナキガ故ニ其何レノ時代ヨリ生産シツ、アリシカハ不明ナレドモ百年以前ニハ既ニ之ガ生産アリシト云フ然シテ販賣用トシテ製造スルニ至リシハ明治四十五年頃ニシテ爾來大ナル増加發達等ナシ

(産額) 不明ナルモ農家ハ何モ之ヲ製造ス生産額ノ概數ハ數量ニ於テ五萬本内外價格ニ於テ約四百圓也

(生産状態) 農家ノ副業トシテ夜業ニ製造スルモノニシテ婦女子ノ業タリ十二月中下旬採集ノ大根ヲ同

月中ニ製造ヲ終ル

(原料) 原料ハ自家生産ノモノヲ用ヒ而モ煮食又ハ澤庵漬トナセル餘部ヲ以テ製造ス之ニ用フル品種ハ主トシテ宮重種トス本種ノ製品ハ甘味多クシテ美味ナリ練馬種モ用ヒザルニハアラザルモ製品ノ味宮重ニ及バズ且乾燥容易ナラズ

(製造順序) 大根ヲ十二月前後土地ノ氷結セザル前採集シ葉ノツキタル儘洗ヒテ附着セル土ヲ落シ夜業ニ剥皮スルモノトス剥皮ハ皮剥キヲ用フ剥皮器ハ圖ニ見ルガ如キモノナリ



A 木製ニシテ長五寸幅一寸高五分
 B ハ眞鍮製ニテ下面ニ鈍キ刃ヲ有ス幅二分位下面ニテ剥皮スルナリ之ヲ用ヒテ大根ノ元ヨリ尖

端ニ向ツテ割クナリ

剥皮セルモノハ葉ヲ着ケタルマ、南向ノ軒下又ハ風通シヨキ所ニ掛ケテ乾燥スルモノトスコノ間決シテ雨ニアツル可カラズ若シ雨ニアタルトキハ製品黄色ヲ呈シテ外觀ヲ損スルノミナラズ味悪ク且貯藏ニ堪ヘザルモノトス晴天續キ西風吹クトキハ十五日間位ニシテ適度ニ乾燥シ之ヲ自由ニ曲ゲ得ルニ至ル是ニ於テ葉ヲ切り取り(葉部ヲ一寸位残スモノアリ)テ連トナスコノ連トナス前ニ豫メ大根ノ形ヲ整フルヲ要ス即チ今迄乾燥セルモノハ或ハ縮ミ或ハ歪ミテ形不正ナルガ故ニ手ニテヨク引キ延シテ外觀ヲ繕フナリ之ヲ連トナスニハ繩ヲ用ヒ大根ノ兩端ヲ繩ノ綱目ニ挿入シ一連四十本乃至五十本位ヲ普通トスコノ連ニナシタルモノハ又ソノマ、軒下等ニ吊シテ乾燥スルコト五日間乃至十日間陽乾ス充分乾燥シタルモノハ硬固トナリテ自由ニ曲ゲルコト能ハズ且ツ表面縦ニ皺ヲ生ズコ、ニ於テ連ヨリ取引シテ貯藏シ又ハ販賣ス

製品ノ種類

製品ハ別ニ種類ト稱ス可キモノナキモ原料ノ大小ニヨリテ製品ニモ差アリ大ナルモノハ十五乃至二十乃至小ナルモノハ五乃至七寸アリ

製造歩合干大根トシテ出来上リタルモノハ重量ニ於テ生大根ノ一割乃至九分トナル

(製造工程) 女一人一時間ニテ五十本乃至六十本ノ剥皮ヲナシ得

(貯藏法) 製品ハ之ヲ貯藏ヲナスニハ籠箱等ニ入レ空氣ノ流通ナキ乾燥セル所ニ置クヲ要ス温暖ニシテ濕潤ノ場所ニ貯藏スル時ハ薇ヲ生シ食用トスルニ堪ヘズ且ツ臭氣ヲ發スルガ故ニあぶらむし等ノ害ニ罹リ

易シ普通五月頃迄貯藏ニ堪ユ

販賣取引及取扱人

製品ハ金谷町ノ仲買人ガ之ヲ集メテ地方ニ販賣スルモノニシテ既ニ連トナス前ニ買ヒ取り行クモノアリ仲買人ハ幾分金谷町ノ乾物商ニ渡スコトアルモ多クハ生産者自身島田、藤枝、静岡等ニ移出ス、取扱商人ハ金谷町松本仙吉ナリ

製品ノ價額

干大根ハ普通十本一束トシテ販賣ス其ノ價額ハ大小ニヨリテ不同ナリ

一束百五十乃至二百乃至ノモノハ十錢内外

一束五十乃至八十乃至ノモノハ七錢内外

干大根ノ食用法、干大根ハ乾燥蔬菜トシテ廣ク食用ニ供シ特ニ本村製品ハ他ノモノト異リ剥皮シアルヲ以テ美味ナルノミナラズ外觀美シク一般ニ賞用サル煮食ニモ二杯酢トナスモ頗ル可ナリ

收支計算(製品百本ニ付)

収入 金一圓也 一本一錢百本代

支出 九十錢

内譯 金六十錢也

原料百本代一本六厘

金二十錢也

原料大根採集ヨリ洗ヒ上ゲル迄男一人半日ノ賃銀

金十錢也

女一人夜業三時間從事及乾燥迄

差引 拾錢也

利益

第三節 山葵漬

沿革

山葵漬ハ古來静岡名産トシテ名高ク何レモ專業者ノ行フ處ナルガ農家ノ副業トシテノ山葵漬ハ田方郡上大見村ヲ以テ嚙矢トス、同村ハ有名ナル山葵栽培地ニシテ大正四年度ニ於ケル山葵ノ産額ハ二八一九四圓ニ達シ廣ク各地ニ販出セラル、處ナルモコレガ加工品トシテハ殆ドナク同村讀者ノ嘆ゼシ處ナリシガ偶明治三十三年頃同村倉野、佐藤ハル(大正六年ニ於テ六十四歳)初メテ産地山葵ノ屑物ノ利用トシテ農閑ニコレヲ製造シ且販賣シ今日ニ至レリ

産額

數	量	價	額	備	考
三三七			二七〇		
				百匁ニ付卸價五錢五匁、小賣十錢	

從業戸數及生産者名

從業戸數 二戸 生産者名 佐藤善太郎 山口政三

製造方法

(原料ノ需給) 原料ハ山葵、酒粕、鹽ニシテ、山葵ハ同村、地藏堂、筏場地方ヨリ購入シ、酒粕及鹽ハ附近ノ商店ヨリコレヲ仰ギツ、アリ

(原料ノ價格) 山葵一貫目三十五錢 酒粕一貫目二十五錢 鹽(三等鹽)一俵(一斗八升)一圓十八錢
(製造法) 先ヅ鹽ト酒粕トヲ混拌シ後、山葵ヲ長三四分ニ切りタルモノヲ日光ニ乾セ(冬期ハ一日間、夏期ハ二時間即チ乾燥品ヲ握レバ稍爛ヤカトナリシ定度)シモノヲ入レ捏鉢ニテ捏ネコレヲ漬物桶タル四斗桶ニ入レ約一週間密閉セバ所謂山葵漬トナルナリ

當産山葵漬ノ特徴

本産山葵漬ノ特徴トシテハ貯藏力ニ富メル事ナリ、即チ當地産製品ヲ沼津産ニ比スニ沼津産ハ一夜漬ナル事及ビ原料ヲ日光ニ乾サズシテ其儘製品トナス事トノタメ貯藏力劣ルコレカ、ル粗製品ハ重量多キヲ以テ專業者ハコノ粗製法ニヨルモノ多シ

荷造及販賣方法

卸賣ハ一斗桶ニテ販出シ、小賣トシテハ左記三種ノ小樽ニ入レ多ク土産用トシテ需用多ク時ニ行商的ニ附近ニ小賣スル事アリ

容器(小樽)	容量	價格	容器代
大	一 箇ニ付	三十錢	五 錢
	三〇〇匁入		

中	二〇〇匁入	二十錢	四錢
小	一〇〇匁入	十錢	三錢

右土産用荷作費トシテハ外ニ雜費トシテ一箇ニ付切紙(黒色和紙ニテ蓋止メニ張ルモノニテ方言紺トイサ(紙ノ名稱)ト稱ス)一厘、商標一箇ニ付一厘ヲ要ス

收支計算

山葵漬十五貫ニ就テノ收支計算

收入 金九圓

支出 金五圓六十九錢

内譯 金三圓五十錢

金一圓二十五錢

金十九錢

金七十五錢

差引 金三圓三十一錢

販路

販路ハ三島及沼津ヲ主トナシ全製造高ノ七割ハコノ方面ニ販出セラレ他ノ小數ガ土産用トシテ小賣セラレルナリ

製造時期ト商況

十月ヨリ翌年四月マデヲ主トシ且一月乃至三月マデガコレガ商況最モ良好ニシテ七月乃至九月最モ不良ナリ

將來ノ見込

主原料タル山葵ノ産出ハ年々増加ノ趨勢ニアリ從テ本業モコレニ伴ヒテコレガ販路ヲ講究セバ將來ノ見込多シ

第四節 水飴

沿革

麥製飴ノ産名高キハ小笠郡日坂村字中山ナリ此處ヤ東海道ノ驛路ニシテ彼ノ有名ナル佐夜ノ中山ノ名所ナレバ昔ヨリコ、ノ土産トシテ路傍ノ茶店ニ鬻ギシモノナリ然ルニ明治二十二年東海道鐵道開通以來ハ徒歩旅客著シク減少セシタメ自然衰運ニ赴キ今ヤ漸ク其面影ヲ存スルニ過ギズ

産額

生	産	戸	數	數	量	價	額
			五		二、〇〇〇		二、六〇〇

原料

大麥及ビ糯米ニシテ多クハ自家作ノモノヲ製造ニ供シ不足ヲ附近ヨリ購入ス

(麥芽ノ製造) 麥ヲ清水ニ浸漬スル事二時間コレヲヨク洗滌シ汚物ヲ去リコレヲ箆ニ盛り架上ニ置キ朝夕二回灌水スルコト約一週間ナレバ發芽適度ニ達ス、カクシテコレヲ更ラニ一週間位陽干シコレヲ石臼ニテ粉末トナシ種皮ハ除去ス產量ハ原料ニ對シテ三割八分減ナリ

(糯米) 品質優良ナル大粒種ノ乾燥良好ナル白米ヲ用フ

製法

糯米ヲ一晝夜水ニ浸漬シ之ヲ蒸熱シ未ダ冷却セザル内ニ槽ニ移シ麥芽ト溫湯トヲ加ヘ充分攪拌混和シ凡ソ五六時間ヲ經過セバ上層ノ飴汁澄ミ來ルカクテ飴粕ヲ除キ飴粕ハ充分ニ壓搾シ飴汁ヲ出シ其汁ヲ釜ニテ徐々ニ熱シ煮詰メバ出來ルナリ

此等原料ノ配合量左ノ如シ

糯米 四斗二升 麥芽 七升 溫湯 四斗五升一五斗
 (製造量) 前記分量ニヨリ配合セシ飴ハ製造セバ十一貫乃至十一貫五百匁トナルナリ
 (飴ノ價格) 百匁上製十三錢 並製六一七錢
 (飴ノ貯藏力) 時期ニヨリ異ナル處ニテ夏ハ十日乃至十五日冬期二一三ヶ月トス

收支計算

收入 金十四圓三十錢 水飴十一貫目賣却代
 支出 金七圓九十四錢
 内譯 金七圓五十錢 糯米四斗二升代

金四十四錢

麥芽七升代

差引 金七圓三十六錢

(益)

主ナル製造人

小笠郡日坂村(小泉屋)小泉忠治郎(小松屋)鈴木彌作(富士見屋)鈴木今藏(扇屋)鈴木市三郎 小泉豊

販路及ビ販賣法

販路ハ堀之内驛ニ僅カニ出ス外ハ生産地ニ於テ主トシテ販賣セラル、ニ過ギズ、飴ハ土産用トシテハ小ナル曲物(檜製)ニ入レ更ラニ竹皮ニテコレヲ包裝シ五箇一組トシテ販賣セラレ、コレガ容器ニハ大小二種アリ大ハ一組十錢小ハ一組五錢ナリ

將來ノ見込

生産地ニ於テハ佐夜ノ中山名所土産トシテ販賣スルヲ目的トシ廣クコレガ販路ヲ求メズ故ニ水飴製造ハ農家副業トシテハ有望ナルガ生産者ハ土産的自宅販賣ニ過ギザルヲ以テ年次其産額ヲ減少シ家ニヨリテハカヘリテ飴ヲ金谷町ヨリ購入シ其ニ中山飴ノ商標ヲ附シ露グモアリテ將來發展ノ見込少ナシ

附記

近時志太郡大長村鶴網松浦常吉氏ハ水飴ノ一種タル甘藷飴ヲ産ス即チ甘藷一貫目ヲ以テ六百匁ノ飴ヲ製スベクコレガ製法ハ前者ニ類似スルモ唯主原料タル糯米ノ代用トシテ甘藷ヲ用ヒシ點異ナルノミナリサレドモ糯米使用ニ比シ麥芽ヲ要スル事多量ナルト製品ノ品質劣ルヲ以テ未ダ普通ニ行ハレザル處ナルモ松浦氏

ハ年々約十貫位ツ、産出シツ、アリ

第五節 濱茶

沿革

濱茶ハ一名豆茶トモ稱シ近來茶ノ代用品トシテ濱名郡及ビ引佐郡ニ産出セラル其起源不明ナルモ將來ノ見込多キモノナリ

原料

濱茶ト稱スルモノニハ左ノ二種アリ何レモ豆科植物ナリ

一 *くちねひ* (合萌) *Aechynomene indica*, Linne.

(産地) かはらけつめいニ比シ湿地ニ生ズルモ海濱河原畦畔等ニ多シ

(葉) 一回羽狀複葉ニシテ葉色深緑葉數多ク密ナリ

(莖) 高サ一二尺直立中定ニシテ枝ヲ分ツ一年生ナリ

(花) 蝶形黄色ニシテ腋生ス

(莢) 熟セバ粒々膨起シ斜ニ折ル長大ニシテ線形平扁ナリ長一寸二三ノ

ニかはらけつめい、(山扁豆) *Cassia mimoides* binne

(産地) 海濱、河原等ノ乾燥地

(葉) 一回羽狀複葉ニシテ葉色淡緑葉數少ク粗ナリ

(莖) 高サ二尺位中實ニシテ一年生ナリ

(花) くさねむニ同ジ

(莢) 黒褐色ニテ横ニ切レ易ク短少、線形、平扁ニシテ細毛アリ

栽培法

濱茶ヲ培養スルニハ晩春八十八夜前後ニ普通ノ畦ヲ劃シ、種子ヲ厚蒔ニ播ク、湿地ヲ厭ヒ輕鬆ノ砂地ヲ可トス、即チ濕潤ノ地ハ自然窒素饒多ナルガ故ニカ、ル土地ニ培養ヲナサバ濱茶ノ生育中葉面等ニ白澁病ヲ生ズ、肥料ハ窒素分ヲ避ケ加里質ヲ用フルヲ要ス、即チ湿地ニ培養セルモノト野生品トヲ製造スルニ前者ハ香氣ニ乏シク且味美ナラズ後者殊ニ輕鬆ノ地ニ生ズルモノ美味ナリ

製造法

濱茶製造期ハ秋彼岸前後ノ候採取シ根元ヨリ大約一尺位ヲ剉切シテ上部ヲソノ儘清水ニテ洗滌ス稍水分ノ發散ヲ見計ヒテ後切斷器ニ掛ケ剉切ノ寸法ヲ定メ大小自在ニ刈リ、之ヲ大釜ニ蒸ス、其極點ニ達シタル時現品大約一升五六合位宛ヲ篩ノ如キ容器ニ入レ、交々取替蒸ス事三十秒間、時々箸モテ攪拌シ適度ヲ計ラヒテ揚ゲ直ニ釜ニ擴ゲ熱氣ヲ冷却ス、後晴天二日間計リ太陽ニ乾燥シ最後火燗釜ニ掛ケ炒燥徐々ニ精製ス、生葉約三貫目ヨリ一貫目ノ濱茶ヲ製造スベシ

收支計算

收入 金八十錢 濱茶一貫目賣却代

第七章 食用作物製品類 第五節 濱茶

支出 金四十錢

内譯 金十錢

生豆茶(採取ノ儘ニテ)一貫ノ價格

金二錢

生豆茶一貫目ノ剉切工費

金五錢

同上蒸煮及乾燥費

金五錢

同上精製費

金十八錢

以上ノ總燃料

使用法

豆茶ノ嗜好ハ歲月ヲ逐フテ増加シツ、アリ、旅館、料理店等殊ニ濱松附近ニ於テハ盛ニ使用ス、飲用ノ方法ハ普通炒鍋ニテ克ク焙ジ番茶ニ三分ヲ混用ス、種子ノミヲヨク焙ジテ用ユル時ハ美味ナリ更ニ此ノ炒種子ヲ小白ニテ碾キ粉末トシテ砂糖ヲ入レ用ユル時ハ珈琲代用ヲ産出スベシ

濱茶ノ效用

濱茶ハ美味ナルノミナラズ、醫學上一種ノ利尿劑トシテ之ニ關聯シタル諸病ニ效顯著ナリ、明治十三年九月東京大學内ニテ花崗岩風化ノ土壤ニ培養シタル豆茶ノ成分ヲ分析シタルニ試験成績左ノ如シ

水分	九、六七	粗纖維	四五、二一	灰	分 二、九二
粗脂肪	四、四四	全窒素	〇、四二	エキス全量	二〇、一八
蛋白質	二、八五	タンニン	七、四八		

第八章 食用野生植物類

第一節 松茸

沿革

本縣産松茸トシテ史上ニ名高キハ小笠山ノ産ナリ、遠江國風土記傳ニ云ク「小笠山郡、西北三里有入山瀨村、高凡一里東西二里松樹繁茂松茸最味好」トアリ然レドモ現今ニテハ引佐郡産ヲ第一トシ東京市場ニ遠州松茸ト稱シ丹波其他ノ産ト競ヒ居ル處ナリコレガ産出ハ古ク近時コレガ採收法ニ注意シアルヲ以テ漸次産額ヲ増加シツ、アリ

郡	町	村	名	數	量	價	額
引佐郡	都田村	玉村	村	六、〇〇〇	六、〇〇〇		六、〇〇〇
同	氣賀町	川村	村	二、〇〇〇	二、〇〇〇		二、〇〇〇
同	中川村	井伊ノ谷村	村	一、〇〇〇	一、〇〇〇		一、〇〇〇
同	東濱名村	西濱名村	村	一、〇〇〇	一、〇〇〇		一、〇〇〇
同	赤佐村	小笠山郡	村	四、〇〇〇	四、〇〇〇		四、〇〇〇
同	土方村		村	一、八七五	一、八七五		一、八七五

小笠郡大淵村	一、〇〇〇	小笠郡大淵村	一、〇〇〇
同横須賀町	五〇〇	同横須賀町	五〇〇
同笠原村	五〇〇	同笠原村	五〇〇
同上内田村	四〇〇	同上内田村	四〇〇
同郡笠原村	四〇〇	同郡笠原村	四〇〇
同郡西村	四〇〇	同郡西村	四〇〇
計	二二、六七五	計	二二、六七五

採收法

(產地) 松茸ハ如何ナル山地ニ生ズルヤハ一定セザルモ引佐郡ニテハ高燥地ニ生ジ陰濕地ニ生ゼズ、且肥瘠ニ偏セル場合ニハ發生少ナシ傾斜位置ヨリ見レハ八合目ノ日光直射ヨキ地ニ多キモ下草ハ刈ラザルモノ、方ヨシ、小笠郡ニテハ傾斜位置ヨリ論ズレバ五合目以下ニテ特ニ田ニ接近セル方ヨク土性上土二三寸ニテ以下岩石ナル處ヨシ即チ赤土ニテ砂交リノ處ヨキナリ

(松トノ關係) 赤松ニ出ズルモノナルモ、引佐郡田村地方ニテハ赤松林中ニ若干ノ黒松混生セル方ヨク松ハ十七八年生ヨリ三十年生マデノ間産出多ク三十年以上トナレバ漸次産額ヲ減少スルモノナリ

(採收器具) 採收用具トシテハ容器トシテ籠ノ外堀ルニ棒ヲ用フルノミナリ

(採收時期) 小笠山ニテハ九月下旬乃至十一月上旬引佐郡ニテハ十月中旬乃至十一月下旬ナルモ年ニヨリ一定セズ

(採收契約) 引佐郡ニテハ年期ヲ以テ山主ト採收權利及山林保護ヲ五ヶ年乃至十ヶ年契約シ採茸ノ採收前一ヶ年ノ料金ヲ前納スルモノニテ官林ニテハ豫定收獲高ノ三分ノ一位ヲ前納シ年期ハ一ヶ年トス右契約

期間ハ契約林ノ保護ハ茸ノ産出ニ影響大ナレバ契約者ニ於テ其期間中ハ保護スルモノナリ

小笠郡ニテハ豫メ産地ヲ視察シ其狀況ニヨリ山代ヲ協定シ九月十日ニ内金ヲ出シ九月末日マデニ全部ヲ支拂フ方法ニテ山代ノ最モ高キハ反當百圓位ナリ

(採收量) 一日一人採收量ハ産地ノ如何ニヨリ一定セザルモ普通七八貫位トシ産出多キ場合ニハ僅ニ二十分間ニ於テ四貫目ヲ採收スル事アリ、但シ採收時間ハ早朝ヨリ正午マデニテ以後ハ採收品ノ撰別ニ従事スルモノトス

(採收上ノ注意) 採收上天候トノ關係ニヨリ得失アリ引佐郡ニテハ雨天採收ハ茸ノ發見ニ都合ヨク且重量ノ點ニ於テ有利ナリト云ヘドモ小笠郡ニテハ雨天採集品ハ五割安ニテ賣買ス尙ホ收穫ニアタリテハ一度ニコレヲ採ラズ間引ナリ然シテ採集者ハ産地ニ安ニ踏入り又ハ放尿スルガ如キハ慎ムベキ事ナリ

(採收品ノ撰別及價額) 引佐郡ニテハ左ノ四種ニ分類ス

- | | | |
|------------------------|---|----------|
| 種 | 類 | 價額(百匁ニ付) |
| 丸(菌傘ノ開カザルモノ) | 一 | 八 錢 |
| 中(少シク菌傘ノ開キタルモノ) | 一 | 六 錢 |
| 平(菌傘ノ充分開キタルモノ) | 一 | 四 錢 |
| グロ(一名(菌傘ノ反リ返ヘリタルモノ) 二) | 二 | 錢 |

又價額ハ時期ニヨリ變動多キモノニテ小笠郡ニテハ出初ニハ百匁ニ付平均二十五錢中頃上十錢普通品六錢

末期ニハ十四錢ナリ

販賣及荷造方法

引佐郡ニテハ採收地ニ假小屋ヲ設ケコ、ニテ共同販賣ヲ行ヒ入札ニヨリ販賣シ、小笠郡ニテハ附近ノ商人採收者ノ自宅ニ至リコレヲ購入ス
荷造法ハ四貫目入ノ木箱或ハ目籠ニ入レコレヲ二個ヲ一梱即八貫目トナシ出ス容器代ハ木箱及籠共ニ價額ニ於テ大差ナク一箇金二十錢位ナリ多クハ木箱ニヨルモノナリ
カクセバ引佐郡産ナレバ金指町ヨリ濱松マデ輕便鐵道ニテ以下鐵道ニテ東京神田市場ニ送ラレ一梱ニ要スル送費六十七錢、市場ニテハ一割ノ口錢ヲ受領ス

主ナル採收者

- 小笠郡土方村 青野松太郎 藤田彌平
- 引佐郡龜玉村 後藤龜十 竹内半三郎 伊藤猪嘉治
- 引佐郡都田村 内山東吉 小林種次 鈴木正作 鈴木彌藤次
- 須邊茂七 鈴木彌作
- 主ナル取扱人
- 引佐郡金指町 安間藤十 内山源吉 渡邊久五郎
- 同郡龜玉村宮口 鈴木伊平

同郡都田村谷上 本田平太郎

小笠郡掛川町 八百音 八百平

販路

引佐郡産ハ東京ヲ主トシ餘ハ濱松其他トシ小笠郡産ハ掛川、堀ノ内、袋井、横須賀等ニシテ更ラニコレ等商人ノ手ニヨリ静岡其他へ販賣セラル

松茸加工品

加工品トシテハ罐詰及鹽漬ヲ主トシ稀レニ味噌漬アリ罐詰ハ濱松市肴町中野商店ニ於テ製作セラレ年額七噸内外鹽漬ハ金指町ニ於テ安間藤十、内山源吉、渡邊久五郎ノ諸氏ニヨリ産出セラレ年産額約二千樽本品ハ一度湯煮タルモノヲ一斗ニ付三升ノ鹽ニテ漬ケタルモノニテ一樽約五十本入價格金六十五錢乃至七十錢本品ハ三四月頃マデハ貯藏スルヲ得ルナリ

將來ノ見込

本縣ニ於ケル松茸ハ年次増加ノ見込アリ唯小笠山ニ於ケル狀況ヲ見ルニ目下多クノ産地ハ三十年生ノ松ヨリナルタメ目下稍産額減少シツ、アルモ主産地タル引佐郡ハ從來採收方法幼稚ニシテ都田及龜玉ノ兩村ノ外ハ其甚ダシキモノナリ、故ニ將來一般コレ等産地ニ於テコレガ採收方法ニ注意セバ現今ヨリ更ラニ五割方ノ増收ヲ得ルニ至ラム

第二節 楊梅

沿革

楊梅ノ古來名高キハ小笠郡高松山ノ産ナリ遠江國風土記傳卷十二ニ「高松山、山上ニ在社、山西國安川、山南、海濱、山東山北并郷村、高凡五百步、有松樹楊梅、四時生松露」又史上ニ名高キハ安倍郡服織村ノ産ナリ駿國駿志卷十八ニ風土記ニ出ズル貢物中ニ曰「安辨郡山崎、横貢梨、桃、梅、栗、楊梅等」トアリ又同郡麻機村南長橋茂十郎園ニハ嘗テ約三百年ヲ經タル楊梅ノ一種タル熊楊梅(くまも)アリ。傳ヘ云フ同郡安東村熊野神社ノ神官某來リテコレヲ寄接ギヲナシテ繁殖セシト云フ故ニ一名熊野楊梅ト稱ス、其後麻機村杉浦六三郎(明治三十年歿ス)ハコレガ接木ニ堪能ニシテ酒ノ空樽ニ普通ノ楊梅ヲ植エ之ニ熊楊梅ヲ寄接シ苗ヲ遠ク庵原郡等ヘ販賣セシト云フ、其原木ト稱セラル、長橋氏ノ楊梅ハ明治二十八年伐採セシモ當時枝葉二畝歩以上ノ面積ヲ覆ヒシ大木ナリシト云フ
其他田方郡對島村赤澤ハ産額多キヲ以テ有名ナリ

産額

郡町村名	樹數	採取戶數	量	價	額	單價
田方郡對島村	一、〇〇〇	二二〇	一四〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一
安倍郡麻機村	四〇	一九	四〇	四〇〇	四〇〇	一〇
安倍郡長田村	五〇〇	一六	五〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇
安倍郡南高村	九〇〇	一六	五〇	四五〇	四五〇	九
安倍郡坂部村			五〇	五〇〇	五〇〇	一〇
榎原郡川崎町			二〇	二〇〇	二〇〇	一〇
小笠郡池新田村			六〇	一一〇	七二〇	一〇
計			五二〇	五二〇	四、六七〇	六

楊梅ノ種類

楊梅ノ種類ニハ數種類アリ、安倍郡ニテハ左ノ種類ヲ普通トス
熊楊梅、果實ハ熟スレバ暗紫色ヲ呈シ楊梅中最モ大ナルモノナリ、葉ハ長倒卵形ヲ呈シ長サ三寸七分内外幅一寸内外ナリ、熟期六月下旬ヨリ七月中旬ナリ安倍郡麻機村ノ産名アリ
水楊梅、果實ハ熟スレバ鮮紅色ヲ呈シ甘味多ク水分ニ富ム品質優良ナリ、葉ハ前種ヨリモ形小ク長サ二寸八九分内外、幅七八分ニシテ葉ハ前者ヨリモ密生シ熟期六月二十四五日乃至七月上旬一名紅楊梅ト稱ス豊産ナリ
白楊梅、水楊梅ニヨク類似スルモ果熟シテ赤色ヲ帶ビズ青黄色ヲ呈ス味美ナラズ
安倍郡麻機村ニテハ水楊梅及ビ白楊梅ヲ混稱シテ地楊梅又ハ藪楊梅ト稱ス
田方郡ニテハ中生種七、晚生二、早生一ノ比ニ産セラレ小笠郡ニテハ黑色中粒種最モ多ク小粒種コレニツギ大粒種最モ少ナシ

栽培及管理

栽培法トシテハ一定ナルモノナク又管理法又然リ然レドモ安倍郡麻機村杉山治助氏外一二ノ生産者ハ隔年結果ヲ各種相互ニナサシム即チ楊梅ハ隔年結果ノ甚シキモノナルヲ以テ無結果年ニ結果セシム方法ナリ其

方法ハ結果年ニ結果セシメズシテ翌年結果セシムル爲メニ剪芽ヲナス事ナリコレニハ茶剪缺又ハ剪定缺ニテ本年生新芽ヲ全部七八月頃剪除ス斯ル時ハ十年間位剪芽ヲ行ハザル樹ト結果ノ年ト異ニス

採收方法

(採收時期) 品種ニヨリ一定セザルモ平均六月下旬乃至向十五日間ナリ

(採收法) 安倍郡地方ニテハ早朝四時半頃ヨリ午前九時頃マデニ採收スルヲ普通トシ梯子ヲ以テ樹ニ攀一粒ヅ、採リ腰ニ吊ルセシ小籠(茶摘用)ニ入レ手ノ達セザル所ハ樹下ニ蓆、蓆等ヲ敷キ枝ヲ竹桿等ニテ敲キ落ス方法ナリ一ノ果枝へ二十粒内外ノ結果アルヲ普通トス採收量一人約五時間ニ付六升乃至八升トス田方郡對島村産地ハ大部分區有林ナルヲ以テコレガ採收權ハ區長ニ權利アリ即チ區長ハ七月中旬採收解禁ノ命ヲ發セバ區民二三〇戸ノモノ一戸平二人ノ割ニ採集ニ出デ多キハ一日一人ニ付二斗乃至五斗ヲ採收スルモアリコノ地ニテハ採收者ハ婦人多シ

(結實ト品質) 三十年生位ノ樹ニテ一本ノ收量三石内外トスサレドモ事實ノ結實量ハ尙前記收量ヨリモ四割乃至五割多キモ風雨等ニテ落下スルモノ頗ル多ク結實ノ全量ヲ收獲スル事困難ナリ品質トシテハ概シテ木蔭ニ結果セルモノハ粒大ニシテ水分多ク甘味ニ富ミ品質良好ナルモ太陽ノ直射スル部分ニ結實セルモノ品質劣等ナリ

價格

田方郡對島村卸價一升三錢五厘乃至十錢、小賣價十錢乃至二十五錢、安倍郡麻機村熊楊梅初期(七月一日頃)

十錢末期七錢、水楊梅初期(六月二十四日頃)二十錢、末期十錢

安倍郡長田村紅楊梅初期十八錢、末期十錢

榛原郡川崎町初期十三錢、中期七錢、末期十五錢

小笠郡池新田村四錢乃至九錢、平均五六錢

販賣取引

田方郡對島村ニテハ仲賣人中大見村及ビ伊東町等ヨリ來リ一人ニ付一斗五升乃至二斗位ヲ購入ス

安倍郡ニテハ採取者直接静岡へ賣出スト仲賣人ニ渡ストアリ小笠郡ニテモ採取者直接行商ニ出ズト仲賣人ニ渡ストアリ

販賣上特殊ナルハ安倍郡長田村ニテ樹ノ計リ方採收期ノ初期ニテ未ダ果物少キトキハ普通山盛リ一升ト稱シテ正一升ヨリ幾分量ヲ増シ果物漸ク盛ニ出ズルニ及ビテハ一升樹ノ側上面トニ手ヲ當テ、其ノ手ノ上ニモ果物ヲ載セテ計ルモノニテ尙益々果實ノ生産盛ニナル時ハ樹ノ兩側上面ニ兩手ヲ水平口ニアテ、計リ故ニ一升ニ對シ三四合ノ餘分ヲ計ルモノナリ

販路

生産地ニヨリ左ノ地方ヲ主販路トス

田方郡對島村産

伊東、修善寺、熱海温泉地

安倍郡産

静岡

榛原郡産

川崎、相良、金谷、島田

小笠郡産

横須賀(小笠郡)磐田郡福田、掛塚淺羽地方

主ナル生産家

安倍郡麻機村南

狩野新作

杉山太助

佐藤半左工門

安倍郡長田村大鐘

近藤兼藏

鈴木政太郎

小笠郡池新田村鹽原

鈴木傳次郎

松本伊助

將來ノ見込

楊梅ハ一種ノ野生果樹ニシテ古來有名ナル美果ナルモ各地トモ染料財量トシテ漸次伐採セラレ逐年減少ノ傾向アリ是レ採收期ハ恰モ稻插秧及製茶時期ニ際會シ最モ農繁ナル時期故ニ採收ノ餘暇ナキト採收ニ困難ナルタメ漸次開墾セラレ他ノ作物ト(柑橘或ハ茶)更新セラレツ、アリ且ツ該果ハ貯藏ニ堪ヘズ遠距離ニ輸送スル事能ハズシテコレガ生産増加ハ販路ニ影響スル處ナリ一方田方郡對島村ノ如ク楊梅エキス製造セラルル事盛ニナレバ數年ナラズシテ縣下ノ楊梅全滅ノ恐れアリ故ニ將來ノ見込ナキ果樹ナリ
楊梅酒製造セシモノアリシモ成功セズ

第三節 こけもも(越橘)

沿革

本縣産こけももハ富士山産名高ク特ニ濱梨、不老不死、仙果、富士梨等ノ異名アリ、富士山麓地方ニテハ濱梨ト稱呼スルモノ多シ、コレ其産地ガ俗ニ御濱ト呼バレ居ルヲ以テナリ、不老不死ノ名ハ蓋昔秦ノ始皇帝ガ蓬萊ニ遣ハシテ不老不死ノ神藥ヲ求メント欲シテ徐福ニ命ジタリシ故事ヨリニテ蓬萊ガ我が國ノ富士山ニ該當シ茲ニ富士山産ノ靈藥テフ事ヨリ一名不老不死ノ雅名ヲナス扱コレガ加工ノ目的ヲ以テ採集セシハ富士郡大宮町佐藤昇平氏ニシテ同氏ハ明治二十一年頃ヨリコレヲ初メ鹽漬トセリ以來本品ハ御殿場町、大宮町等富士登山客土産トシテコレガ加工品ヲ鬻ギツツアリ

産額

郡町村名	採集者	數	價	額	單	價
駿東郡須走村	一			三二		一六
同 玉穂村	一〇			四八		〇
富士郡大宮町	二二			二四八		二八
計				二八〇		一六

原料

コケモモ(越橘) *Vaccinium vitis-idaea.*

石南科ニ屬スル小灌木ニシテ本邦各地ノ高山ニ自生スルモ北海道東海岸、千島、樺太ニ至レバ多ク一平地ニ自生ス

(産地) 富士山ニテハ大宮口ニテハ海拔六七千尺ノ處即チ四合目乃至五合目ノ日光ノ照射良好ナル岩石地ニ自生シ御殿場口ニテハ二―三合目附近ニ良品ヲ産ス、然シテ本植物ハ御殿場大宮間ニ最モ多ク産ス

(採集方法) 大宮町佐藤昇平氏ノ行フ處ハ富士表口産採集權即チ山代ヲ年々三十餘圓ヲ出シ富士郡富士根村ノ人夫約三十名ヲ雇ヒ十月乃至十一月ノ頃僅ニ五六日ノ内ニ採收セシムルナリ然ラザレバ成熟ノ期ヲ失セバナリ、採集ニ際シテハ一合目ヲ宿泊根據地ト定メ、日々各方面ニ分レ危險ヲ冒シテ採集ス一人一日ノ收集量ハ二升乃至一斗ナリ

(原料ノ價額) 御殿場附近産ハ一斗金二十錢内外大宮附近産ハ二十八錢乃至三十錢ナリ、コレ大宮産ハ佐藤氏ノ經營スル處ニシテ同氏ハ一日一人ニ付五十錢位ノ人夫ヲ使役シ採集スルタメ勞金ヲ多ク投ズルヲ以テ其價額高シ然ルニ玉穂村採集者ハ富士山宿泊業ヲ營ム副業ニ九月中旬富士山閉山後コレヲ採集シ下山スルヲ以テ價額安價ナリ

販賣及ビ加工

採集者ハコレヲ多クハ生ノマ、石油箱等ニ入レ販出シ又鹽漬トシテ出ス鹽漬トナスニハ原料一升ニ付鹽三合ノ比ニ漬ケシモノナリ
加工品トシテハ羊羹、不老漬(鹽漬(富士之露(砂糖漬))、じやむ等ニシテ何レモ菓子商店ニ於テ行フ處ニテ羊羹ハ其主ナルモノナリ

販路

原料ハ主トシテ御殿場町、大宮町ノ菓子商店ニシテ稀レニ東京ニ販出セラル加工品ハ何レモ富士登山土産用ナリ

主ナル採集者

富士郡大宮町 佐藤昇平
駿東郡玉穂町中畑 勝又萬次郎
同 須山村 早野ユウ

濱梨羊羹

コケモモ加工品トシテ最モ有名ナルモノナリ

(來歴) 明治三十二年頃駿東郡御殿場町大谷梅吉氏ノ初メテ考案販賣セルモノナリ然レドモ同氏ハ性極メテ濃厚ナルモノナルガ故ニ後年コレガ新案特權權ハ同町服部(岡田)平兵衛ノ犯ス處トナリ居レリ、大宮町ニテハ梅月事鈴木朝明治四十一年頃ヨリコレヲ製造シ現今ニ於テハ同町ニナホ谷濱吉今井米吉ノ同業者アリ

産額

生産地	戸數	數量	價額
御殿場町	二	三〇〇〇〇本	三〇〇〇〇
大宮町	三	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇
計	五	四〇〇〇〇〇	四〇〇〇〇〇

(製造法) 左ノ通り調合セルモノナリ

寒天 一五〇匁 (大阪製) 信州製其他産地ニヨリ一定セズ
 砂糖 一七〇匁 三盆白ナ用フ
 酒 一〇〇匁
 漬梨ジャム 五〇匁

本製造ハ各種羊羹中最モ困難ナル處ニシテ原料ヲ粒ノマ、使用セバ夏ハ此ノ粒ノ附近ニ徴ヲ生ジ易クじやむトセバ香氣ヲ失フ故ニ大宮町鈴木朝氏ハ別記ノ如クじやむトシテ製造ス然レドモ將來ハ粒ノマ、然カモ徴ヲ生ゼザル様製法スル事最モ肝要ナリコケモモハ生ノマ、ナルヲ用フルガヨク鹽漬トシタルモノハ不良ナリコケモモじやむハ原料ヲ蒸シ後等量ノ三盆白(くるまとい)ヲ入レ三四十分間煮詰メシモノナリ
 カクテ出来上リ一本ニ付五十匁正味トナシ箱詰メトナス之ガ貯藏有功期限ハ冬期二ヶ月夏期二十日間ナリ
 (製造工程) 鈴木朝氏ニナレバ一時間六十本ヲ製造スベシ

製造者

御殿場町 大谷友吉 服部平兵衛
 大宮町 鈴木朝谷 濱吉 今井米吉

第四節 くさぼけ

沿革

くさぼけハ古來兒童ノ間食用果實トシテ野生品ヲ利用シ來リシガ駿東郡小山町ニテハ明治四十年頃ヨリ同町小山紡績會社女工間食用トシテ賣買セラレ大正六年虎列刺發生ニ際シ梅干騰貴ノタメニコレガ代用トシ

テ一箇五厘位ニマデ暴騰セシ事アリテ原料ハ附近ハ勿論遠ク山梨縣郡内地方ヨリ供給ヲ仰ギツ、アリ

産額

生産地	生産戸数	数量	價	額
駿東郡小山町	二〇	一五		九〇
同 御殿場町	一〇	六		三〇
計	三〇	二一		一二〇

採收法

くさぼけハ一名しどめト稱シ薔薇科ニ屬スル小灌木ニシテ富士箱根山麓地方ニハ自生多キモノナリ
 (採收時期) ハ九月頃稍黄熟セルモノヲ採收ス
 (一日採集量) 一日一人ニ付約一斗乃至二斗
 (價格) 産地ニヨリ一定セズ御殿場町ニテハ一升三錢小山町ニテ五六錢ナリ(但シ加工セザルモノ)
 (荷造) 藁菰モテ一俵五斗入トナシ包装ス

果實加工法

加工法トシテ多ク行ハル、ハ鹽漬ナリ御殿場町ニ於テハ約明治三十五六年頃ヨリコレヲ行ヒ自家用ニ供セシガ大正元年頃ヨリ同地漬物店ニ於テハコレヲ賣品トナスニ至レリコレガ調理法ハ一升ニ付三合鹽ナリ近時御殿場及小山町漬物店ニテハ味淋漬ヲ産スルモ未ダ振ハズ

(價格) 小山町ニテハ一升十錢御殿場町ニテハ一錢ニ付四箇ナリ

收支計算

果實一斗鹽漬トシテノ收支計算

收入	金二圓	鹽漬果實一斗賣却代
支出	金七十九錢	
内譯金	六十錢	果實一斗ノ價格
	金十九錢	鹽三升代金
差引	金二十一錢	(益)

右ハ原料ヲ購入シテノ收支計算ナリ然ルニ若シ採集者自ラコレガ加工ヲ行ヒ販賣セバ利益大ナリ

主ナル取扱者

駿東郡小山町 杉崎 久三

將來ノ見込

原料ノ採集ハ一種ノ排物利用ニシテ婦女子ノ作業ニ適セルモノナリコレガ需用ハ單ニ小山工場ノミナラズ其他ノ工場等ノ者モ同様ノ嗜好アルモノナレバ將來ノ見込多シ

第五節 山椒ノ若芽

沿革

賀茂郡ニ於ケル天惠ノ溫暖ナル氣候ハ各種ノ特殊産物ニ富ム同郡三濱村ニ於ケル山椒ノ若芽採收モ著シキ例ナリ三濱村ハ殆ンド降霜ヲ見ザル溫暖ノ地ニシテ山野ニ自生ノ山椒多ク早春其若芽ヲ採收シ明治三十八年頃ヨリ是ヲ東京市神田青物市場ニ販出シツ、アリ而シテ本業創始者ハ同村子浦區小川久五郎氏ナリトス尙駿東郡須走村モコレガ産多キモ未ダ販賣ニ至ラズ

(産地及採收時期) 主ナル産地ハ同村伊濱區ニシテ就中字大久保ハ最モ早生地トシテ重ンゼラル即チ三月月上旬頃ニ至レバ採收シ得可ク其他ニ於テハ多ク三月中下旬頃トス

(採收方法及荷造) 芽葉ノ開展スルニ至リ香氣馥郁タル新緑ノ若芽ヲ枝付三、四寸ノ長サニ缺ニテ町嚙ニ採獲シ是ヲ縦横一尺深サ二寸ノ箱ニ入レ箱ノ底部ニハ青葉ヲ敷キ其ノ上ニ若芽ヲ列ベ更ニ少許ノ青葉ヲ入レ蓋ヲナシテ荷造リス而シテ採收ハ總テ婦女子ノ業トナシ一日五、六十錢採獲シ得可ク今ヤ好個副業トナシ居レリ

(販路及産額) 凡テ東京市神田區多町青物市場ニ販出シ一ヶ年ノ産額四五百圓ニ過ギズト雖モ年々需用増加シ益々有望ナル副業ナランカ

第六節 芝川海苔

沿革

芝川海苔ハ富士郡芝川沿岸上井出村、白絲村、上野村ニテ産セラル、建久四年源頼朝富士卷獵ノ折半野村(現今ノ白絲村ノ一字)遠藤半右衛門ナルモノ之ヲ採取シテ献上セシニ大イニ之ヲ賞美セラレ軍用椀ヲ賜ハ

リ爾來年々二百枚宛ヲ鎌倉幕府ノ末期マデ獻上シ世ニ名高シ後天正十年徳川家康甲斐出陣ノ際同村遠藤主水ナル者再ビ之ヲ獻ジ膳帳ヲ賜ハリタリ其ノ後慶長七年徳川氏ノ領土トナリシヨリ毎年三百枚宛ヲ獻納セシ爲メ半野村一村ハ諸役免除仰付ケラレタリ、即チ獻上ハ七月十一月ノ兩度ニシテコレガ採取期ニハ代官出張セラレ十日間モ滞在シコレガ採取ヲ監督シ出來上レバ箱詰メトシコレニ御幣及ビ芝川海苔御用ノ旗ヲタテ大宮、蒲原府中ノ人足ニヨリ駿府へ届ケラレシト云フ、明治三年禁獻ノ命アリ同時ニ諸役免除モ亦廢セラレ同四年永遠獻納ノ賞トシテ美麗ナル盆三枚及諸紙一駄ヲ賜リタリ往時採取區域ハ幕府ノ命ニヨリ猪之頭村ヨリ流末長貫村マデ總ベテ半野村一村ノ獨占ニシテ他人ノ採取ヲ嚴禁セラレタリシガ明治三年其ノ禁ヲ解カレタリ

爾來沿岸ノ採取スル處トナリ、コレガ權利ハ村有トシ採取者ハ村ヨリ採取權ヲ得コレニ從事スルナリ、然ルニ大正元年頃猪ノ頭水力電氣會社設立以來時々汚水(特ニ油類)ヲ流出スルヲ以テカ海苔ノ産出甚シク減少スルニ至レリ

最近大正四年御大典ノ御時白絲村宇佐見惣三郎氏ハコレヲ獻上セリ

本縣調査ニヨレバ明治四十年以降左ノ如シ

年次	數量	價額
明治四十年	四三	四一八
明治四十一年	三二	二六四

明治四十二年	一一	一一〇
明治四十三年	二二	二五四
明治四十四年	二六	三五五
大正元年	一〇	一八〇
大正二年	七	一五四
大正三年	六	一二六
大正四年	六	二二六

生産地	生産戸數	數量	價額
上井出村	三	八〇〇	一二六
白井村	五	四、二〇〇	二九四
上野村	二	一、〇〇〇	七〇
計	一〇	七、〇〇〇	四九〇

採取法

(芝川海苔産地) 上井出村猪ノ頭ヨリ上野村美ノ口マデガ主産地ニシテ水流急ナル處ノ岩石ニ附着ス殊ニ大水ノ後ハ岩洗ハル、ヲ以テ附着多シ一般ニ東岸ヨリ西岸ノ方附着多シ即チ陽地ヲ好ミ、陰地ハ質柔カカナリ

概シテ白絲、上野産ハ色澤ヨク上井出産ハ色澤稍劣ル

(採取用具) わつばと稱する捕蟲網様ノモノヲ使用ス、口徑一尺ノ竹框ニ長四尺ノ麻布ヲ以テ袋狀ニナシ、一端ヲ竹框ニハメ(コレハ取解自由ニナス事)他端ヲ紐ニテ結付ケ、採取セル海苔ハコノ内ニ入レ採取終レバ竹框ヲ解シ兩端ヲ結ビテ運搬ス

(採取時期) 採取期ヲ二期ニ大別シ夏海苔ハ五月乃至七月秋海苔ハ十月乃至十一月トシ其他ノ時期ハ海苔ノ品質不良ノタメ多クハ採取セズ

(採取量) 昔日ハ平均一日一人三十枚分ナリシガ現今ハ十五枚位分ナリ

(採取税) 白絲村ニテハ採取者五ケ年間ノ採取權ヲ區ニ乞ヒ採取場約二十五丁ニ付一ケ年金五十圓ヲ納付ス上井出村ニテハ入札法ニヨリ採取税ヲ與ヘ大正五年ニハ一ケ年四十五圓二十錢ヲ區ニ納メ區ハ更ニコノ内ヨリ金十五圓ヲ上納シ殘餘ハ學校費ニ流用シツ、アリ、志願者ハ數名連合シテ行フガ多シ

製法

(製造用具) 乾燥用簾、長五尺幅二尺五寸、手袋一枚

蓆 從來ハちがや製ヲ用ヒシガ現今ハ普通ノ蓆ナリ、約十枚ヲ用意ス一枚價格金十錢

木框 海苔ノ形狀ヲ整フモノニテ一尺×一尺五寸ノ容積ノモノ手製ナリ一箇ニテヨシ

乾燥臺 地上ヨリ二尺位高サニ任意ノ場所ニ二本ノ棒ヲ立チ、コレニ棒ヲ横ニ渡シ結着セルモノニテ勿論

手製ナリ

押板 乾燥セル海苔ヲ板上ニ挟ミ、コレニ少シノ重味ヲオク調整用ナリ、自家製

庖丁 海苔ヲ刻ムニ用フ、普通自家用トナス

椀 刻ミシ海苔ヲ木框ニ流込ムニ用フ

(製法順序) 先ヅ乾燥臺ヲ設ケ地上ニ平行ニ簾ヲ乗セ其上ニ蓆ヲ敷キ、清水ニテ洗滌セシ海苔ヲ三四分大ニ刻ミコレヲ任意水ト和シ、椀ノ如キモノニ入レ木框ヲ蓆上ニオキコレニ流シ込ムナリ其工程一日一人ニ付晴天ノ中秋ノ頃ニテ四十枚分ナリ、乾燥時間ハ約一時間、後コレニ少シノ板上ニテ壓力ヲ加ヘ調整ス(製造時期ト海苔ノ性質) 夏ハ腐敗シ易クシテ良品ヲ産スル事ヲ得ズ採取セシモノ二三日ニシテ本質ヲ失フニ至ルモ秋ハ一週間位ハ變化ナク從テ良品ヲ産ス、且、天候ノ如何ハ製造ニ關係スル事大ナレバ天氣ヲ見計ヒコレガ製造ニカ、ルナリ

調整及販賣法

乾燥品ハ十枚一帖トナシコレヲ販賣ス一枚重量ハ昔獻上品ニアリテハ約百匁位アリシモ現今ノ製品ハ三十匁乃至三十四匁ナリ、コレガ價格ハ夏海苔一枚五錢秋海苔七八錢也販賣ハ大宮町ノ商人ニ賣却シ生産者自ラ取引スル事少ナシ

販路及商況

産額僅少ナルヲ以テ販路トシテハ五分富士郡北部地方、三分静岡、二分吉原町ノ比ニシテコレガ商況トシテハ十二月及一月ノ進物用トシテ最モ需用多ク從テコレガ取引ハ其ノ頃最モ多シ

主ナル生産人

富士郡上井出村猪ノ頭 赤池次郎三 同村上井出 井出善太郎
 同郡白糸村宇都野 宇佐見 惣三郎 同村白糸 伊東東太郎 佐野藤太郎
 主ナル取扱商人

富士郡大宮町 河野貫一

静岡市吳服町四丁目 大林利平

收支計算

収入 金一圓〇五錢 芝川海苔十五枚賣却代

支出 金七十七錢

内譯 金五十錢 採取一日ノ日當(男)

金十七錢 税金

金十錢 製造調製手間(女約半日トシ)

差引 金二十八錢 (純益)

將來ノ見込

産量年々減少スルヲ以テ將來ノ見込ナク加フルニ近時芝川沿岸ニハ水力電氣等ノ會社設立セラレ直接ニハ汚水ノタメ海苔ノ産量ヲ減ジ間接ニハ勞働的ノ副業増加ノタメ漸次コノ方面ニ赴クモノ多ク海苔採取者モ

爲メニ著シク減少シ昔時ノ面影ヲ留ムルニ過ギズ

第七節 青海苔

沿革

本縣ニ於ケル青海苔ノ産地トシテ世ニ知ラレタルハ賀茂郡下田町、同郡松崎村、駿河國巴川、榛原郡川崎町、磐田郡太田川等ナリ殊ニ市場ニ名高キハ太田川産ニシテコノ川岸タル豊濱村及ビ福島村ニテハ古來コレガ採集ニ從事シ初メハ自家用乃至ハ見附町等ノ近郷ノ里ニ賣出セシガ明治四十年頃ヨリ縣外マデモ販出セラレ特ニ大正元年頃ヨリ取引盛大トナルニ至レリ

産額

郡町村名	生産戸數	數量	價額	單價	價
磐田郡豊濱村	六一	三〇、五〇〇	一、二二〇、〇〇		
同 福島村	一三	四、六八〇	一八七、二〇		
榛原郡川崎町	三七	九、〇〇〇	九〇、〇〇		
計		四四、一八〇	一、四九七、二〇		一四四

原料

あをのり (Enteromorpha Compressa Grev.) ハ石蓴科ニ屬スル綠藻類ニテ本邦各地ノ淺海ニ産シ殊ニ河口又ハ淡水ノ流入口ニシテ水穩カナル處ニ産スルモノヨロシク長二三寸乃至七八寸ニ及ビ太サハ細キ線金大ヨリ拇指大ニ達ス綠色ニシテ枝狀ニ分岐シ稍扁平狀ナルモアリ、中空ニシテ管狀ヲ呈ス、下端ニ圓盤狀ノ

根狀部アリテ石面又ハ粗朶等ニ附着ス

(採取時期) 十月乃至三月中旬マデナルガ本製造ハ天氣仕事ナルヲ以テ秋季ハ雨多ク且農繁ナルヲ以テ一月乃至二月頃最モ多ク採取ニ従事ス、四月トナレバ色澤香味不良ニシテ一般ノ嗜好ニ適セズ漸ク菓子屋用トシ稀レニ採取スルモアリ

(産地ト性質) 青海苔ハ川口ニ最モ多ク産シ一尋以上ノ深處ニハ産セズ一尋以内ノ深淵ノモノ性質良ク淺キ處ノ産ハ色澤不良ナリ又位置ヨリ論ズレバ川ノ中央ヨク川岸ニ邊セル處ノ産ハ不良ナリ尙洪水ハ甚ダ海苔ノ産出ヲ減少スルモノナリ

(採集器具) 熊手コレハ電信線金ニテ作り柄ニハ二尋半ノ竹ヲ用フ一箇代金四十五錢

採取地ニハ深淵アレバ船ニ乗リコレニ従事ス且採取セシモノハ船ニ載積ス一隻附屬器トモニテ金三十六圓也使用期限五ヶ年若シ借舟ナレバ一日損料金八錢也

(一日採取量) 採取セシモノニハ石ヲ附着スルガ海苔ノミニテハ二人ニテ一舟ノ收量約三〇—四〇束分ナリ

製造方法

採取セシモノハ石及ビ芥等ヲ含有セルヲ以テ川中ニテ海苔ノミヲ分チ海苔ヲ徑三寸五分位ノ玉トナシコレヲ淡水ニテ洗ヒ繩等ニカケ乾燥スコノ乾燥ト天候トノ關係ハ最モ重要ナル處ニシテ製造期若シ嚴寒中ナレバ一日ニ乾燥出來ザル事アルモ差支ヘナキガ他ノヤ、溫暖ナル場合ニカ、ルトキニハ腐敗スルヲ以テカ、

ル海苔ハ廢品トナルナリ

(調整) カク乾燥セルモノハ多クハ夜業ニコレヲ調整ス、調整トシテハコレヲ俗ニ島田ニナスト稱スル方法ニテ島田トハ即チ島田醬ノ如クニ束ヌルナリコノ島田五十箇ヲ一束ト稱シ容積三寸×五寸重量約三十五匁—四十匁ナリ束ヌルニハ藁ヲ用フ一束ノ價格金四錢ナリ

コノ調整法ハ土地ニヨリ一定セズ川崎町ニテハコノ海苔ヲ以テ普通ノ淺草海苔ノ如ク紙狀トシテ出ス者モアリ

(製造工程) 平均一人ニ付五—六束ナリ

販賣取引及販路

生産者ハ多ク仲買人ニ販賣シ自ラ販賣ニ従事スルモノハ婦人ガ近郷ヘ行商トシテ僅ニ出ズルニスギズ仲買人ハ百束位ヲ一俵トシ菰包ミ(菰二枚、八錢、繩一房、二錢五厘)トナシ販路先ニ送ル

販路ハ縣外トシテハ東京ヲ主トシ信州及甲府、豊橋ニテ縣内ニテハ濱松、中泉、見附、袋井、掛川、静岡等ニシテ其販出歩合ハ縣内三分ノ二ニ對シ縣外三分ノ一ナリ

主ナル生産者

- 豊濱村中野 桑原八百藏 加藤周作 加藤善次郎 加藤次平
- 加藤貞藏
- 福島村福田 大澤重太郎 杉浦惣平 山中春吉

取扱人

豊濱村中野 加藤浪二 鈴木直次郎

收支計算

一家五人ノ家庭ニテ青海苔ヲ採取セバ男二人ハ半日採取ニ従事シ午後ヨリ五人全部コレガ製造ニカ、リタ景乾燥セバコレ亦五人ニテ十時頃マデ夜業シテ約三〇―四〇束ヲ製造シ得ルナリ今コレヲ標準トシテ本業ノ收支ヲ見ルニ次ノ如シ

収入 金一圓六十錢 青海苔四十束賣却代

支出 金十三錢三厘八毛

内譯 金八錢

船損料

金五錢

炭代(炭中採取ノトキハ船中ニ炭ヲ以テ燃ナトルコトアリ)

金三厘八毛

税金(年税金三十八錢ヲ納付ス採集日ハ年約百日トセバ一日三厘八毛ナリ)

差引 金一圓四十六錢六厘二毛 (益)(一家ノ收入)

故ニ平均一人ニ付金二十九錢ノ日當トナル

將來ノ見込

青海苔ノ需用ハ廣ク一種ノ調味量トシテ將來ノ見込多シ殊ニ本業ハ農閑期ニ従業シ得ベキヲ以テ前記産地ニ於テハ薬細工(繩)ヨリ収益多シトナシ一月乃至三月ニ涉リコレニ従事スルモノ多キシサレドモ冬期中

ノ業トテ下級農民ノ外ハ従事セズ故ニ青海苔産地ニアリテハコレガ採取ハ下級農民ノ副業トシテハ適當ナル業ナリ

第八節 はゞのり

沿革

本縣ニ於ケルはゞのりノ産地ハ榛原郡及ヒ賀茂郡ニシテ榛原郡御前崎附近ノ産名アリ、同地方ニアリテハ昔ヨリ自家用トシテ漁民ノ採集セシ處ナルガ明治四十二年頃ヨリ一販賣品トナリ該地方ニアリテハ冬季ニ於ケル好副業ナリ

産額

産地	生産戸數	數	量	價	額
榛原郡 御前崎村	五〇		二五、〇〇〇		二五〇
同 白羽村	一		二、五〇〇		二五
同 地頭方村	一		三、〇〇〇		三〇
計			三〇、五〇〇		三〇五

原料

はゞのりハ産地ニ於テハ方言はゞト稱ス、褐藻類囊海苔科ニ屬シ學名ヲ *Endarachne Binghamiae* J. Ag. ト云ヒ御前崎附近ノ如キ波浪荒キ土地ノ干満線間ノ岩上ニ生ズ

(採集時期) 一月上旬乃至二月ヲ佳トスコレコノ頃ハ柔カニシテ味ヨシ他ノ海苔ト採集方法ヲ異ニスル

ハ日中採集スルニアラデ夜九時乃至十二時頃ノ干潮ノ間ニ行フニテ何レモ婦人ノ作業ナリ

(採集量) 一人平均一夜ニ於ケル採集量ハ生ニテ六七貫ヲ普通トス、コレニテ海苔約六十枚ヲ作ルヲ得

製造方法

採集セルモノハ翌朝淡水ニテ洗ヒ甘藷切干用蒸籠ニ蒸ヲ敷キコレニ其儘表一尺四寸幅一尺一寸五分大即チ蒸籠へ二枚揃ベノ割ニナラベ乾燥スル事約一晝夜ニシテ製造終ルナリ一枚ノ價格金七厘乃至一錢五厘ナリ

販賣法及販路

地頭方村或ハ相良等ヨリ仲買人「はゞ」ないかねト呼ビツ、産地附近ヲ歩クモノアリテコレニ生産者ハ賣却スルヲ普通トス、販路ハ相良町ノ外小笠郡横須賀町、掛川町等ニテ大正六年ニハ三河國牛久保地方ニマデ輸出セラル、ニ至ル

主ナル生産人

御前崎村上御崎 松 林 虎 十 川 口 清 十 山 崎 貫 右 衛 門

經濟的概況

生産地ニ於ケル經濟的概況ハ農六分海四分ノ歩合ニシテ農業的収入トシテハ甘藷切干ヲ主トシ麥ヲ副トス然シテ水産的収入四月乃至十月最モ多ク十一月乃至三月ハ少ナシ採集者ノ家庭ハ平均漁業的収入百〇二圓農業的収入百十圓計二百十二圓位ノモノ多シ然シテはゞのり採集時期ハ農閑期ニシテ且收入殆ド皆無ノ頃

ナリ此ノ時ニ當リ本業ノタメ一夜僅カニ三時間ニテ四十錢乃至六十錢ノ収入アルハ經濟上ニ及ボス處大ニシテ一家ニ於ケルはゞのりノ収入年三―八圓ナリ

第九節 あらめ(食用)

沿革

あらめハ一名さがらめト稱シ昆布科ニ屬スル海藻ニシテ古來榛原郡相良ノ産名アリ遠江國風土記傳卷十三ニ曰ク「大江郷村十五屬海興山、屬海村、産荒和布、トアリ、安政ノ頃相良町大江區及片濱區ハコレヲ採集權利上ノ事ヨリ大争闘アリテ當時江戶ニマデ出デコレヲ裁判ヲ行ヒシ奇談アリ現今ニハ特ニあらめ業組合株式ニヨリ設立セラレ組合員約百名ヨリナリ大江ニコレヲ採集船三十五舟片濱ニ六〇舟アリ

産額

生産地	採收戸數	數量	價額	單位價
榛原郡相良町	100	3,000	3,000	10
同 御前崎村		5,000	400	8
計		35,000	3,400	

採收法

採收時期ハ三月下旬乃至四月中旬ノ頃天候良好ナル時コレヲ採收ス其方面等沃度ノ條參照スベシ

主ナル採集者

榛原郡相良町大江 神谷光八 安倍久五郎 今村善六

販路

縣内ニシテ清水、沼津、静岡、濱松主ナリ

第十節 わかめ

沿革

榛原郡ニテハ古來あらめト共ニ其産名高ク遠江國風土記傳ニ「海産若藻、阿良米、心太、相良海老、鯛、鰻、優ニ他郡、トアリ相良ノ産最モ名アリ」

産額

産地	採集戸數	數	量	價	額
榛原郡相良町	100戸		10,000		2,857
同 地頭方村			10,000		2,857
計			20,000		5,714

採收法

採收時期ハ春彼岸採收シ其方法五十尋ノ繩ニテ縛リ取ルナリ本藻ハ砂ヲ塗布セルガ特徴ニテコノ砂ヲ塗布セルモノハ色澤青色ヲ帯ビ若シコレヲ塗布セザレバ黒色トナル一日一人採集量ハ乾燥品ニテ十五六貫(砂ノ附着ノマ、ニテ)乾燥セバ又砂ヲ塗布スルモノナリ

主ナル採集者

榛原郡相良町 矢部 宗作 今村 八郎右衛門

販路

あらめニ同ジク清水、沼津、静岡、濱松主ナリ

第九章 包装類

第一節 竹皮

沿革

竹皮ハ從來特種部落ニ於テ草履用トシテ需用多カリシガ明治二十年頃ヨリ包装用トシテモ廣ク歡迎セラレコレガ需用益増加セルガ明治四十年頃ヨリ縣下有名ノ竹林ハ自然枯病ノタメ殆ド淡竹ハ全滅ノ状態ニ陥リ爲メニ竹皮ノ産出モ大イニ減少スルニ至レリ

産額

郡町村名	數	量	價	額	單價(一貫)
榛原郡勝間田村		1,000		125.00	12.5
同 坂部村		300		37.50	12.5
同 初倉村		1,000		200.00	20.0
同 金谷町		1,000		200.00	20.0
計		5,000		762.50	15.25

第九章 包装類 第一節 竹皮

同	小笠	同	周智	同	磐田	同	引佐	計
五和	河城	佐東	飯田	森田	廣瀬	下阿多	西濱	
村	村	村	村	村	村	村	名村	
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	一〇六、〇〇〇	一、五六三、五〇〇	
二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	七八		

採集法

(採集時期) 採集時期ハ六月中旬乃至七月中旬ニシテ六月中旬頃ヨリ同下旬ニカケ採集スルハ根部附近ノ皮ニテ七月上旬乃至七月十日頃マデノモノニ中央部ノ皮七月十日以後ニ採集スルモノハ上部ノ皮ナリ

(採集量) 本採集ハ子供或ハ老人ニヨリ多ク行ハレ一日約十貫目ヲ採集スル事ヲ得ベシ然シテ一本平均二十枚ヲ産ス

(調整) 採集セル皮ハ根皮及中皮ハ三乃至四日間上皮ハ一日乃至半日位乾燥シ榛原郡勝間田村ニテハ根皮及中皮ハ一纏シ一束一貫五百匁位トナシ上皮ハ一貫目一束トナシコレヲ仲買人ニ販賣ス然レドモ多クノ生産地ハ唯乾燥後コレヲ取纏メオクニ過ギズ

(採集者) 採集時期ハ産地ニヨリ製茶或ハ田植等ニテ農繁時代ナルヲ以テ所有者ハ自然コレガ採集ノ餘カナシ故ニ老人或ハ子供ノ作業トナスモノ多シ、然レ共生産地從來ノ習慣トシテ竹林所有者ハカヘリテコ

レヲ採集セス附近ノ細民ニ採集セシメツ、アリ

竹皮ノ價格

年ニヨリ又處ニヨリ甚ダ不同ナリ大正五年ニ於ケル相場ニヨレバ各一圓ニ付左ノ如シ

生	産	地	數	量
榛原郡	勝間田村	附近	六貫目	乃至十二貫目
同	金谷町	附近	上等二貫五百匁、	下等六貫目
小笠郡	佐東村	附近	六貫	乃至七貫
周智郡	森田町	附近	上(一尺二寸以上)	六貫、下(一尺二寸以下)
磐田郡	廣瀬村	附近	五貫	乃至七貫、枝皮二貫
同	下阿多古村	附近	十貫	乃至十二貫
周智郡	西濱名村	附近	十二貫	

主ナル生産者

榛原郡	勝間田村	切山	村松平四郎	加藤知十	樽林幸右衛門	松本儀八
榛原郡	金谷町	神谷城	小關圓六	増田源三		
同	五和村	志戸呂	細川數雄	同	横岡勝邊	勝邊藏
同	初倉村	湯日	渡邊勝五郎			

小笠郡河城村富田	鈴木廣市	落合儀八
同 佐東村高瀬	鶴藤鍋太郎	
周智郡森町	山中七平	太田 忠右衛門
同 飯田村	村松猪太郎	村松加藤次
	坂中孫作	鈴木孫四郎
磐田郡廣瀬村平松	水野忠四郎	水野 八木太郎
同 下阿多古村青谷	渥美作平	梅原作平
同	兩島	松田平次郎
取扱人		
志太郡藤枝町河原町	青木與吉	
榛原郡金谷町	山田敬助	牛村實三
周智郡森町本町	村松保平	
磐田郡二俣町	太田屋	
同 下阿多古村青谷	高林佐十	

良品ハ前記取扱者ニヨリ東京、名古屋方面ニ輸出セラレ下等品ハ生産地附近ノ特種部落ニ於テ需用セラル

包装用問屋トシテハ東京市神田區鍋町室辰五郎、日本橋區新石町秋山彌三郎、京橋區南八丁堀中村卯之助名高ク履物用即チ枝皮問屋トシテハ東京淺草區吉野町東村富吉、同龜岡町田中伊三郎、同江崎三郎名アリ

將來ノ見込

包装用トシテハ古來食料品包装用トシテ需用多大ナリシガ數十年前全國竹林ニ自然枯病發生シ大恐慌ヲ來シ營業者大ニ狼狽ヲ極メシ事アリ此ノ時ニ當リ竹皮代用品トシテ木片材料ノ薄皮即チ經木盛ニ産出セラレ且價格ニ於テ廉價ナリケレバ菓子屋ノ如キ東京市内ハ悉ク經木ヲ使用スルニ至レリ然レドモ賣肉或ハ味噌すし等ノ包用トシテハ經木ヲ代用スルヲ得ズ故ニ包装用トシテハ竹林ノ衰退ト共ニコレガ用途減少セリト云ヘドモ尙將來ノ見込多シ履物表用トシテハ古來南部表ト唱ヘラレ聲價頗ル高ク其他一般草履用トシテ需用甚ダ多シ故ニ竹皮ノ用途ハ將來益見込多キ處ナリ

第二節 柏葉

沿革

田方郡熱海町稻村ニテハ柏餅製造上必要ナル原料ノ柏ノ葉ヲ明治三十年頃ヨリ東京へ輸出シ又賀茂郡稻取村宇久須村兩村ニ於テモ明治三十一二年頃ヨリ産シ婦女子ノ餘業トナシ京濱地方ヲ始メ近クハ沼津地方ニ輸出シツ、アリテ同郡仁科村ニテモ明治四十三四年頃ヨリ産スルニ至レリ

産額

郡町村名	生産戸數	數量	價	額	單價
賀茂郡稻取村	三	一、五〇〇		一、九五〇	一三〇
同 宇久須村	五	一、三〇〇		一、六九〇	同
同 仁科村	一	二〇〇		二六〇	同
田方郡熱海町	一	一五〇		二二五	一五〇
駿東郡靜浦村	一	一〇〇		一八〇	一八〇
計	一一	三、二五〇		四、三〇五	

產地

柏ハ前記町村ノ山野ニ自生スルモノニテ就中賀茂郡宇久須村、保田洞及稻取村入谷田方郡熱海町伊豆山稻村地方最モ多シ

採收時期及採收方法

柏ノ若葉充分開葉シ葉肉ノ著シク硬化セザル時即チ五月下旬ヨリ七月上旬頃迄ニ採收ス、適期ハ葉ノ長サ五寸幅四寸内外ニ生育セシ時ニテ即チ五月下旬ヨリ向二十日間ナリ之ガ收穫ニ際シテハ蟲害ナクナルベク圓形ノ葉ニシテ一枚ヅ、叮嚀ニ採收スルニアリ採集セシ葉ハ把トナス可ク賀茂郡ニテハ葉ノ中央ニ木綿糸ヲ通シテ千枚一把トシ田方郡ニテハ葉ノ上部ニ木綿糸ヲ通シテ二百枚一把トナス、採集者ハ何レモ婦人及子供ナリ

採集量及價格

一日ノ採集量ハ原料ノ良否及採收ノ難易ニヨリテ異レドモ賀茂郡ニテハ多クハ十貫目普通七八貫目田方郡ニテハ一日一人ニ付千二百枚乃至五千六百枚ナリ、然シテ熱海町稻村附近ノ柏樹ハ高三尺内外ノ小樹ニシテ一本ニ付約五十枚ヲ採收シ得ベシ
生葉ノ價格ハ賀茂郡ニ於テハ一貫目八錢内外、田方郡ニテハ二百枚ニ付二錢五厘ナリ

製造法

把トナシタル葉ヲ蒸籠ニ入レ十五分乃至二十分蒸熟ス然ル時ハ葉少シク黃褐色ニ變ジ生葉ノ色ヲ失ヒタル時ヲ適度トシ蒸熱了ラバ直チニコレヲ陽干スル事田方郡ニテハ三日賀茂郡ニテハ四五日夜間モ其ノマ、放置シ充分夜露ニ曝シテ其色澤ヲ良好ナラシメ乾燥セシ葉ハ光澤アリテ黃白色ナルヲ最モ優品トス田方郡ニテハ晴天三日乾燥後空氣ノ流通不良ナル處ニ(物置ノ如キ)五日間放置シ茲ニ所要ノ葉ノ製造完了スルモノナリ、而シテ生葉一貫目ニシテ乾燥葉三百二十枚ヲ得ベシ

(製品ノ價格) 賀茂郡ニテハ一俵(三貫目)一圓二三十錢田方郡一萬枚ニ付一圓五十錢乃至一圓八十錢

荷造及販路

乾燥セシ葉ハ凡テ俵詰トナス俵ハ賀茂郡ニテハ酒樽ノ蓋ヲ用ヒ蓋ノ兩側ヲ縛シテ之レニ十七八萬枚ノ葉ヲ入レ俵ノ兩端ハ酒樽ノ蓋ヲ八ツ切りニナシタル一枚ヲ棧俵トナシ其ノ上ヲ米俵ノ如クカワリヲ行ヒテ俵裝ス之レガ重量ハ三貫目ヲ標準トシ風體ハ六、七百目アリ、田方郡ニテハ炭俵ヲ用フ即チ炭俵二俵ヲ以テ一俵ニ作リコレニ一千枚ヲ入レ兩端ニハ棧俵ヲ用ヒテ荷造スコレガ費用ハ一俵ニ付一錢五厘棧俵二錢繩一錢

計四錢五厘ヲ要ス

販路ハ東京芝、日本橋、麻布、麴町、淺草等ナリ

販賣取引及輸送

コレガ用途ハ五月節旬用ナルヲ以テ三乃至四月ノ頃最モ多シ取引ハ東京着何程ニテ行ハレ先方ノ注文ニヨリ出荷ス熱海町稻村ヨリ東京マデノ輸送並ビニ費用ハ熱海マデ約一里荷馬車(俗ニ馬カト云フ)ニテ熱海港ヨリハ汽船ニテ出ス荷馬車賃一俵ニ付二錢五厘、船賃一俵ニ付(はしけ共)二十一錢ナリ

收支計算

收入 金一圓六十錢 柏葉製品一萬葉賣却代

支出 金一圓三十五錢

内譯 金一圓二十五錢 生葉一萬葉購入代

金十錢 燃料

差引 金二十五錢 (益)

主ナル生産人

- 賀茂郡稻取村 前田花吉 鈴木啓吉 渡邊長藏
- 同 宇久須村 神谷吉松 山本七三郎
- 田方郡熱海町稻村 櫻井仲次郎

駿東郡靜浦村多比 笹原善四郎

經濟的概況及將來ノ見込

コレガ採集期ハ麥刈其他ノタメ農繁ナル時期ナルヲ以テ廣ク行フ事困難ナルガ本採集ハ婦人及子供ノ作業トシテハ適當ナル副業ナリ故ニ採集者ハ一日十五錢乃至八十錢ノ口當トナリ一戸一ケ年ニ於ケル柏葉採集ニヨレル收入五六圓アル家ハ少ナカラズ故ニ熱海町稻村ノミニテモ約二三十人ノ採集者アリテコレヲ同地ノ製造家櫻井仲次郎ニ供給シツ、アリ故ニ伊豆地方ニ於テハ隠レタル婦人ノ好副業ニシテ將來ノ見込アル業ナリ

第二節 櫻葉漬

沿革

櫻餅原料トシテ賀茂郡ニテハ明治二十九年頃ヨリ同郡三濱村子浦、渡邊平次郎氏ニヨリ京濱地方ニ輸出セラレ殊ニ明治四十二年來盛大トナリ、郡下三濱、三坂、田子ノ諸村ニ於テ婦女子ノ副業トナシ遠ク京濱及名古屋地方ニ輸出シツ、アリ

産額

生産地	生産戸數	數量	價	額	單價
賀茂郡三濱村	一	一、五〇〇		四、五〇〇	
同 三坂村	一	一九		五七	
計	二	一、五一九		四、五五七	

採收時期及採收方法

春季開葉スルヨリ落葉前迄ナリト雖モ是ガ適期ハ葉肉ノ甚ダシク固マラザル五六月ノ交ニシテ薪炭林用ニ伐採シ未ダ充分生育セザル五六月ノ交ニシテ三四年ノ若木ヨリ收穫ス可ク之ガ採收ニ當リ最モ注意スベキハ病蟲害ノ被害ナク圓形ニシテ且ツ大ナル葉ヲ撰ビ葉柄ヲ附シテ一枚ヅ、叮嚀ニ採收シ五十枚ヲ一把トナシ蘭草又ハ茅ノ若葉ヲ以テ葉ノ中央ヲ縛ス而シテ一日ノ採集量ハ原料ノ良否及採收ノ難易ニヨリ異リ先ヅ百五十把乃至二百把ヲ普通トス而シテ採集シタル葉ハ凡テ櫻葉仲買人ニ賣却シ一把二厘位ノ價格トス

鹽漬方法

葉ノ大小及良否ヲ撰別シ酢樽ノ空樽ニ鹽漬トナス先ヅ葉ハ葉柄二三分ヲ殘シテ其餘ハ缺ニテ剪除シ樽ノ底部ヨリ順次縱漬トナシ少量ノ鹽ヲ入レ前同様積ム事十回樽ニ充ツルニ至レバ最モ上部ニハ多量ノ鹽ヲ入レ一樽ニ對シ全量ヲ五六舛トナス可ク更ニ樽ノ七、八分目迄水ヲ注ギ中蓋ヲナシ十五貫乃至二十貫ノ重石ヲ置キ一晝夜其儘放置ス翌日ニ至レバ重石及中蓋ヲ除キ葉ノ最モ上部ニ鹽俵ノ菰ヲ一枚布キ其上ニ幅一、二寸ニテ格子ニナリタル蓋ヲ置キ更ニ鑑ヲナス即チ葉ト鑑ノ間ニ二、三寸ノ空隙ヲ存セシム可ク而ラザレバ蓋ニ接觸シタル部分ノ葉ハ黑色ニ變ジ使用スル事能ハザル可シ樽詰後四、五日間ニシテ鹽水ノ減ズルヲ以テ直チニ鹽水(水一斗ニ對シ鹽一舛)ヲ葉ノ全ク浸タ、ル程度ニ鑑ノ大口ヨリ注入シ爾後十日位ニテ再ビ鹽水ノ減ズルヲ見レバ前同様鹽水ヲ入レ更ニ一回鹽水ヲ加ヘナバ全ク鹽漬ヲ終リ腐敗又ハ葉ノ黑色ニ變ズル事ナキヲ以テ始メテ各需用地ニ輸送スル事ヲ得

販路及價額

前記セシ如ク東京横濱、小田原、名古屋地方ハ主ナル販路ニシテ各地ノ漬物商ニ賣却ス一樽金三圓也

第十章 切花類

第一節 櫛 (一名香花)

沿革

佛前手向用トシテ櫛ヲ用フル本朝風習上古來行ハレ伊豆ノ産最モ有名ナリ、殊ニ加茂郡城東村大川ノ産ハ最モ名高ク昔ヨリ江戸ニ輸出シ特ニ櫛ヲ載積セシ帆船ヲ花船ト稱シ明治二十七八年頃マデハ盛ナルモノナリキ又田方郡修善寺村大澤モ昔ヨリ江戸ニ輸出セリ當時修善寺産ハ馬ニテ網代港マデ運搬シ同港ヨリ帆船ニテ江戸ニ出セシナリ之ヲ多賀村等ニテ見維新前ヨリ多賀村ヨリモ輸出セラレシガ明治維新ノ頃ニハ物騒ナリシ爲一時中止シ同村下多賀附近ハ爲メニ櫛ヲ伐採シ木炭トセシトノ事ナリ然ルニ明治十四五年頃ヨリ再興シ現今採伐シ居ルモノハ伐採セシ當時其果實ノ落チシガ生長セシモノナリ、次ニ同郡對馬村産ハ明治十年頃ヨリ輸出シ、中大見村ハ明治四十年頃ヨリ輸出セラレ何レモ東京ニ輸出ス最近東京市中ノミニテ需用セラル、櫛ノ價額ハ年約二萬圓ニシテ内半分以上ハ本縣産ニテ田方郡ハ其主産地ナリ。

産額

郡町村名	採收戸數	數	量	價	額	單	價
賀茂郡城東村	五〇		四、〇〇〇		九六〇		二四
田方郡對島村	三〇		三、〇〇〇		七二〇		二四
同 小室村	三〇		二、〇〇〇		四八〇		二四
同 中大見村	三		三五〇		九三		二六
同 多賀村	一〇〇		一〇、〇〇〇		二、六〇〇		二六
同 熱海町	三〇		三、〇〇〇		七八〇		二六
計	二四三		二二、三五〇		五、六三三		二六

採收方法

(採收時期) 七月乃至四月ノ頃ナルガー、二、三、九、十一、十二、ノ諸月多ク特ニ三月、九月彼岸用トシテ採收スルモノ最モ多シ七月盆會用ノモノハ養蠶家ノ忙シキ頃ナルヲ以テ採收者甚ダ少ナシ、但シ五、六兩月ハ新葉未ダ柔カナルガタメ採收セズ。

(採收規定) 採收ハ一種ノ入札法ニヨリ行ハレ田方郡多賀村ニテハ五ヶ年一期トシテ入金シ其料金ハ一ヶ年一九ニ付九錢ノ割ナリ、近時東京橋商人ニヨリ多ク入札セラル、モノ多シ田方郡中大見村ニテハ八十町歩ニ對スル山代年三十圓ナリ。

(採收量及採集) 一日一人ニ付産地其他ニヨリ一定セザルモ、賀茂郡城東村大川ニテハ女多クコレニ従事シ小東四〇乃至五〇東田方郡對島村ニテハ七八十束ナリ採集スルニハ生産家人足ヲ用ヒ一日日常金六十錢乃至八十錢(盆最モ高シ)ヲ給シ又細民ノ採集セルモノヲ購入スルコトアリ、一東田方郡對島村ニテハ

六厘中大見村ニテハ一九十錢ニテ購入ス。

調整及荷造

採收セシモノハ先ヅコレヲ小束ニナス小束ハ長二尺五寸乃至二尺八寸周圍八寸五分前後(中大見村ニテハ一握ト指三本、其他地方ハ一握ト指一乃至二本ノ大サナリ)ニシテ本數ハ十二乃至二十二本初メ藤蔓ニテ縛リ後細繩ニテ三巡リ縛ル繩一小束ニ付長二尺二寸乃至二尺三寸ナリコレヲ交互ニ十六束一纏トナシ一九トス但シ一九トナス前ニハ豫メ小束ノ内ニ二三晝夜水ニツケ然ル後行フナリ、カクテ發送ニ際シテハ上ニ藥ヲカケ新芽ノ時ハ特ニ菰ヲカケ出スナリ

輸送及諸掛

田方郡中大見村産ハ二〇九ヲ馬力車ニテ伊東町ニ出シコレヨリ汽船ニテ東京ニ出ス、馬力車一臺ノ運賃中大見村鈴川ヨリ伊東町マデ一圓二十錢即チ一九ニ付十六錢ヲ要ス、舟賃其他ハ商店持チナリ、同郡對島村産ハ字池ヨリ八幡野マデ馬ニテ運搬ス一馬ノ載積量ハ六乃至七丸ニテ一九ニ付五錢ノ運賃ヲ要ス、

主ナル生産者

賀茂郡城東村大川、山田恭平
 田方郡對島村池、安達喜作、同村八幡野、稻葉次郎吉、同郡小室村十足、大川宇平、同郡多賀村、上多賀、遠藤金平、小松爲作、山田國作、同村、下多賀、相磯儀作、同郡中大見村徳永、杉本伊左衛門、杉山與平、同村鈴川、杉本鶴吉

主産地

賀茂郡城東村大川、田方郡對島村池、同郡小室村萩、十足、吉田、同郡伊東町鎌田、同郡多賀村、同郡熱海町泉

販賣取引及販路

東京問屋ノ注文ニヨリ取引スルモノニテ汽船渡シ法ニヨリ行ハル故ニ生産家ハ附近ノ港マデノ諸掛ヲ出シ取引スルモノニテ注文最モ多キハ、春秋彼岸、盆會、年末ノ四期ナリ販路ハ何レモ東京ニシテ淺草區最モ多ク牛込、小石川、深川コレニ次ギ日本橋京橋ノ外ハ何レモ販路地ナリ主ナル東京ニ於ケル取扱者ハ左ノ如シ

東京淺草區松葉町、丸山恭助、同區山谷町、古島文次郎、小石川區竹早町、内田龜吉、麻布區木村町九一、佐藤金五郎

收支計算

田方郡對島村調査

收入 金七十二錢

棉三九賣却代

支出 金四十五錢三厘

内譯 金二十八錢八厘

棉三九購入代

金十五錢

運賃

金一錢五厘

繩代

差引金二十六錢七厘

(益)

經濟的概況

棉ノ採收ハ多ク婦人ニヨリ行ハレ一日採收價格四十錢乃至四十八錢(一束金六厘)ナリ故ニ婦人ノ副業トシテハ適切ナルモノナリ即チ産地ニ於ケル細民ハ多ク副業トシテハ労働人夫、炭焼位ニシテ婦人ノ如キハ一日金二十錢位ノ收入アルノミ然ルニ本業ハ前記ノ如ク收益多シ故ニ生産地ニ於ケル從業者ハ農事ノ收入七ニ對シ棉ノ收入三ノ比ニシテ農業トシテハ養蠶五、農三ノ比ノ家庭多ク細民トシテハ農業的收入二、労働的(人夫)收入五、棉收入三ノモノ多シ故ニ本業ハ農家ノ經濟上ニ及ボス處大ナリ

將來ノ見込

本朝風習一變セザル限リハ棉ノ用途ハ減少スル事ナク幸ニ伊豆城東村以北熱海町ニカケテノ海岸地方ニハ棉ノ野生セルモノ甚ダ多シ故ニコレガ採收業ハ農家副業トシテハ適切ナルモノナリ現ニ從業者ノ談ニヨレバ伊豆東海岸地方ハ杉ノ栽植ヨリ棉ノ栽植ノ方利多ク反當六百本ノ棉ヲ栽植セバ十年生トナリ一町歩ニ付年ニ八九百圓ノ收入アリト云フサレバ神奈川縣足柄下郡ニテハコレガ一種ノ造林地アリト最近東京市ニ於テ需用セラル、棉ノ數量ハ六萬丸ニテ内神奈川縣(足柄下郡宮下、宮上、梶屋、地方)一萬五千丸、東京府下一萬五千丸ノ供給アル外ハ全部本縣産ナリサレバ伊豆ノ棉ノ産額ハ日本一ニシテ將來ノ見込多シ

第二節 ひさかき

沿革

明治維新ノ頃東京下谷區稻荷町ニ神問屋アリ後神田ニモ一種ノ依托問屋出來シモコレ亦中止トナリシガ東京ニテハ古クヨリひさかきヲ取扱ヒシ商店アリ現今東京市内ニ於ケルひさかき需用高ハ年約十萬丸ナリト云フ扱本縣ヨリ東京ニコレヲ輸出スルハ田方郡田中村及ビ多賀村ナリ多賀村ニテハ大正三四年頃ヨリ橋輪送ガーノ誘因トナリひさかきヲ輸出スルニ至レリ

産額

産地	生産戸數	數量	價額	單價
田方郡多賀村	三	二〇〇〇丸	五六〇圓	二八錢

採收方法

採收時期ハ櫛トホト同様ニシテ春秋彼岸、盆會ノ頃最モ盛ナリ然レドモ四時多少ヅ、ハ採收シツ、アリ一日ノ採收量ハ一人ニ付平均五九ナリ採收ニハ山代ナシ

調整及荷造

調整ハ櫛ト大差ナキモ一九ノ大サ櫛ヨリモ大ニシテ櫛ノ約一九半ノ量ガひさかきノ一九ナリ、コレガ荷造リモ亦前者ニ類スルモ包装ハ菰包ミトナス事ナリコレガ運送其他ハ櫛ニ同ジ

收支計算

収入 金一圓四十錢 ひさかき五九賣却代

支出 金八十一錢五厘

内譯 金七十五錢 ひさかき五九購入代

金六錢五厘 荷造費

差引 金五十八錢五厘 (益)

生産人

田方郡多賀村、上多賀、山田國作、遠藤金平、下多賀、相磯儀作

販路及取扱人

東京コレガ取扱人ハ東京芝區神明町一番地梁田宗作ナリ

用途

櫛代用ニシテ又香花代用トシテ墓地ニテ手向用トナス

將來ノ見込

用途香花ニ同ジナルヲ以テコレガ將來ニ於ケル見込モ亦類スルモ香花ニ比シ用途少ナキモノナリ

第三節 菊 (切花用)

沿革

切花用菊ノ産地トシテ名高キハ庵原郡西奈村瀬名ナリ同地ニテハ明治維新ノ頃ヨリ農家ノ副業的ニ菊ヲ栽培セシモノ四、五戸アリシガ明治三十五六年來盛トナリ大正四年ニハ東京妙華園ニマデ送りシ程ナリシガ

運賃ノ都合上不成績トナリシモ静岡市ヘハ盛ニ販出セラレツ、アリ瀨名小字新田渡邊慶助幕ヶ谷望月定吉ノ兩氏ハ最モ古キ栽培者ナリ

産額

生	産	地	戸	數	栽培	反	別	生	産	價	額
庵原郡	西奈村			四〇				四反			11,000

栽培法

菊ノ栽培ハ多クハ茶園等ノ間作ニ行フモノ多キモ普通畦間三尺乃至三尺五寸株間一尺ノ比ニ栽培シ、一株ニ付一〇乃至一五本ヲ出サシム肥料ハ元肥ハ鉢粕、種粕、追肥ニ人糞尿ヲ施用シ多クハ元肥ハ五六月ノ頃反當鉢粕五〇貫、種粕四十八貫、追肥ハ時々ニ三四倍ノモノニ〇荷ヲ施ス但シ蓄出デシ後ハ施肥セズ手入トシテハ移植シ一本仕立ナレバ腋芽ヲカク事竹杖ヲ沿フ事ニテ竹ハ六月頃ヨリ用ヒ一株三本ヲ反當竹代約二十圓ヲ要ス然シテ竹ノ使用期限ハ五六ヶ年ナリ

病害トシテハ斑點病、赤澁病、多ク斑點病ハ六月乃至九月頃ヨリ赤澁病ハ八月九月ヨリ出デ晩生種ニ多シ白葉澁病ハ少ナキモ十月以後ニ發生スル事アリ、コレ等豫防法トシテハ土用前三斗式石灰ぼるどう液ヲ用フルモ汚點多クあんもにあぼるどう液ハ藥量多キヲ以テ施用シ難シ虫害ニハ赤壁蝨蚜蟲さくすい根切蟲多シ

(品種) 約三百種モアラムモ普通ナルハ泰山白、泰山黃、蜀光、黃化鳥(一名幸さん)十二一重、七福神白玉等ナリ一般ニ晩生種多ク中生種コレニ次グ

品質ト嗜好

葉密生シ莖ノ優柔ニシテ花梗短カキヲ佳トス然シテ花色ハ白及黃ヲ上品トシ其他ノ變色品ヲ忌ム、用途上祝儀用トシテハ葉ノ如何ニヨラズシテ花ノ美ニヨリコレヲ貴ビ左ノ種類ハ上等品トス

天盃、青山霞、秋山榮、秋山紅、延壽、司、男山、養老酒、長生花、遊蝶花、聰明ノ月

株花調整及價格

採花ハ午後四時過ギコレヲ行ヒ夜間普通十本一束トナシ調整ス然シテコレガ價格ハ一束ニ付次ノ如シ

早生種(十月上旬)(君影、黃金ノ雲八朔)十一十五錢

中生種(十一月上旬)上、一〇錢 中 六十七錢 下 四十五錢

最下二錢 (蜀光ノ錦ハ金二十錢)

晩生種(十一月下旬)中生種ニ準ズルモ最晩生種タル白色寒菊八一十四錢ナリ

販路及販出法

販路ハ静岡市ニシテ販賣ニハ生産人多ク二三時頃ヨリ起キ早朝出發静岡市ニテ夜明ケル丁度ニ出デ毎戸ニ付テ小賣ヲナスカ又ハ切花店ニ卸賣ス、時ニ静岡商人ノ生産地ニ買出シニ來ルモアリ

收支計算

栽培ニ年目以後ニ於ケル計算

收入 金八圓

十五坪ニ栽培セル切花賣却代

支出 金三圓十七錢

内譯 金二圓

金十七錢

金一圓

差引 金四圓八十三錢

主ナル生産人

庵原郡西奈村幕ヶ谷、望月定吉、望月長作、同村新田、廣野久作、山崎善七

將來ノ見込及經濟的概況

コレガ採花期ハ生産地ニアリテハ三番茶既ニ終リ稻ノ收穫ニハ尙ホ餘日アル頃ナレバ所謂農閑期ナリ、殊ニ本植物ハ茶園等ノ間作ニモ適スルヲ以テ生産地ニアリテハ某氏ノ如キ全收入千五百圓ニ對シ内約三百圓ハ菊切花ニヨル收入アルモノアリ故ニコレガ經濟上ニ及ス處大ナリ加フルニ近時切花ノ需用増加ニツレ將來ノ見込多シ

第四節 静岡市ニ於ケル剪花

沿革

明治二三年頃市内研屋町土手通りニ酒井ちかナル者油類販賣ヲ業トシツ、アリシガアタカモ同家ハ顯光院ノ前ニ位スル故日々ノ參詣人ノ剪花ヲ携ヘテ出入スルモノ數多アリシカバちかハ剪花販賣ノ有利ナルヲ思

ヒコ、ニ剪花ノ販賣ヲ開始セリコレ静岡市ニ於ケル斯業ノ初メナリトス以前ハ附近村落ノ農家ガ専ラ市内ニ供給シツ、アリシナリ（目下ちか死去後同人ノ子みち同業ヲ繼續シツ、アリ）續イテ四五年後鷹匠町一丁目ニ通商「花屋」ト稱スル同業者出來（今ハ絶エテ跡ナシ）漸次人口ノ増加ト人心ノ向上トハ是等草木花ノ需用増加シ以テ現今ニ至レリ

市内ニ於ケル草花類需要ノ狀況

草花類ノ主要ナル用途

- 一、神佛へ供へル爲メ
 - 二、活花用
 - 三、葬式用 花環花玉作成ノ爲メ
 - 四、諸祝儀宴會ニ用フルモノ
 - 五、劇場等ニ用フルモノ
- 右ノ用途ノ内最モ需要多キモノヲ神佛ニ供スルモノトス次ニ活花用葬式用等之ニ次グ

供給地

美和村、服織村、南藁料村、長田村、淺機村、西奈村及賤機村ノ一部トス
右ノ内神、拾、櫛、松等ハ美和、服織、南藁料村ヨリ主トシテ産出シ梅桃等ハ長田西奈等ヲ主トシ草花類ハ西奈村ヨリ出ズルモノ最モ多ク大里久能之ニ次グモノトス

販賣取引

販賣取引ノ方法ニ種々アリ左ノ四ツニ分ツ

- 一、静岡市ノ剪花商ガ近村ニ買出しニ出掛クルモノ
- 二、農家が自己生産ノモノヲ市ニ販賣ニ出ルモノ此レニ庵原郡西奈村ニ於ケル剪花ノ如ク販賣ノ目的ヲ以テ特ニ草花類ヲ栽培スルモノト安倍郡美和村服織村等ヨリ出ズル柳樺等ノ如ク自己所有ノ山林ヨリ切リ出シテ市内ニ持チ出スモノトアリ
- 三、村内ノモノガ他人所有ノ山林ニ入りテ或分量ニ對シ一定ノ金額ヲ拂ヒテ材料ヲ得之ヲ市ニ販賣スルモノ
- 四、村内ニ仲買人ノ如キモノアリテ村内ヨリ材料ヲ集メ之ヲ市ニ販賣スルモノ

市内ニ於ケル主ナル切花販賣業者

静岡市下石町 宇佐美榮一 杉山勝藏

同 研屋町 安池利信 酒井みち

静岡市ノ剪花商ノ分布左ノ如シ

馬場町	一	鷹匠町	一	車町	一
研屋町	四	下石町	二		

普通ニ出ズル四季ノ花 (代表的ノモノ)

月別	種類
一月	梅、椿、葉蘭、水仙等
二月	梅、柳、椿、米櫻、葉蘭、水仙等
三月	櫻、桃、木蓮、山吹、金盞花等
四月	つばき、霧島、牡丹櫻、いちはつ、きずみせん等
五月	しやうぶ、あやめ、かきつばた、しやくやく、なごしこ、なつぎく、ぼたん等
六月	エキシヤ、(ケラジオラス、ダリヤ及前月ヨリ引續キ出スルモノ)
七月	だるまひおきぎ、はぎ、えぞきく、のこぎりさう、めどはぎ等
八月	ひおきぎ、しおん、だりや等
九月	ききよう、かるかや、おみなへし、しおん、はぎ、(秋ノ七草ハ龍爪山ヨリ主トシテ産スルモノ)
十月	秋菊、南天、さゞんくわ、葉蘭、水仙、南天草、おとぎりさう、等
十一月	菊、南天、葉蘭等
十二月	つるうめもどき、松、竹、梅、(新年用松ハ主トシテ有度村竹ハ長田大里村トス)

えにしだ、そなれ等市内及近村ニ産セザルモノハ東京名古屋濱名等ヨリ移入ス

尙ホ近時安倍郡安東村北東村(約一反歩)柳新田(八畝)ヨリモ盛ニ剪花用草花ヲ産出シ年産額約一千八十圓

アリ

第五節 齒朶ノ葉

沿革

新年ニ飾用トシテ羊齒ノ葉(一名裏白)ヲ用フルハ本朝風俗上古クヨリ行ハレ居ル處ニシテ本縣ハ本植物ノ産多ク田方郡多賀村ヨリ東京方面ニ輸出セシハ其來歴古キモ詳カナラズ大正元年頃マデハ年々約三千俵

ヲ出セリ志太郡産現ハルルヤ多少多賀村産ハコレガ爲メニ打撃ヲ蒙ルニ至レリ
 扱志太郡ニ於テハ藤枝町附近ノ椎茸商人明治四十年頃ヨリ椎茸販賣旁椎茸籠ニ同封シ新年ベ飾用トシテ東
 京ニ出セシガ初メナリシガ當時ハ成功セズ後大正三年頃ニナリ藤枝町影山清一及ビ岡野安太郎兩氏ニヨリ
 東京方面ニ販出セラレシニ其質良好ナルヲ以テ伊豆産ヲ壓スルニ至レリ尙ホ富士郡岩松村ニ大正五年
 ヨリ函館及ビ飯田市方面ニ輸出スルニ至レリ

産額

郡	町	村	名	取	扱	戸	數	數	量	價	格
田	方	郡	多	賀	村		六		二、〇〇〇		一、〇〇〇
同		郡	網	代	村		一		三〇〇		一五〇
富	士	郡	岩	松	村		一		六〇〇		三〇〇
志	太	郡	藤	枝	町		二		七〇〇		三五〇
計							一〇		三、六〇〇		一、八〇〇

採集法

(採集時期) 伊豆ニテハ十二月五日乃至十二月二十五日マデニシテ最モ多キハ十二月中旬ナリ駿河ニテ
 ハ十二月十日以後ヨリコレニ從事ス
 (採集者ト採集量) 採集者ハ何レモ婦人及子供ニシテ岩松村ノ如キハ遠ルカ隣村ノ庵原郡松野村附近ニ
 マデ採集ニ出デ多賀村ノ如キ全戸數約四百戸ノ内約百戸ハコレニ從事シ一日採集量ハ十束乃至六十束即チ

十錢乃至六十錢ノ目當トナルナリ

(採集品ノ價格) 伊豆ニテハ一束ニ付八厘乃至一錢、富士郡ニテハ五〇―六〇枚ニテ三錢、志太郡ニテ
 ハ一貫目四錢(約五百枚)葉梨村産最モ多シ土地ニヨリ價格甚ダ不同ナリ

荷造及輸送

田方郡多賀村ニテハ三二―四七束ヲ一俵トシ長一尺五寸幅二尺、高一尺二寸位大ノ楕圓形狀ニ菰包ミトナ
 シ更ラニコレヲ四俵一相トシテ網代港ヨリ積出ス
 志太郡藤枝町ニテハ二十枚ヲ以テ一束トシコレヲ蠶菰ニ包ミ三貫目一俵トシテ荷造シ藤枝驛ヨリ出ス又富
 士郡岩松村ニテハ肥料用菰ニ包ミ富士驛ヨリ輸送ス

收支計算

藤枝町産一俵ニ付キ

收入 金五十錢

羊齒葉一俵賣却代

支出 金二十錢

内譯 金十二錢

羊齒葉購入代金(三貫目)

金五錢

荷送費(菰代繩代等)

金三錢

運送費

差引 金三十錢

(益)

販路

東京神田、濱町市場、函館、飯田市

主ナル取扱人

志太郡藤枝町 影山 清一 岡野安太郎

富士郡岩松村、信用販賣購買組合

田方郡多賀村 小松 爲作 西島縫右工門 梅原隆吉 向井春助

稻葉又兵衛 土屋吉太郎

將來ノ見込

野生植物ノ利用ニシテ山村地方ニ於テハ適當ナル副業ナリ、殊ニ本朝風俗上新年ノ飾用トシテハ至ル處ニ行ハル、モノナルガ之ガ産地ハ溫帶産ナルヲ以テ、東北地方其他ノ寒帶地方ニテハコレガ自生ナシ加フルニ本縣産柑橘等ノ運送ガ誘因トナリ將來本縣産齒朶ノ葉ハ擴ク本邦ニ於ケル寒帶地方ニ販出セラル、ナラシ故ニ將來ニ於ケル見込多シ

第十一章 雜類

第一節 木炭

沿革

製炭ニ關スル起原ハ詳カナラズト雖モ其ノ最早ク之ヲ行ヒタルハ伊豆地方ニアルガ如シ即チ同地方ニテハ寛文年間(凡二百五十五年前)頃ヨリ薪炭林ノ養成ニ着眼シタルモノノ如ク田方郡上狩野村吉奈ニ於ケル點檢書ニ字棚葉山官林ノ義ハ寛文九年ノ頃村民城所久右衛門外四名ノ者廣漠タル原野ヲ薪炭用材ニ供セント欲シ樹木ヲ栽培シ云々トアリ又駿國雜誌中炭ハ安倍郡府中ニアリ是日用トスル所ノ炭ナリ當郡松野村、油山村、水見色村、大原村或ハ足久保村等ヨリ出ズ一俵ノ目方三貫三百目或ハ二貫八百目計リ其價銀一匁二分云々駿河國繪圖ニ府中御城所御本丸御用炭ハ龍爪山ヨリ焼出ス云々又菊炭ト云フ炭アリ水見色村ヨリ出ズ炭ノ木口菊花ニ似タリ故ニ此名アリ云々又文政年間(凡九十八年前)御林代トシテ炭ヲ幕府ニ上納セリ云々天保年間(凡八十五年前)安倍郡俵澤百姓ヨリ江戸柳原新橋炭會所役人ニ宛タル願書中ニ最寄百姓持林之内未ダ雜木立場所所有候間猶又當年ヨリ來酉年迄三ヶ年季一ヶ年千俵宛合テ炭三千俵金一兩ニ付二十三俵五分ノ御直段ヲ以引續キ御上納御請負被仰付候様仕度云々トアリ當時既ニ安倍川流域ノ如キハ已ニ木灰ヲ江戸ニ送リタリ明治二十年前後製茶事業ノ勃興ニ伴ヒ木炭ノ需用増加シ各地製炭業漸次増大ニ赴ケリ其後益々製炭ノ改善ヲ計リ千葉縣ヨリ製炭教師ヲ聘シテ佐倉製炭法ヲ研究シ縣ニ於テモ製炭教師ヲ聘シテ改良製炭ノ方法ヲ傳習シ同時ニ炭煙利用醋酸石灰製造ヲ獎勵セリ又一面ニ於テハ夙ニ同業者共同改良ノ必要ヲ認メ木炭同業組合設立ヲ獎勵シタル結果田方、安倍靜岡聯合志太、榛原、周智、五郡ニ同業組合ノ設立ヲ見ルニ至レリ現今ニテハ産額百六十七萬二千餘圓ニ及ビ本縣重要ナル林産物タルニ至レリ

産地 重要ナル産地左ノ如シ

賀茂郡 岩科村 仁科村 稻梓村 上河津村 下河津村 南中村 南上村 中川村 城東村 稻生澤村
 田方郡 小室村 對島村及東西兩岸各村 修善寺村 狩野村 大見村
 駿東郡 富岡村 須山村 富士岡村 印野村 北郷村 小山町
 庵原郡 兩河内村
 安倍郡 大河内村 梅ヶ島村 清澤村 大川村 美和村 長田村 中藁科村 服織村
 志太郡 東益津村 岡部村 朝比奈村 葉梨村 稻葉村 瀬戸谷村 伊久美村 笹間村 東川根村 徳山村 大長村 大津村 六合村
 榛原郡 中川根村 下川根村 上川根村 五和村 地頭方村 坂部村 勝間田村

産 額(大正五年本縣調査)

郡名	村名	数量	價額
賀茂郡	岩科村	三、〇一八、三七〇	四〇〇、四八四
賀茂郡	仁科村	一、一六六、八〇〇	一三九、三二八
賀茂郡	稻梓村	五七三、〇〇〇	四七、五一八
賀茂郡	上河津村	六五九、〇〇〇	六四、六六〇
賀茂郡	下河津村	二二二、六〇〇	二〇、〇三四
賀茂郡	南中村	一、五六三、八五〇	一一八、一一五
賀茂郡	南上村	一、五九七、四二〇	一五二、五二二
賀茂郡	中川村	一、三五一、〇〇〇	一二六、三四〇
賀茂郡	城東村	四〇八、六〇〇	四三、一三二
田方郡	小室村		
田方郡	對島村及東西兩岸各村		
田方郡	修善寺村		
田方郡	狩野村		
田方郡	大見村		
駿東郡	富岡村		
駿東郡	須山村		
駿東郡	富士岡村		
駿東郡	印野村		
駿東郡	北郷村		
駿東郡	小山町		
庵原郡	兩河内村		
安倍郡	大河内村		
安倍郡	梅ヶ島村		
安倍郡	清澤村		
安倍郡	大川村		
安倍郡	美和村		
安倍郡	長田村		
安倍郡	中藁科村		
安倍郡	服織村		
志太郡	東益津村		
志太郡	岡部村		
志太郡	朝比奈村		
志太郡	葉梨村		
志太郡	稻葉村		
志太郡	瀬戸谷村		
志太郡	伊久美村		
志太郡	笹間村		
志太郡	東川根村		
志太郡	徳山村		
志太郡	大長村		
志太郡	大津村		
志太郡	六合村		
榛原郡	中川根村		
榛原郡	下川根村		
榛原郡	上川根村		
榛原郡	五和村		
榛原郡	地頭方村		
榛原郡	坂部村		
榛原郡	勝間田村		

郡名	村名	数量	價額
周智郡	原	一、二九三、〇六〇	一、三四七八六
周智郡	磐田	四八三、五五〇	六五、一五八
周智郡	名田	二九二、四〇〇	三五九、二〇〇
周智郡	佐	一一、六二九、六五〇	一、六七一、二九七
合計			

原料

製炭用材ハ樫、楢、桐ヲ最多ク使用シ櫻、椿等之ニ亞ギ尙姥目櫻、赤楊、椎、さるた、その、あをき、ぢしや、みづくさ(賀茂)いぬもち、いぬつけ、りょうぶ、やまも、ひさかき、とねり、して(榛原)等ノ雜木ヲ使用ス

原料ノ需給 原料木ハ植林法ニ依ルモノト自然林ニヨルモノト二種アリテ郡内ノ生産ヲ以テ之ニ滿ツ植林法、自然造林ノ何レヲ問ハズ十年乃至二十年ニシテ伐採シテ製炭ノ原料トナス伊豆方面、駿東郡、榛原郡等ハ原料潤澤ナルモ志太、周智等ニテハ常ニ不足ヲ告ゲツ、アル状態ナリ

製品ノ種類 白炭、黒炭ノ二種ヲ専ラ製造ス而シテ八割ヲ黒炭トナシ二割ヲ白炭トナス、佐倉炭ト稱スルモノアリ尙郡ニヨリテ名稱ヲ異ニスルモノアリ即チ左ノ如シ

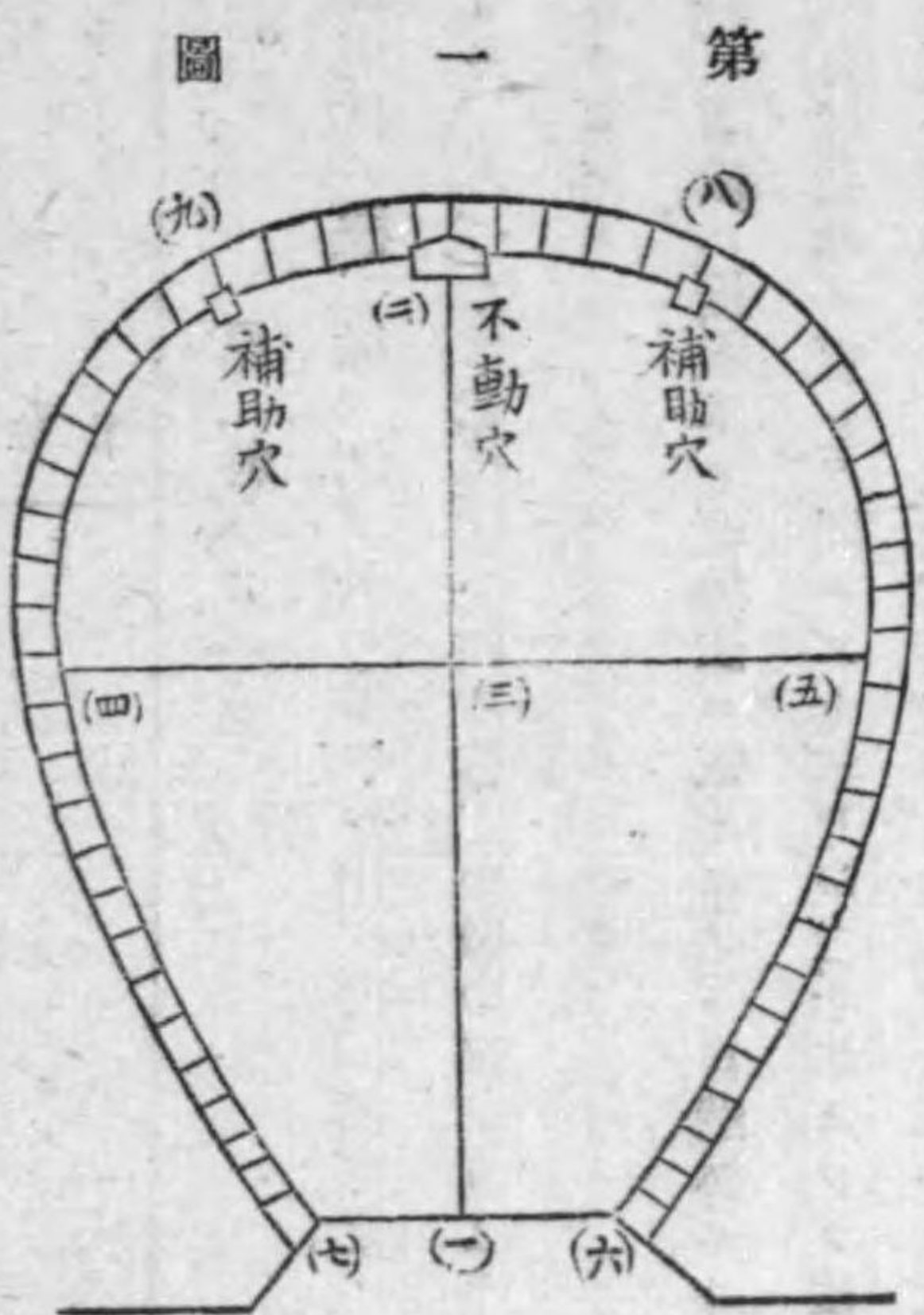
賀茂郡 姥目炭ハ本郡木炭中最モ品質優良ナルモノナリ

周智郡 榛炭、半白炭、鍛冶炭

製造方法

一、黒炭製造(黒消焼)

先ツ風向、土質、乾濕、運搬ノ便否等ヲ考ヘテ窯場ヲ定メ窯ヲ築ク、窯ノ形状ハ第一圖ノ如ク奥行一丈位トシ幅(四)ヨリ(五)ノ距離ニ六尺位トシ漸次窯口ニ至ルニ從ヒ狹メ奥ヲ廣クスベシ而シテ圖中(二)ニハ高三四寸横幅七八寸ノ不動穴ヲ作り(八)及(九)ニハ直徑二寸五分ヨリ三寸ノ補助煙出口ヲ設ク窯床ハ窯口ヨリ不動穴ノ方ヘ漸次低メ約五寸ノ傾斜ヲ付ス窯口ハ高サ二尺五六寸、幅一尺六七寸位ニ耐火性ノ石ニテ作



ル窯甲ノ高サハ最高ノ個所三尺四寸(床ヨリ)位ニシテ其厚サハ腰ニ近キ部分ハ六七寸、中部五六寸、上部四五寸位トス

炭材詰込ノ方法ハ先ヅ床ニ敷木ト稱シ拇指大ノ小木粗朶ヲ平列シ奥ヨリ順次炭材ノ太キ方ヲ上部トシ詰メ込ム然シテ二三尺通り詰込ミタルトキハ其ノ上ニ藁又ハ枯芝粗朶等ヲ覆ヒ其ノ上ニ上木ト稱シ周圍一二寸ノ木ヲ挿シ込ム斯ノ如クニシテ順次窯口迄詰込ミ窯口ノ炭材ハ奥ヘ傾ケ

テ詰メ込ミ最後ニ口焚木ヲ挿シ込ミ點火シ團扇ヲ以テ煽ギ焰火ヲ奥ヘ誘ヒ漸次燃燒セシム可シ斯クシテ上木ヘ充分點火シ消火ノ患ナキトキニ至リテ口焚ヲ止ムルナリ氣乾材ナレバ四時間乃至五時間ニシテ點火ス

點火スレバ窯口ヘ三寸土管或ハ幅四五寸高二三寸位ノ風穴ヲ設ケ閉鎖スベシ然シテ二三時間ヲ過ギ煙色ノ

模様ニヨリ烟勢ノ衰弱セルヲ見テ其穴ヲ二分ノ一位ニ狹ム

斯クシテ燃燒ノ度進ミ土木ノ十分ノ七八燃燒セシトキ補助煙筒ヲ閉塞ス此閉塞ノ時期ヲ知ルニハ先ヅ平キ石ニテ其噴出セル煙ヲ塞ギ見テ本煙出口ニ異狀ナキ時ヲ度トシ極メテ丁寧ニ密閉ス可シ

炭化時間ノ進ムニ從ヒ其烟色濃茶褐色トナリ臭氣鼻孔ヲ刺戟スルニ至ルベシ尙時間ヲ經過シ白色ニ變スルナリ此間ノ炭化中可成緩慢ニ炭化セシムル爲メ烟出及風穴ヲ責ムルト稱シ木切ヲ以テ煙筒及窯口ノ風吸穴ヲ狹メ噴煙ヲ制限スルヲ要ス噴煙ハ炭化進ムニ從ヒ遂ニ青煙ニ變ス可シ此時ニ當リ曩ニ煙筒及風吸穴ヲ狹小セシ木切ヲ除去シテ煙筒ノ噴煙ヲ大ニシ精煉ヲ施行ス尙噴煙ハ順次稀薄トナリ其色ノ絶エントスルトキ窯口ノ風吸穴ヨリ望見セバ窯内赤熱セルヲ見ル可シ此時窯口ノ風吸穴ヲ密閉シ本煙筒ヲ除去シ平石ヲ以テ其穴ヲ塞ギ粘土ニテ密閉スルヲ要ス斯ク兩穴ヲ閉鎖シテ後約二晝夜放置スルトキハ全ク消火スルナリ以上黒消窯ノ築窯及製炭用人夫數左ノ如シ

- 一、土掘人夫 三 人
- 一、粘土及石運ビ人夫 二 人
- 一、窯床ヨリ窯腰出來上リ迄 二 人
- 一、窯甲築造 二 人
- 一、窯底地均シ及器具製造 一 人

二、作業場屋根

二 人

一、炭材伐採

二 人

一、燒込荷造

二 人

二、白炭製造法(白消燒)

此白消窯ハ窯外ニテ消火スルヲ以テ外消窯トモ稱ス又白炭窯日窯ノ稱アリ

窯築造ノ位置撰定ノ注意ハ黒消窯

ニ同シ窯ノ形狀ハ第二圖ノ如クニ

シテ奥行六尺トナシ(二)ニ不動穴

ヲ定メ幅(四)ヨリ(三)トノ間(四)

尺五寸位トシ奥側ハ圓形窯口ノ方

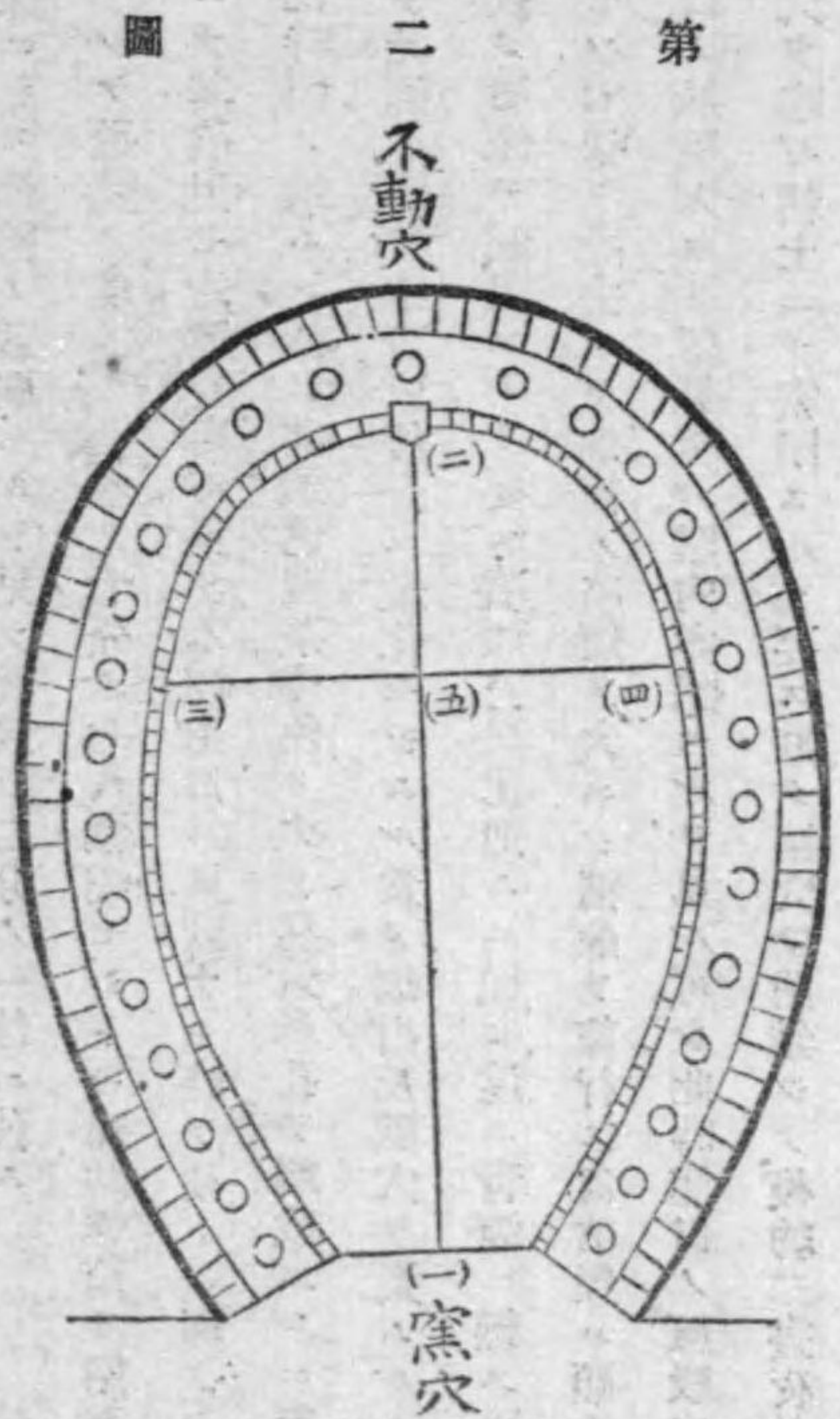
ハ次第ニ狭キ様ニスベシ窯腰ノ高

サハ三尺四五寸位トス

白消窯ハ性質上黒炭窯ヨリ短時間

ニ炭化ヲ終ルヲ要スルモノナレバ

餘リ太キ炭材ヲ詰メ込ム可カラズ先ヅ直徑三寸五分位迄ヲ極限トシ夫レ以下ノ木材ヲ以テスベシ尤モ直徑



第

二 不動穴

(一) 窯穴

一二寸ノ炭材ヲ一本宛窯内ニ入レテ詰メ込ムハ甚ダ手數ヲ要スルモノナレバ斯ノ如キ細木ハ可成藤蔓ノ如キモノニテ直徑七八寸位ノ束トナシ豫メ束ネ置クヲ好トス其詰込方法ハ太キ方ヲ上トシ細キ方ヲ下ニシ上部ヲ密ニシ下部ヲ粗ナラシム斯クノ如クシテ順次窯口迄詰メ込ミ窯口ニハ點火シ易キ枝條ヲ立テ、點火ス口焚ノ時間ハ風ノ方向及強弱炭材ノ大小、水分ノ多少、炭窯ノ大小、種類天候等ニヨリ長短アリト雖ドモ普通三時間位ニシテ炭材ニ點火ス、點火十分ナリト認ムルトキハ窯口ヲ粘土及石ヲ以テ風吸穴ヲ殘シテ之ヲ塞グ可シ其方法ハ窯口ニ三四寸ノ風穴ヲ置キ煙色ト臭氣ヲ見計ヒ順次粘土ニテ塗り塞グモノニシテ尙炭化ノ進ムニ從ヒテ窯口ノ風穴ヲ直徑五分位ニ狭メテ塗り塞ギ尙煙突ノ後部ヨリ前方ニ板ヲ以テ次第ニ狭ムルナリ此兩穴ヲ狭ムルハ甚ダ注意ヲ要スルモノニシテ若シ早キニ過グレバ炭化勢力ヲ失シ遂ニ消滅スルコトアリ又遅キニ過グルトキハ炭質粗惡ナルヲ免レズ益々炭化スルニ及ビ煙色白色ト變ジ尙又青色ニ變ズルトキヲ待チテ煙筒ニ覆ヒシ板ヲ少シク去リ窯口下ニハ尙一個ノ風穴ヲ穿ツ可シ又順次炭化スルニ及ビ煙色ヲ見計ヒテ煙筒ノ板ヲ除去シ窯口ノ風吸穴ヲモ尙二三ヶ所ニ小孔ヲ穿ツベシ之俗ニ精煉ト稱スルトキニシテ即チ木炭ヲ灼熱セシメ高熱度ヲ與フルヲ目的トス總テ木炭ハ高熱度ヲ與ヘザレバ堅密ナル良炭ヲ採集スルコト能ハズ隨ツテ火力及耐久性モ大ナラシムル事ヲ得ザルナリ斯クシテ暫次ノ後風吸穴ヨリ窯内ノ様子ヲ窺ヒ窯内ノ全部灼熱ノ狀ヲ呈スルヲ見テ窯口ノ全部ヲ除去シ窯口ノ炭材精煉ナルヲ見計ヒエブリト稱スル器具ヲ以テ搔出シ窯庭ノ一隅ニ搔キ寄セ消粉ト稱スル炭粉ト灰ト混淆セルモノヲ振り掛ケ之ヲ覆フ又精煉ヲ見計ヒテハ灼熱セル炭ヲ搔出シ先ニ搔キ寄セタル所ニ搔キ寄セ消粉ヲ振掛ケ順次右ノ方法ニヨリ全

部播出スナリ播出ヲ終リタルトキハ棒ヲ以テ消粉ヲ覆ヒタル所ニ靜カニ上ヨリ數ヶ所ニ穴ヲ通シテ之ニ消粉ヲ入ル斯クシテ消火ヲ助クルナリ斯クスルトキハ播出後一時間ヲ出ズシテ全部消火スルモノナリ
右白消窯ノ築窯及製炭人夫數ヲ舉グレバ左ノ如シ

一、土掘人夫	二	人
一、粘土及石運搬人夫	二	人
一、窯床ヨリ窯腰出來上リ迄	二	人
一、窯甲築造	二	人
一、窯底地均及器具製造	一	人
一、作業場屋根作り	二	人
計	十一	人

一、炭材伐採及焼出荷造共 一人五分(但炭材伐採ハ炭窯最寄ノ地)
志太郡、榛原郡、周智郡ノ製炭者ノ一部ノ人ハ製炭ノ副業トシテ噴出スル煙ヲ以テ醋酸石灰ノ製造ヲ行ヒツ、アルモノナリ

收支計算

(イ、)白炭 (百貫目ニ對スル) (但一圓ニ就キ九貫目ノ割合)
収入 金十一圓十一錢

支出 金 八 圓

内譯 金四圓九十錢 炭材樵生木七百貫價格百貫ニツキ七十錢
 金一 圓 伐採人半人夫賃一日四十錢
 金二 圓 燒込荷造人夫五人一日四十錢
 金十 錢 炭竈ノ損料
 差引 金三圓十一錢 益

(ロ、)黒炭(十貫目ニ對スル) 木炭拾貫目代(十一貫目一圓ノ割)
収入 金九十錢九厘

支出 金 八 十 錢
 内譯 金五十六錢 原料木四十五貫代
 金二十錢 燒賃及窯損料
 金四 錢 荷造費
 差引 金十錢九厘

販賣取引及荷造

取引ハ生産者ノ直取引ニヨルモノト地方仲買人ノ手ヲ經テ販賣セラル、モノアリ榛原郡、周智郡ノ如ク木炭商人自ラ薪炭材ヲ購入シテ製炭ヲナスモノアリテ之等商人ハ直接需要地ト取引スルガ如キモノアリ又賀

茂郡ノ如ク依託販賣ノ法ニヨルモノアリコノ依託販賣ニヨルトキハ賣上高ノ一割ハ問屋ノ手数料トシテ差引クモノトス

荷造ハ生産地ニヨリテ是ヲ異ニスルモ同業組合ノ設立セラレタル郡ニアリテハ規定ヲ設ケテ荷造俵裝ヲ一定セラレタリ

各郡ニ於ケル荷造法ヲ略記スレバ左ノ如シ

賀茂郡 一俵ノ目方三貫八百匁ヨリ四貫二百匁内外俵裝ハ茅ヲ以テ製シ一側ニ幅一二寸長サ一尺ノ札ヲ附シ木炭ノ品質種類製造者ノ標印ヲ附スルモノトス

駿東郡 一俵ノ目方五貫五百匁ヲ普通トシ松炭ハ四貫目トス俵ハ茅ヲ用フ

安倍郡 黒炭ハ八貫目、白炭ハ四貫目ヲ一俵トシ茅編ノ角俵ニスレ其他蕙吹等ヲ用フルモノアリ

志太郡 組合ニテ定メタル木炭ノ製俵標準及方法ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、土竈 石竈燒大俵 上目 十貫三百匁 風貫七百匁以下

一、同 中俵 上目 八貫三百匁 風貫六百匁以下

一、同 小俵 上目 五貫三百匁 風貫五百匁以下

大、中、俵ノ俵裝ハ長二尺二寸角造リニシテ三ヶ所結トナス、小俵ノ俵裝ハ長二尺二寸九造リニシテ兩口ニ薄ク粗朶ヲ充テ總テ細藤蔓ヲ用ヒテ三ヶ所結トス但大中俵ニシテかますヲ用ヒルモノハ風貫五百匁以下トス

榛原郡 組合ニ定メタル製俵標準ハ左ノ如シ

一、石竈土竈燒大俵 上目 八貫三百匁 風貫七百匁以下

一、同 小俵 上目 五貫三百匁 風貫六百匁以下

製俵方法ハ志太郡ト略同シ

周智郡

一、大俵 上目 十貫 風貫 裏蕙俵 五百匁

一、中俵 上目 八貫 風貫 同 四百匁

一、小俵 上目 五貫 風貫 同 六百匁

中俵以上ノ俵裝ハ裏蕙製又ハ茅製ノ吹若シクハ角造トナシ小俵ハ茅ノ丸俵トナスモノ多シ

販路ハ各地殆ンド同一ニシテ縣内消費ノ外東京横濱ヲ主トシ横須賀、神奈川及名古屋、豊橋等ニ移出サルルモノトス左ニ本縣産木炭ノ消費狀況ヲ表示ス

木炭ノ消費(大正五年本縣調査)

郡	内消		縣外移		移出	
	數	價額	數	價額	數	價額
賀茂	四七八、七九八	六八、四一四	二、五三九、五七二	三三二、〇七〇	三、〇一八、三七〇	四〇〇、四八四
田方	四七八、二〇〇	五四、四九七	七〇八、六〇〇	八四、八三一	一、一六六、八〇〇	一三九、三二八
駿東	四四〇、六一〇	三六、七七八	一三二、三九〇	一〇、七九〇	五七三、〇〇〇	四七、五六八

富士	庵原	安倍	志太	榛原	小笠	周知	磐田	濱名	引佐	計
五一六、〇〇〇	二二二、六〇〇	一、五六三、八五〇	一、〇六八、四二〇	八〇〇、四〇〇	三九七、七四二	一、二一九、〇六〇	四八三、五五〇	二九二、四〇〇	七、九四一、六三〇	
五〇、三六〇	二〇、〇三四	一一八、一一五	一〇二、〇一五	七四、八三七	四二、〇四六	一二六、六四六	六五、一五八	三五九、二二〇	一、一一八、一一〇	
一四、三〇〇			五二九、〇〇〇	五五〇、六〇〇	一〇、八五八	七四、〇〇〇				四、六八八、〇二〇
一四、三〇〇			五〇、五〇七	五一、五一一	一、〇八六	八、一四〇				五五三、二三五
六五九、〇〇〇	二二二、六〇〇	一、五六三、八五〇	一、五九七、四二〇	一、三五一、〇〇〇	四〇八、六〇〇	一二九三、〇六〇	四八三、五五〇	二九二、四〇〇	一二、六二九、六五〇	
六四、六六〇	二〇、〇三四	一一八、一一五	一五二、五二二	一二六、三四八	四三、一三二	一三四、七八六	六五、一五八	三五九、二二〇	一、六七一、三五五	

盛衰消長

木炭製造業タル俗ニ炭焼日當ト稱シ頗ル安價ニシテ收益多カラザルモ尙賀茂、田方、安倍、周智等ハ郡重要物産ナリ故ニ當局者意ヲ注イデコレガ改良發達ヲ計リ各郡教師ヲ聘シテ實地傳習會ヲ開催シテ製品ノ改良ヲ計リ同業組合ヲ設ケテ販路ノ擴張ニ盡力シツ、アルモ近時植林ニ努メ薪炭材生産地タル雜木林ハ杉楡林ニ化シツ、アリテ材料ノ不足ヲツグル各地皆等シ然レ共周智郡等ニ於ケル實況ハ流行的植林熱ノ爲メニ杉楡造林ニ不適當ナル所ニ造林シツ、アリ故ニ斯ル地ハ須ク薪炭林ヲ養成シテ薪炭林ヲ得ルベク努ム可キナリ現今木炭ノ價額騰貴シツ、アル今日ニ於テヲヤ

参考 志太郡木炭同業組合定款

(明治四十五年六月二十九日認可)

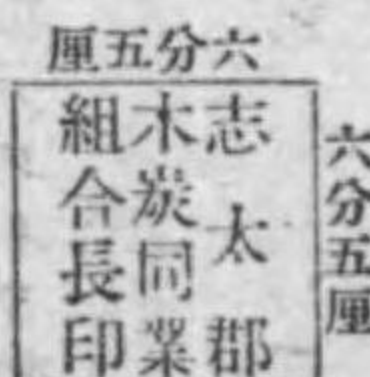
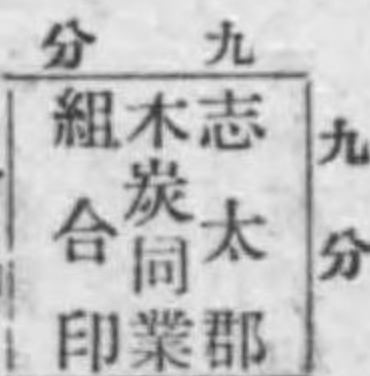
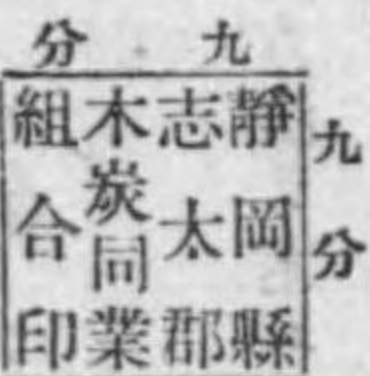
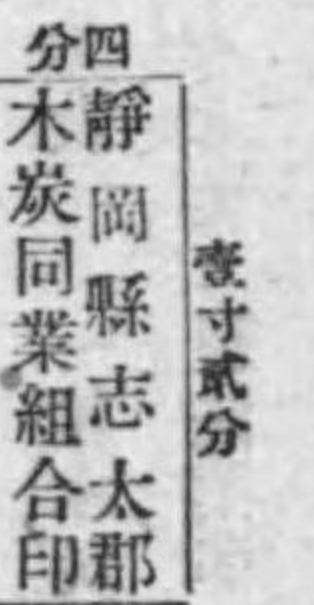
第一章 名稱區域及位置

第一條 本組合ハ志太郡ヲ以テ區域トシ地區内ニ於ケル木炭製造者販賣業者ヲ以テ組織シ志太郡木炭同業組合ト稱ス

第二條 本組合ノ事務所ハ志太郡藤枝町本百七十九番地ニ設置ス

第二章 印章及目的業務

第三條 本組合ニ於テ使用スル印章左ノ如シ



第四條 本組合ハ炭業上ノ弊害ヲ矯正シ其改良發達及販路擴張ヲ謀リ併テ炭業副産物ノ利用ヲ期シ組合員共同ノ利益ヲ増進シ信用ヲ保持スルヲ以テ目的トシ左ノ業務ヲ施行スルモノトス

- 一 木炭原材料ノ養成、木炭及炭業副産物ノ製造并ニ其販路ノ調査指導試験等ニ關スル事項
- 二 製品及製俵ノ検査ニ關スル事項
- 三 組合員紛議調停ニ關スル事項

四 共進會品評會ニ關スル事項

五 博覽會共進會及品評會ノ出品ニ關スル事項

六 前各項ノ外組合員ノ共同利益ヲ増進スルニ必要ナル事項

第參章 木炭製造標準

第五條 本組合ノ製造スル木炭ノ製品種類ヲ定ムルコト左ノ如シ

但松、樅、榊、其他木質柔軟ナルモノハ總テ別俵トナシ左ノ種類ニ混入スルヲ禁ス

一 櫟炭 一 檜炭 一 雜木炭

第六條 本組合員ノ製造スル木炭ノ製俵標準及方法ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 土竈石竈燒大俵 上目十貫三百匁 風貫七百匁以下

一同 中俵 上目八貫三百匁 風貫六百匁以下

一同 小俵 上目五貫三百匁 風貫五百匁以下

大中俵ノ俵裝ハ長貳尺貳寸角造リニシテ兩口ニ薄ク粗朶ヲ充テ總テ繩蔓藤ヲ用キテ三ヶ所結トナス

小俵ノ俵裝ハ長貳尺貳寸九造リニシテ兩口ニ薄ク粗朶ヲ充テ繩蔓藤ヲ用キテ三個所結トナス

但大中俵ニシテかますヲ用キルモノハ風貫五百匁以下トス

第七條 本組合員ノ製造スル木炭製品等級ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 甲品 品質良好ニシテ殆ンド棒炭トナルモノ

一 乙品 品質良好ニシテ殆ント三寸以上ニ切斷セラレタルモノ

一 丙品 前二品ニ該當セルモノ及鍛冶炭

第八條 未燃燒ニシテ烟煤ヲ發シ水浸若クハ粉末素灰等ヲ混交シタルモノヲ製造販賣スルヲ禁ス

第四章 組合員加入及脱退

第九條 本組合地區内ニ於テ第一條ノ營業ニ從事スルモノハ組長ニ届出組合員章(證票)及門標ヲ受クヘシ

本組合地區外ノ者ト雖トモ本組合地區内ニ於テ製炭及販賣ニ從事スルモノハ假住所若クハ代表者ヲ定メ

本條ノ手續ヲ經テ本組合ノ規定ヲ遵守スヘシ

第十條 販賣業者手代ヲ使用シテ自己ニ代リ製品ノ賣買取引ヲ爲サントスルトキハ行商證札ヲ申受クヘシ

製造業者代人ヲ使用シテ炭荷物賣捌キノ爲メ搬出セシムルトキハ代人證ヲ申受クヘシ

第十一條 組合員廢業其他ノ事由ニヨリ組合ヲ脱セントスルトキハ組合員證及門標(行商證札)ヲ添へ届出

ヘシ

第十二條 組合員ニ交付スヘキ組合員證票門標行商證代人證ハ左ノ通り之ヲ定ム

門標ハ門戸ノ見易キ處ニ掲ケ組合員證并ニ行商證札代人證ハ常ニ携帯スヘシ

但組合員證門標行商證札代人證ハ如何ナル場合ト雖トモ之ヲ貸借スルコトヲ得

木製 壹寸五分

表 第一號
 靜岡縣志太郡木炭同業組合
 製造人之證
 志太郡何町村大字何
 何之誰

裏
 明治何年度限
 志太郡木炭同業組合
 印合事務所

表 第二號
 靜岡縣志太郡木炭同業組合
 販賣者之證
 志太郡何町村大字何
 何之誰

裏
 明治何年度限
 志太郡木炭同業組合
 印合事務所

表 第三號
 靜岡縣志太郡木炭同業組合員
 志太郡何町村大字何
 何之誰

裏
 明治 年 月 日交付

第十三條 組合員證門標行商證札ヲ汚損紛失若クハ住所身分ニ變更ヲ生シタルトキハ其理由ヲ具シ速ニ届出交付又ハ書換ヲ請求スヘシ

但再交付書換ニ就テハ組合證ハ一枚金貳錢門標ハ同金貳錢五厘行商證札ハ金貳錢五厘ノ手數料ヲ納ムルモノトス

第五章 組合權利義務

第十四條 組合員ハ何時ニテモ組合事務ニ付其事務ノ成績ト諸帳簿ヲ閱覽スルコトヲ得

第十五條 製造人ニシテ他へ販賣スル炭貨物ニハ組合ニ於テ發行スル左式ノ荷票ヲ每俵必ス見易キ所ニ結付スヘシ

但檢査ヲ受クルトキハ其認章ヲ受クベシ

販賣人ハ荷票ノ結付ナキ炭荷物ヲ賣買スルコトヲ得ス組合設置ナキ他ノ炭荷物ニシテ本組合地區内ニ於

テ賣買ヲナサントスルモノハ本條ノ手續ヲナスヘシ

靜岡縣志太郡木炭同業組合
 大荷票
 上目貫 欠
 品

靜岡縣志太郡木炭同業組合
 中荷票
 上目貫 欠
 品

靜岡縣志太郡木炭同業組合
 小荷票
 上目貫 欠
 品

大荷票ハ十貫三百匁俵ニ中荷票ハ八貫三百匁俵ニ小荷票ハ五貫三百匁俵ニ結付スルモノトス
 荷票ハ何レノ場合ニ於テモ再貼スルコトヲ得ス

第十六條 組合員ハ自己ノ營業ニ係ル製炭數量價格賣上數量價格毎年四月末日迄ニ組長ニ届出ヘシ

第六章 役員ノ資格權限及選舉并解任

第十七條 組合ニ左ノ役員ヲ置キ委員ヲ除クノ外組合會ニ於テ組合員中ヨリ投票ヲ以テ選舉シ有効投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ當選トス有効投票ノ過半數ニ達セサルトキハ最高點者二名ニ就キ一回ノ決選投票ヲ爲シ尙有効投票過半數ニ達セザルトキハ比較多數者ヲ以テ當選トシ同數ナルトキハ年長者ヲ採リ同年ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム委員ハ組合會ノ同意ヲ得テ組合會議員中へ組長ニ於テ囑托スルモノトス
 役員ニ缺員アリタルトキハ補缺選舉ヲ行フヘシ補缺員ハ前任者ノ任期ヲ補充スルモノトス
 但缺員ノ爲メ業務執行ニ差支ナキ限リハ次期ノ組合會迄補缺セサル事アルヘシ

- 一 組長 壹名
- 一 副組長 三名
- 一 評議員 五名
- 一 委員 若干名

第十八條 役員ハ名譽職ニシテ其任期ハ三ケ年トス役員ノ任期滿了又ハ其他ノ事由ニ依リ退職シタル後其職務ヲ行フ者アラサルトキハ後任者ノ就職スル迄前任者ニ於テ尙其職務ヲ行フモノトス

第十九條 役員ニハ報酬并ニ實費辨償額ヲ給スルコトヲ得

第二十條 組長ハ組合ヲ總轄シ一切ノ事務ヲ擔任ス副組長ハ組長ヲ補佐シ組長故障アルトキハ其事務ヲ代理ス

第二十一條 評議員ハ組長ノ諮問ニ應ジ組合事務ノ執行ニ關シ常ニ其狀況ヲ監査ス
組長副組長共ニ事故アルトキハ評議員ノ互選ヲ以テ代理者ヲ定ム

第二十二條 委員ハ組長ノ指揮ヲ受ケ其町村内ノ事務ヲ掌ル者トス

第二十三條 左ノ各項ニ該當スルモノハ組合ノ役員タルコトヲ得ス

- 一 組合地區内ニ住居シ滿二年以上本業ニ従事セサル者
- 二 違約處分ヲ受ケ滿二年以上ヲ經過セサルモノ
- 三 未成年者及白痴瘋癲精神病者
- 四 公權剝脱若クハ停止中ノモノ
- 五 禁治産又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ未タ復權セザルモノ

第七章 組合事務員

第二十四條 組合ニ左ノ有給事務員ヲ置キ評議員會ノ同意ヲ得テ組長之ヲ任免ス

一書記 二名以下 一検査員 五名以下

第二十五條 書記ハ組長ノ指揮ニ從ヒ庶務ニ従事ス

第二十六條 検査員ハ組長ノ指揮ヲ受ケ組合地區内ヲ巡回シ組合員ノ製炭貨物ノ検査ヲ爲シ違約者ノ偵察ニ従事ス

第八章 會議

第二十七條 組合會議員ハ各町村一名宛トシ其町村委員管理ノ下ニ各町村ニ於テ組合員中ヨリ選舉スルモノトス

但組合員百五十名ヲ増ス毎ニ一名ヲ増加ス

第二十八條 組合會議員ノ任期ハ三ケ年トス

但補缺選舉ノ場合ハ總テ前任者ノ任期ヲ補缺スルモノトス

第二十九條 會議ハ總會組合會及評議員會ノ三種トス

第三十條 總會ハ組合員全體ヲ以テ組織ス組長并ニ評議員會ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ組合員三分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的及其召集ノ事由ヲ示シ請求シタルトキ之ヲ開クモノトス

第三十一條 評議員會ハ組長必要ト認メタルトキ又ハ評議員三分ノ一以上ノ同意ヲ經テ開會ノ請求アリタルトキ之ヲ開ク

第三十二條 會議ノ議案ハ組長之ヲ發ス

但評議員又ハ組合員ノ請求ニヨリ開會シタル會議ノ議案ハ此限ニアラス

第卅三條 會議ノ議長ハ組長之ニ當ル組長事故アルトキハ副組長之ニ代ル組長副組長共ニ事故アルトキハ評議員中ヨリ之ヲ互選ス

但第廿一條業務施行ノ監査ニ係ル會議ノ議長モ本條第二項ノ例ニ依ル

第卅四條 組合會ハ毎年五月之ヲ開ク又必要ニヨリ臨時會ヲ開クコトアルヘシ

組合會ニ於テ決議スヘキ概目左ノ如シ

- 一 役員ノ選舉及進退ニ關スル件
- 一 經費ノ豫算並ニ賦課徵收法ニ關スル件
- 一 炭業上ノ利害得失及調査ニ關スル件
- 一 組合及組合員ニ係ル訴訟及和解ニ關スル件
- 一 組合財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル件
- 一 評議員會ニ於テ決定シタル事務ノ報告

第卅五條 評議員會ニ於テ決議スベキ事件概目左ノ如シ

- 一 總會及組合會ニ提出スベキ議案ノ編成
- 一 仲裁判斷ニ關スル件
- 一 違約者處分ニ關スル件

一 組長ノ諮問並ニ業務執行ノ監査ニ關スル件

一 其他定款ニ規定シタル件並ニ總會決議項目ニ關スル輕易ノ件

一 經費ノ收支決算及業務ノ成績ノ認定ニ關スル件

第卅六條 組合會ノ決議スベキ事件ニシテ事急施ヲ要シ組合總會ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキハ評議員會ニ於テ代テ之ヲ議決スルコトヲ得

但主務官廳ノ認可ヲ要スル事項ハ此限ニアラス

第卅七條 會議ハ組長ニ於テ總會ハ開會七日以前組合會及評議員會ハ開會五日以前ニ其會議目的事項及開會ノ日時ヲ示シ通知スルモノトス

但至急ヲ要スル場合ハ此通知期間ヲ短縮スルコトアルヘシ

第卅八條 總會組合會及評議員會ハ出席スヘキモノ、過半數出席スルニアラサレハ會議ヲ開クコトヲ得

但同一事件ニシテ召集再會ニ及ブトキハ評議員會ヲ除キ三分ノ一以上ノ出席ヲ以テ開會スルコトヲ得

第卅九條 凡テ會議ノ議事ハ出席員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決シ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル處ニヨル

第九章 會計

第四十一條 本組合ノ會計年度ハ其年八月ニ起リ翌年七月ニ終ルモノトス

第四十二條 組合經費ハ組合員分頭費行商證札料及荷料其他臨時收入ヲ以テ之ニ充ツルヲ例トス

第四十三條 經費ノ收支豫算ハ組合會ノ議決ヲ以テ毎年五月卅一日迄ニ主務官應ニ提出シ其認可ヲ請フベシ

第四十四條 經費ノ收支決算及業務ノ成績ハ毎年十月三十一日迄ニ評議員會ノ認定ヲ經テ主務官應及翌年度ノ組合會ニ報告スヘシ

第十章 違約者處分

第四十五條 組合員ニシテ左ニ違背シタルモノハ各定ムル處ノ過怠金ヲ差出サシム

第五條ニ違背シタルモノ 壹俵ニ付 金 拾 錢

第六條ニ違背シタルモノ 金 五 錢

第七條ニ違背シタルモノ 金壹圓以上三圓以下

第八條ニ違背シタルモノ 金壹圓以上三圓以下

第九條ニ違背シタルモノ 金 五 拾 錢

第十條ニ違背シタルモノ 金 五 拾 錢

第十二條ニ違背シタルモノ 金 五 拾 錢

第十五條ニ違背シタルモノ 金 壹 圓

第四十九條ニ違背シタルモノ 金 壹 圓

第四十六條 過怠金ハ其處分ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ組合ニ納付スヘシ若期日以内ニ納付セザ

ル者アルトキハ評議員會ノ議決ヲ經テ組長ヨリ其筋ノ處分ヲ仰キ請求ノ手續ヲナスヘシ

第十一章 定款ノ變更

第四十七條 定款ヲ變更セントスルトキハ組合會ニ於テ議員三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ決議シ農商務大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第十二章 解散

第四十八條 本組合解散ノ場合ハ組長副組長ヲ以テ精算人ト定メ組合ニ係ル債權債務ノ精算ヲナサシム精算人ニ於テ精算終了シタルトキハ其事務ノ顛末ヲ地方新聞紙ヘ二日以上廣告シ解散當時ノ組合員ニ報告シ地方長官ニ届出ルモノトス

解散ハ總會ニ於テ組合員三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ議決シ農商務大臣ノ認可ヲ受クベシ但債務又ハ精算ノ費用ニ不足ヲ生シタルトキハ解散當時ノ組合總會決議ニヨリ徵收シ財産ニ剩餘アリタルトキハ解散當時ノ組合員ニ分配スルカ若シクハ同一又ハ類似ノ目的ニ依リ行動スル團體ニ贈與スルコトアルヘシ

第十三章 營業品検査並ニ仲裁判斷及調停

第四十九條 本組合ハ検査員ヲ派シテ組合員ノ營業品及販賣貨物荷造等ニ就キ検査ヲナサシム此場合ニ於テ組合員ハ之ヲ拒辭スルコトヲ得ス

第五十條 組合員ハ相互間又ハ組合員外トノ間ニ於テ營業上ノ取引上ヨリ紛議ヲ生ジタルトキハ組長ノ仲

裁判斷若クハ調停ヲ請求スルコトヲ得

附 則

第五十一條 現在ノ組合會議員及役員ハ明治四十七年四月末日ヲ以テ滿期トス

第二節 洋傘柄

沿革

明治二十一年頃、神奈川縣湯ヶ原八龜倉吉、小川廣吉ノ二人田方郡對島村池ニテ初メテ洋傘柄製造ヲ初ムルヤ同地小川熊太郎氏モコレニ參加シ三人ノ共同事業トナスコレ伊豆ニ於ケル本業ノ起源ナリ然ルニ明治三十四五年頃最モ悲運ニ陥リシガ日露戰爭後景況最モヨク以來引續キ今日ニ及ベリ

産 額

産 地 名	生 産 戸 數	數	量	價	額
田 方 郡 伊 東 町	一		四二、〇〇〇		七〇〇
同 郡 對 島 村	二		四二、〇〇〇		七〇〇
加 茂 郡 下 河 津 村	一		五、〇〇〇		九〇
計	四		八九、〇〇〇		一、四九〇

原 料

原料ハ用途ニヨリ左ノ種類ヲ使用セラル

(須率用) ようぞめ(方言よつどめ) みつばうつぎ(方言こめごめ或ハざとーき) うつぎ いぼた等

(曲木用) こはぜのき(方言いご) あぶらちやん(方言ずさ) もみぢ類、ひのき等

(一文字用) 杉(材質緻密ナルモノ) いぬつげ、ひさかさ、あをき、さかさ、しきみ等

(原料ノ産地及採集) 原料ハ天城山ヨリコレヲ仰ギ殊ニ賀茂郡下河津村田中、城東村白田附近コレガ産地トシテ將來見込多シ原料ノ採集ハ多ク炭焼ノ副業ニシテ一日採集ニヨル報酬ハ多少経験ヲ要スルモ男ニテ金四十錢乃至七十錢ナリ

(原料ノ寸法及價格)

種 類	容 積	一本ノ價格
須 棒	二尺七寸—三尺二寸	四 厘
曲 木	長一尺二三寸徑一寸二分 <small>(原料ニテ切ルニハ二尺九寸)</small>	五 厘
一 文 字	同 上	二 錢

(採集時期) 十二月乃至三月即チ落葉期乃至發芽前ナリ一文字用ハ荒削リトナシ需用者ニ供ス

(原料ノ損傷) 原料中ニハ約一割ノ損傷物アリ

製造方法

製造ハ次ノ順序ニヨリ行ハル

- 一、乾燥、約三ヶ月乾燥セシム乾燥ニハ蔭干ヨク日干ヲ忌ムコレ陽干ハ原料龜裂シ易キ故也
- 二、火上ニテ加熱スル事、加熱場ハ石ニテ周圍ヲ作り一尺八寸×一尺二寸ノ爐ヲ作りコレガ上ニ木製ノ加

熱器ヲ裝置ス

加熱器ハ長三尺六寸幅一尺六寸高一尺三寸ノ容積ナル箱狀ノモノニテコレガ内面ヲ三分等ニ分ツベク中央ニ二條ノ鐵線ヲ通シ(一段二本ヅ、)二室トナス即チ下室ニ先ヅ入レタル原料ヲ加熱終レバ上段ノ鐵線ヲハズシテ下室ニ落シ以テ加熱シ上段ヘハ更ラニ新シキ原料ヲ入ル、ナリコレハ主トシテ須棒製造ニ必要ナル器ニテ加熱時間ハ攝氏四十度ニシテ十分間位ナリコノ室ニテハ一度ニ五ダ一サヲ行フヲ得ベシ

三、矯メル事、カクノ如ク加熱セルモノハ矯正器ニテ矯メルナリコノ器ハ堅キ材ニ(長五尺幅五寸厚五分)テ一端ヲ少シク彎曲セシメ其部ニ鐵製ノモノヲ直角ニ針狀ニ打チヨ、ニテ矯ムナリ

- 四、下削、普通鉋ニテ削ル一日一人六十ダ一サヲ行フベシ
 - 五、中削、所謂荒掛ヲナス本業ハ女工ノ行フ處ニシテ一日一人五十ダ一サヲ行フヲ得ベシ
 - 六、上削、仕上グト稱シ仕上鉋ニテ行フコレモ女ノ業ニテ一日一人四十ダ一サヲ製造スベシ
 - 七、磨キ、ペーパニテ磨クニテ一ダ一サ磨賃金六錢一日一人工程四一五ダ一サナリ
 - 八、にす塗布、一日二十ダ一サヲ行フベクコノ工賃二十乃至二十五錢 にす製造ニハらつく九〇分ヲあ
 - 九、色付、醋酸鐵ニテ淡鼠色トナス
 - 十、彫刻、小刀或ハ鑿ニテ行フ
- 以上ノ内須棒ノモノ製造ハ副業トシテ最モ適當ナルモノニテ前記磨キマデノ作業ニテヨシ、其以上ノ作業ハ工業的ニシテ農家副業トシテハ不適當トス

製造器具

加 熱 器	金 一 圓	矯 正 器	金 三 十 錢
荒 掛 用 鉋	金 五 十 錢	仕 上 用 鉋	金 一 圓 三 十 錢
普 通 鉋	金 三 十 錢		
鉋 運 轉 器 械	金 十 二 三 圓	丸 鑿	金 十 二 三 錢
三 角 鑿	金 二 十 錢	小 刀	金 十 錢

製作品種類及價格

須棒、未製品ニシテ全生産ノ九割ヲ占ム一ダ一サノ價格十五—十六錢、副業的製品ニ適ス

曲木、茶色仕上品ニテ輸出向キナル時ハ一ダ一サ一圓二三錢ナリ、專業的製品ナリ生産歩合ハ〇、五分

一文字、灰色仕上品内地向一ダ一サ金二圓三十錢本品ハ曲木ノ如ク人工的ニ曲ゲシモノニアラデ天然的ニ直角ニ曲ルモノナリ然シテ洋傘柄ノ表六寸曲リノ長四寸徑一寸五分ノモノナリ、專業的製品ナリ生産歩合

〇、五分

製造時期及工程

十月乃至四月下旬一人平均一日十五ダ一サナリ

收支計算

收入 金二圓二十五錢 須棒 十五だゝす賣却代
支出 金一圓四十錢

内譯 金六十四錢 原料購入代

金五十錢 加工賃

金十錢 器械償却金

金二十錢 雜費及荷造費

差引 金七十六錢 (益)

生産人

田方郡伊東町 高橋 仲三 (專業)

同郡對島村池 小川熊太郎 小川直太郎

賀茂郡下河津村田中 森 卓郎

販路及需用者

須棒ハ東京市淺草區千束町 島田善四郎

曲木ハ東京日本橋區藥研堀 土屋忠太郎

一文字 同上

或種取扱者、東京下谷區二長町 竹中 政吉

運送方法及運賃

對島村産ハ八幡野マデ約一里馬ヲ用フ一駄百四十だゝす賃金三十錢八幡野ヨリ汽船ニテ東京ニ出ス

製造ト分業

小川熊太郎氏ノ經營セル處ハ男女ハ左ノ通りニ分業セシメ其日當次ノ如シ

男 工 (五十錢) 曲、荒削、矯メル事、彫刻

女 工 (二十五錢) 磨、にす塗布、上削

經濟的概況及將來ノ見込

本業ハ稍專業家ノ行フモノニシテ小川氏ノ如キハ本業六分農業四分ノ經營者ナリ、尙農業トシテモ養蠶三分畑作一分ノ生産狀體ニアリ然レドモ本業中須棒製造ハ一家三人ノ手間アレバコレヲ行フベシ故ニ原料豐富ナル地方ニテハ副業トシテ將來有望ニ屬ス

第三節 橙

沿革

田方郡多賀村ニテハ從來新年ハ飾用トシテ古來東京方面ニ輸出シ本縣橙トシテ東京市場ニ名高キ處ナリキ然ルニ志太郎産ハ藤枝町影山清一及岡野安太郎安藤菊次郎諸氏ニヨリ明治三十年頃ヨリ東京方面ニ輸出セラレ明治四十年頃ヨリ益盛トナリ、庵原郡産ハ江尻町望月正次郎氏其他ニヨリ明治三十五年頃ヨリ北海道方面等ニ輸出シ富士郡岩松村ニテモ大正五年ヨリ北海道及長野縣ニ輸出スルニ至リ何レモ新年用ハ飾トシ

ヲ使用セラルナリ然ルニ前記望月正次郎氏ハ大正四年ヨリ米國シヤトシトシニ輸出スルニ至レリ同地ニテハ橙ニテじやむヲ製シ用途多し殊ニ大正五年ノ如キハ歐洲戰亂ノ結果歐洲ヨリ米國ヘノ輸出殆ド中絶セシタメ本邦産橙ノ需要多ク望月正次郎氏シヤトシトシニ輸出セシモノノミニテモ約千五百箱ノ多キニ達セリ、然レドモ米國太平洋沿岸ハ柑橘ノ検査嚴重ナリシヲ以テ内約半數ハ陸上拒絶ノ悲運ニ遭遇セリ

産額

産地	戸數	數	量	價	格	備	考
田方郡	七		一、五〇〇		七五〇	單價一箱五十錢	
富士郡	一		八〇		四〇	内一五〇〇箱米國行一箱一圓四十錢	
庵原郡	四		二、五〇〇		二、六〇〇	箱内地行一箱五十一錢	
志太郡	三		一、〇〇〇		六〇〇	一箱六十錢	
計	一五		五、〇八〇		三、九九〇		

採收法

内地向ハ何レモ用途新年ベ飾用ナレバ需要地ニ於テ新年ヲ迎フルニ間ニ合フ様採收スベキニ付十二月上旬乃至中旬マデノ間ニシテ十二月上旬最モ盛ナリ、然シテ採收上二三葉ノ葉ヲ附シテ採收スルガ普通ニテ他ノ柑橘類ト其趣キヲ異ニス次ニ外國向ハ用途じやむ原料タルヲ以テ自然新年用採果後ノモノ即チ稍新年賣殘品ノ如キモノコレニ向フヲ以テ病蟲害ノ被害多キモノヲ含ム事アリ、大正五年前記望月氏ノ失敗ノ如キ蓋シコレニヨルモノナリ

採集者ハ多ク仲賣人ニシテ生産家ノモトニ至リ一箇二厘乃至三厘ノ相場ニテコレヲ取扱商人ニ販賣ス橙ノ價格ハ多少産地其他ニヨリ異ナルモ主ナル處左ノ如シ(但一箇ニ付)

- 田方郡多賀村 二厘
- 富士郡岩松村 二厘一三厘
- 庵原郡江尻町 二厘五毛
- 志太郡藤枝町 三厘

荷造法

採果セルモノハコレヲ石油箱ニ容ル、ニテ一箱容量ハ約百箇ナリ但シ外國行ハ普通柑橘ト同ジクばらふいん紙ニ包ミテコレヲ箱詰トナシ普通柑橘ト同ジク繩ヲカケ出スナリ

收支計算

内地向(藤枝産東京送) 一箱ニ付キ

- 收入 金六十錢
- 支出 金五十三錢
- 内譯 金三十錢
- 橙百個代金
- 石油箱代
- 金十二錢五厘
- 運賃其他諸掛
- 金五厘
- 繩代
- 差引金七錢
- (純益)

外國向（江尻産しやゝとる送）一箱ニ付キ

收入 金一圓四十錢

支出 金一圓三十五錢

内譯 金二十五錢 橙百個代金

金八十五錢 運賃其ノ他

金十五錢 箱代

金十錢 包紙代其他

差引金五錢 (純益)

主ナル取扱人

田方郡多賀村 小松 爲作 西島 縫右衛門 梅原 隆吉 向井 春助

同 網代村 堀江 多三郎 稻葉 又兵衛 土屋 吉太郎

富士郡岩松村 信用販賣購買組合

庵原郡江尻町 望月 正次郎

志太郡藤枝町 影山 清一 安藤 菊次郎 岡野 安次郎

販路及販賣取引

田方郡多賀村産ハ東京及ビ横濱ニシテ東京ハ主トシテ神田青物市場ニ出シ富士郡岩松村産ハ函館及飯田市
庵原郡産ハしやゝとる、函館、小樽、札幌、旭川等志太郡産ハ東京ニシテ販賣取引ハ總ベテ柑橘ニ準ズ

將來ノ見込

現今ニ於ケル内地ノ用途ハ何レモ多クハ前記ノ如ク新年ベ飾用ナリ然ルニ近時枸橼酸製造ノ原料トナリ其
他用途廣キモノナレバ將來ノ見込多ク家庭果樹類トシテハ缺クベカラザルモノナリ現ニ富士郡岩松村ノ如
キ平均一樹ノ生産量ハ約二千個價格四圓乃至六圓ニシテ何レモ新年用トシテ販出セラレツ、アリ加フルニ
コレガ販路ハ柑橘類及梨等ニ準ジ信越地方ヨリ東北乃至北海道方面ニ多ク有望ナル生産品トス

第四節 線香

沿革

農家副業トシテ線香ヲ製造スルハ濱名郡小野日村小松竹内小三郎氏最モ古クシテ同氏ハ初メ引佐郡氣賀町
徳右衛門ト稱スルモノニ付本業ヲ學ビ約四十年來之ヲ行ヒ續テ同村平口鈴木市郎平氏モ之ヲ初メ近來良品
ヲ産スルハ富士郡上野村ナリ、同村字上條小字上川ニ淺香仁太郎ト云フ甲州ヨリ移住セル農民アリ、其住居
大石寺ノ附近ニテアリケレバ線香業ハ副業トシテ有利ナルモノナラント思ヒ明治四十二年甲州嶽ケ澤在青
柳ニ至リ之ガ製法ノ指導ヲ受ケントシテ至リシニ同地線香業者某ハ其弟子ニ目下富士郡大宮町ニ黒田某ト
云フモノアリ故ニ詳細ハ同氏ヨリ知ルベシトノ事ニ直チニ逆旅シ大宮町ノ同氏ニツキコレヲ學ビ遂ニ明治
四十三四年頃ヨリ本業ヲ營ミシモ面白カラズ茲ニ再ビ線香製造ニ名高キ堺市ニ至リコレヲ修業シ大正三年

ニハ仁太郎長男某ヲシテ岐阜縣山形郡泉村ニ修業セシメ漸ク今日ニ至リ完全ナル線香ヲ製出スルニ至レリ

産額

郡名	村名	生産戸數	數	量	價	格
濱名郡	小野口村	二		五〇(大)		六五〇〇
富士郡	上野村	一		三、九〇〇(小)		一八七・五〇
計		三		大 三、九〇〇 小 三、九〇〇		八三七・五〇

(備考) 右ハ副業家ノ産額ニシテ專業者ヲ含マズ

原料

樟皮ヲ上等トシ杉葉ヲ下等トナス

(原料ノ需給) 富士郡ニテハコレ等原料ハスベテ附近ニ於テコレヲ求メ杉葉ノ如キハ伐採又ハ下刈等ノ際生葉三十五貫ニ付二十五錢―三十錢ニテコレヲ求メ樟ハ多クハ樟腦製造ノ殘粕ヲ購入ス、濱名郡ニテハ下阿多古村及ビ三河國大野町岡崎町ヨリ購入ス

(原料ノ製造) 富士郡ニテハ生葉ヲ約四ヶ月位乾燥シ前記ノ如キ水車ニテ製粉スルニテ同氏ハ一斗入臼(徑一尺深一尺五寸) 四箇ヲ設備シコレガ製造ヲ行フ

製造法

(製造用具) ベ器、製造ニ際シ最モ必要ナル器械ニシテ原料ノ煉リタルモノヲ壓搾スルモノ一臺金二十

五圓

一、干板 五百枚、線香ヲ乾燥スル板ニテ長三尺幅六寸一枚ニ付金六錢

一、取板 八十枚、ベ器ヨリ出テ來ル線香ヲ取ル板ニテ長八寸幅六寸兩端ニ木片ヲ以テ足ヲ表面ニ對シ交互ニ即チ一端ガ下方ニ向キ一端ガ上方ニ向ク様ニ附シタルモノ然ル時ハコノ板ヲ重ヌルニ際シ板上ニ空所ヲ生ジ、其ノ間ニ排置セル線香ヲ損傷セズ一枚ニ付一錢

一、丈板 一枚、線香ノ寸法ヲ取ル板ニシテ一枚ニ付二十錢

一、捏桶 一箇、普通ノ盥ヨリ稍大ナルモノニテ一箇金一圓但安倍郡入江町三丁目杉山東太郎氏ノ使用セルモノハ二人ニテ廻轉スル攪拌器ニシテ一臺約二十圓ナリ

(製造法) 製造法ハ線香ノ種類ニヨリ多少異ナリ又製造者ニヨリテモ一定セザルモ淺香氏ニヨレバ左ノ如シ

原料ノ製粉セラレシモノハ原料一斗五升ニ付湯三升ヲ入レ約三十分捏ネ攪拌器ナレバ十二三貫ニ付湯一荷ヲ入レ捏ネルナリコノ時攪拌器ヲ使用セバ約二十分ニシテ捏上ルナリカクテコレヲベ器ノ壺(原料ヲ容ルル處)ニ入レ滑車二箇ヲ利用シテベムルナリコノ壺ハ徑一尺アリ其底部ニ眞鍮製ノ篋アリコ、ニ穴六十箇アルヲ以テ填充セシ原料ハニノ穴ヨリベメラル、ガマ、ニ針狀トナリ出テ來ルコレヲ丈板ニテ取り寸法ヲ揃ロヘ次ニ干板ニ乗セ約一週間陰地ニテ乾燥スカクセバ普通ナル線香トナルナリ
上等ナルモノハ攪拌ノ際神香、ういさよう、びやくしん等ノ香料ヲ加フ但シ原料杉ナル時ハ香料ヲ加ヘズ

香料ヲ加フモノハ原料樟ヲ佳トス

本製造上ベ器ヨリ出テ來ル原料ヲ干板ニ乘スマデガ最モ熟練ヲ要スル處ニテコノ間約二人ニテ四時間ヲ要ス

尙ホ原料不良ノ節ハ生麩ノ如キ糊料ヲ用フ

製品ノ調整

富士郡ニテハ線香乾燥セバ約二十匁ヲ一束トナシ一日一人約八十束ヲ整理シ得ベシ次ニコレヲ紙卷キトナシ續テ商標ヲ張ルコノ紙卷キハ一人一日ニ付約四百包ミヲ行フベシ、上等品ハ更ラニコレヲ箱ニ入ル、濱名郡産ハ一束約十二三匁ニシテ束トナセバ約三箇所ヲ紙片ニテ結ビコレヲ石油箱ニ容レタルモノナリ

製造時期ト商況

本製造期ハ春、夏、秋ノ頃ニシテ濱名郡ニテハ五―八月ノ頃最モ盛ナリ富士郡ニテハ冬期ハ産地寒地ニ付製作ニ當リ氷凍スルヲ以テ行フヲ得ズ

本品ハ益會、彼岸、十一月(日待ノタメ)ノ三期ニ最モ商況ヨロシク其他ノ時期ハ不良ナリ

製品ノ種類及價格(一束ニ付)

等級	主原料	卸價	小賣價
上等	樟(神香ヲ加フ)	一四錢	二〇錢
中等	樟	三錢五厘	五錢

下等	杉	六厘五毛	一錢
----	---	------	----

コレ富士郡産ノ價額ナルモ濱名郡産ハ何レモ下等品ニシテ一束卸價二厘、小賣價五厘ナリ、尙ホ若干ノ巻線香ヲ産ス

收支計算

濱名郡小野口村産普通線香一箱ニ就キ調査

收入 金一圓三十錢 線香一箱賣却代(四二〇束入)

支出 金七十三錢

内譯 金六十五錢 原料五貫〇四〇匁代

金九錢 容器箱代

金六錢 糊料及薪代

金五錢 紙及繩代

差引金四十五錢

(備考) 製造出來ルニハ約一週間ヲ要シ箱詰メ出ス迄ニハ約十日ヲ要ス

荷造及販路并ビニ取引法

濱名郡産ハ石油箱ニ入レ一箱約四〇―四三〇束入トナシ取引先キ近キモノハ蓋ニ麥藁ヲ用ヒ遠キハ木蓋ヲ用ヒコレニ繩カケ出スナリ、富士郡産ハ取引先キハ何レモ附近ナルヲ以テぼーる紙製小箱ノマ、産出セ

ラル、ニ過ギズ

販路ハ濱名郡産ハ濱松八分、二俣、氣賀、金指ニテ二分ノ比ニテ富士郡産ハ大宮及附近トス
取引ハスベテ生産者直接販賣ヲ行ヒ特ニ仲買者ヲ煩ハス事ナシ

主ナル製造者

(專業家) 田方郡三島町、長谷川多次郎、野澤益太郎、安倍郡入江町三丁目、杉山東太郎、磐田郡見付町上川原、萬能八平郎次、同、篠津淺次郎、濱名郡天神町村伊藤秀次郎、同郡小野口村小松、石原多吉

(副業家) 富士郡上野村上條、淺香仁太郎、濱名郡小野口村小松、竹内小三郎、同村平口、鈴木市郎平
將來ノ見込

本業ハ年次衰退ニ赴キ專業者ノ本業ヲ休止スルモノ甚ダ多シコレ製造品ノ需要少ナキト近時原料ノ價額騰貴シ濱名郡小野口村ノ如キ約四十年前迄ハ一圓ニ付六俵ナルモノ現今ニアリテハ一俵約二圓ナリサリトテ製造品ハ原料ノ昇價ニ伴ハズ收益甚ダ少ナシサレバ農家副業トシテハ望ミ少ナク唯現在ノ製造者ガ家傳的ニ行フニ過ギズ、且ツ本製造時期ハ本縣農業狀態ヨリ觀察セバ農繁期ナルヲ以テ更ナリ故ニ現今ノ從業者ハ農業兼線香業者トモ云フベキモノニテ濱名郡從業者ハ農トシテハ糸瓜、薑、甘藷、陸稻、麥ヲ栽培シ富士郡從業者ハ桑、米麥、甘藷、蕎麥、里芋ヲ栽培シ一副業トシテ水晶彫刻業ヲ行ヒツ、アリ

第五節 肥料用海藻

沿革

肥料用海藻ノ採集盛ナルハ濱名湖ナリ遠江國風土記傳村櫛ノ條ニ曰フ「(前略)漁獵者阿具利或鹽燒、藻刈以爲産業」トアリテ殊ニ濱名郡村櫛村ハ古來コレガ採集盛ナリ傳ヘ云フ徳川家康三方原ノ戰ニ敗戦シコノ村ニ來ル時ニコ、ノ鈴木平四郎ト云フモノ家康ヲ隱閉セシタメ後家康ハ其功ニヨリ同人ノ租稅ヲ免ジ尙ホ村櫛村ニハ濱名湖中千百町歩ノ海藻採集權利ヲ與ヘタリト云フ以來コノ附近ニテハ盛ニ採集セラレ且コレガ採集權利上隣村ト争鬭セシ事モ尠ナカラズ現今村櫛村採集地域境界線ニ平三杭ト云フモノアリ昔濱名郡雄踏村ノ平三ト云フモノ村櫛領内ノ海藻ヲ採集セシヲ以テコノ杭ノ位置ニテ村櫛村民ノタメニ殺害セラレ以來其場所ヲ平三杭ト稱シ境界上一目標トナシ居レリ

産額

郡町村名	採集戸數	數量	價額	單位價
濱名郡村櫛村	四〇〇	一、〇一〇、〇〇〇	五、〇五〇	五
同 吉津村	一	二一、八〇〇	一七五	八
同 北庄内村	一	七八〇、〇〇〇	三、九〇〇	五
同 南庄内村	二	五〇〇、〇〇〇	二、五〇〇	五
同 知波田村	一	三二、〇〇〇	二二四	七
同 篠原村	一	五〇、〇〇〇	五〇〇	五
同 引佐郡氣賀町	一	三〇〇、〇〇〇	一、二〇〇	四
同 東濱名村	一	一〇〇、〇〇〇	四〇〇	四
同 西濱名村	一	一〇〇、〇〇〇	四〇〇	四
計		二、八九三、六〇〇	一四、三四九	四

海藻ノ種類及產地

濱名湖ニ於テ肥料用トシテ採集スル海藻ハ未ダ本名ハ判然セザルモ方言ニテ左ノ三種類最モ普通ナリ

名稱	産量歩合	産地
しょうぶ	七	深キ處ニ生ズ
にら	二	浅キ處ニ生ズ
まもく	一	兩間ノ中間ニ生ズ

採集法

(時期) 七月二十日乃至三月下旬

(採集器) 三間長ノ舟、附屬器共ニテ金六十五圓使用年九—十年二人ニテ操リ海藻一噸ヲ收容スベシ
こまざらえ 三—五尋ノ長ノ柄ヲ附シ先端ニ櫛ツキ長三尺(櫛製)コレニ長六寸ノ齒五十本(齒ハ竹製)ツケ
シモノニテ使用期間二乃至三年一箇金一圓二十錢

(採集) こまざらえニテ海藻ヲ採ル事採集地ハ平均四尺ノ深サ也別ニわじざはヲ用フ、コレハ長二尋乃至四尋ノ竹二本ノ中央ヲ縛リ使用ニ際シ竹ヲヒロゲ草ヲ挟ミ取ルモノナリまもく或ハにらハコレニテ取レルナリ

(一日採集量) 二人ニテ一噸ヲ採集シ得ベシ其價格一圓二三十錢ナリ

用途及販賣

用途ハ肥料トシテ庄内地方ニテハ堆積トナシ反當用量五舟其他地方ニテハ反當二—三舟分ナリ然シテコレガ肥料ハ三方原開墾地等ニ販賣セラレ村楡村ニテ販賣者三十八名アリ

將來ノ見込

濱名湖ニ於ケル海藻ハ明治維新ノ頃地震ノタメ湖深クナリ從テコレガ産量ヲ減ゼリト老人ノ談ニヨレバ昔ハコノ海藻ノタメ舟ノ便アシキ程ナリシト云フ然ルニ殊ニ明治四十年來、甚シクコレガ減少ヲ見ルニ至レルモ本業ハ湖畔地方衆民ノ副業トシ且肥料トシテ缺クベカラザルモノナリ

第六節 淺草紙 (一名塵紙)

沿革

淺草紙一名塵紙又ハすきがヘシト云フ東京淺草ノ産名高キヲ以テ淺草紙ト云フ農家副業トシテコレガ製紙盛ナルハ濱名郡ナリ同郡富塚村ニテハ明治初年ノ頃ヨリ産セラレ同郡笠井町ニテハ明治二十年頃三重縣人佐藤某市野村ニ來リ初メシガ自然附近ノ農民コレニ習ヒ明治三十年頃ニハ株式組織ニマデ至リシガ後三四年ニシテ散會シ以來ハ殆ド專業者ノ行フモノナク農家ノ副業トシテ行フモノニテ大正元年頃ヨリ多少増加スルニ至レリ

産額

産名郡	笠井町	戸數	産量	價額
濱名郡	笠井町	一九	二二、四〇〇	二、五〇八

同	富	村	九	一、六〇〇	九二八
同	中ノ	町	四	八、八〇一	五二八
同	飯	田	四	四、〇三二	二六二
計		村	四六	四六、八三三	四、二二六

原料

(原料ノ需給) 紙屑、苛性曹達、黃蜀葵ガコレガ原料ニテ紙屑、曹達ハ濱松市其他ヨリコレヲ集メ黃蜀葵ハ多ク自家栽培ノモノヲ用フ

(原料ノ價格) 紙屑ハ上一貫目七乃至八錢、下三錢ナリ製造ニ當リ上六、下四ノ比ニ混合シテ用フ、苛性曹達一封二十錢

製造器具及設備

- (漉小屋) 九尺ニ一丈位ノ小屋自家製三十人手間ヲ要ス
- (竈) 自ラ築造シ半日ニテコレヲ作ルベシ
- (釜) 七、八貫目ノ釜ヲ用フ古物ニテ一圓五十錢
- (石臼) 四圓(古物ニテ一圓五十錢)
- (杵) 十五—二十錢
- (木綿晒袋) 八尺ニテ出來居ルモノ二十四錢
- (漉舟) 長五尺幅三尺深一尺、金五圓

(漉桁及簀) 三圓七八十錢(五—六臺ニテ)

(器) 螺旋器一圓

(乾燥板) 二十板一枚(一板六十錢)

(づつく) 漉キシ紙ヲ乗スモノ約五六十錢

(剝取棒) 剝ギ取ルニ棒ニ卷キツ、剝取ルナリ

製造方法

紙屑四〜乃至五〜ニツキ苛性曹達一封ヲ入レ、釜ニテ煮沸ス、但シ苛性曹達ハ沸騰前ニ入ル、モノナリ然ル後コレヲ石臼ニ入レ固形物ノ消失スル度ニ搗ク事約一時間コレヲ木綿晒袋ニ入レ川ニテ晒スナリ一回分晒スニ約十分ヲ要スベシ、然ル後漉船ニ入ル、ナリ漉船ニハ豫メ水ヲ入レコレニ黃蜀葵ヲ入レタル後コノ川ニテ晒セルモノヲ投ジ漉桁ニ簀ヲ入レ漉クナリ、カクテ漉キシモノハづつく上ニ乗セ一枚毎ニ間ニまにら麻糸ヲ入レツ、高クツミ器ニテ絞リ後コレヲ一枚づつ、剝取シ乾燥板ニ張り、晴天ナレバ約二十分陽干セバコレヲ一枚九ツニ切ルナリ、切ラザルモノハ其大サ長二尺七寸幅二尺一寸ナリ、コノ陽干ハ一日一人ニ付千枚分ヲ處理シ得ベシカク切りシモノハ二十枚ヲ以テ一帖トナシコレガ十二ニテ一貫目トナス其價金八錢ナリ

(製造時期及工程) 一月乃至四月ノ農閑期ハ多ク行ハレ夏及秋ハ甚ダ少ナシ本業ハ二人以上ノ勞力ナキ

家庭ニテハ行フ事能ハズ一日一人ノ製造工程ハ約五貫目ナリ

收支計算

濱名郡笠井町役場ニテ調査セシ處ニヨレバ左ノ如シ

差支收	大正四年度計算		五ヶ年平均	
	引出	入	平均	均
	二、五〇八・〇〇	一、九八〇・〇〇	一、九八〇・〇〇	一、九八〇・〇〇
	一、三五一・八〇	九七七・三〇	九七七・三〇	九七七・三〇
	一、一五六・二〇	(益) 一、〇〇二・七〇		

主ナル生産人

- 濱名郡笠井町笠井新田 齋藤金作 竹山想太郎 坪井茂平 高井力藏
- 高井唯太郎 門奈濱吉
- 同 富塚村富 塚 内藤吉平 鈴木彦三郎 神村開三郎 池谷友吉
- 鈴木ハツ 三輪喜平次 池谷彦松
- 同 村和合 内山庄平 澤柳菊太郎
- 同 郡中ノ町村 高柳彌平
- 同 郡飯田村 高橋孫吉

販賣法及販路

生産家直接紙商其他ニ販賣スルモノ多ク販路ハ主トシテ濱松、笠井町等ノ生産地附近ノ都會トス

經濟的概況及將來ノ見込

本業澁ニ約三ヶ月板張約一ヶ月修業ノ上完成スルモノナリ然シテ老若女ヲ問ハズ從事スル事ヲ得ルガ故ニ勞力トノ關係ナシ且農閑期ニ行フヲ以テ本業トノ關係頗ル圓滑ナリサレバ濱名郡笠井町等ニテハ廢物利用タル本業ハ比較的利益アルモノナレバコレヲ獎勵シツ、アリ從テコレガ發展ノ見込多シ

第七節 田螺

沿革

田螺ハ縣下各地ノ水田ニ棲息シ其大部分ハまるたにし (Viviparus malleatus Reeve.) ト稱スルモノナリ農家ハ方言、つぼ、たぬし、たのし等ト云ヒ古來至ル處ニ捕獲セラレ小笠郡南部地方(岩滑村、中村、平田村)及ビ濱名郡市野村産ハ殊ニ名高シ濱名郡市野村字上石田ハコレガ主産地ニテ且ツ良品ヲ産スルヲ以テ遠ク中瀬村附近ノモノ採集ニ來ルヲ以テ同字戸主會ハ村民捕獲ヲ保護スルタメ捕獲期間ニハ各水田ニ「他村ノ者入ルベカラズ」ノ符ヲ立テ以テコレガ侵來ヲ防ギツ、アリ

本縣産田螺ハ近年耕地整理各地ニ行ハレ爲メニコレガ産額ハ減少シツ、アリ

産額

郡村名	取扱戸數	數	量	價	額	單價(一升)
小笠郡岩滑村	一〇五		一〇〇〇石		一八〇圓	一八圓
同 平田村			四〇〇		七二	一八
濱名郡市野村	一		〇・四		一〇	二五

濱名郡	中瀬村	計	一七	〇・四	一〇	二五
			一四・八		二七二	

捕獲法

(產地) 平田村捕獲者ニヨレバ淺田産良品ニシテ深田産ハ下品ナリ又市野村ニテハ砂地及沼田ノ産ハ質堅ク味不良尙ホ汚水流込地モ亦良品ヲ産セズ然レドモ沼田ニテモ肥料ヲ多ク施用スル處ノ産ハ良品ニテ從ヒテ八月捕獲セルモノハ肥料ヲ吸收シ居ルヲ以テ味ヨク且肥大ス

(捕獲時期) 小笠郡ニテハ二月中旬ヨリ四月中旬濱名郡ニテハ三月上旬乃至四月下旬及ヒ八月ニテ鎌節旬ノ頃最モ盛ナリ

(捕獲者) 捕獲者ハ何レモ細民ノ婦女子ニシテ採集期間ハ自村ハ勿論附近ノ隣村ニマデ侵入シコレヲ捕獲ス

(捕獲量) 一日一人約身ニテ二升乃至三升ハ普通トシ多キハ七八升分捕獲スルモノアリ

調理法

捕獲セルモノハコレヲ釜ニテ煮蓋去レバ後木綿針ニテ殻ヲ除クガ普通法ナルガ近頃たゞさつばト稱シ煮沸後殼ノマ、叩潰シテ後水ニテ洗ヒコレガ體ヲ出スモノ多シ然レドモカ、ルモノハ價格安シ

又静岡市附近ニテハ一月節旬ニコレヲ鹽茹トナシ十箇一串トナシ農民ノ嚮グモノアリ一串金五厘按ズルモ古來習慣トシテ「初夢ヲ見ヌ先キニ田螺ヲ食フヲ吉トス」ヨリ各戸皆之ヲ食フ

收支計算

収入 金三十六錢 田螺約身二升賣却代

支出 金五厘 薪代

差引金三十五錢五厘 (益)

販路及取引法

販路ハ何レモ捕獲地附近ノ都會地又ハ水田ナキ地方ヘナルモ平田村取扱者ハ榛原郡白羽村、御前崎村、金谷町、小笠郡掛川、堀ノ内ヲ普通トシ遠クハ周智郡森町、市野村産ハ郡内中ノ町村及磐田郡二俣町等ニ販出ス、取引法トシテハ捕獲者自ラ販賣スルト附近ノ仲買商(取扱者)ニ賣却スルトアリ、濱名郡産ハ中瀬村ニコレガ仲買アリテ其取引上他ノ地方ト異ルハ仲買商ハ殻ノマ、コレヲ購入シ殻ハ乾燥シ粉狀トナシ肥料用トシテ中瀬村地方ヘ販賣シ肉ヲ二俣町ニ販賣ス

取扱人

小笠郡岩滑村 加藤吉三、同郡平田村下平川下組 伊藤セイ、同村上平川池 大石馬吉、

同村巖田 河原崎ヨネ 濱名郡市野村市野 杉本タツ

用途

下等農民ハ多ク魚類代用トシテコレヲ食ス故ニ大正六年ノ如ク捕獲期ニ當リ鱒ノ漁獲多キ年ハ一般ニコレガ需用少ナシ次ニ古來ノ習慣トシ毎戸コレヲ食フハ正月及三月節旬ナリ、藥用トシテハ安倍郡地方ニテハ

腫物患者コレヲ味噌焼キトシテ食ヒ、濱名郡市野村ニテハ腫物療法ニ生ノ田螺ノ肉ト蕎麥粉トヲ混合セシモノヲ塗布シ効アリト云フ但シ各地トモ田螺ト蕎麥ハ俗ニ食ヒ合セト稱シ恐レツ、アリ
其他養魚、養鶏ノ餌トシ又漁魚ノ餌トシ殻皮ハ肥料トシ濱名郡北部ニアリテハ甘蔗及煙草ニハ特効アリト稱ス

經濟的概況

捕獲時期ハ何レモ農閑期ニシテ當時多ク細民ノ婦女ハ小笠郡南部地方ハ葛絲繫ギヲ行フガコレニテハ僅ニ一日金十錢位ノ收入アルノミ然ルニコレガ捕獲ハ少クトモ二三十錢トナルヲ以テコレガ經濟的概況ハ極メテ良好ナリ

第十二章 苗木類

第一節 桑苗

沿革

本縣ニ於ケル桑苗ノ古クヨリ産セラレシハ引佐郡及ビ濱名郡ナリ、按ズルニ引佐郡鹿玉村新原地方ニテハ明治初年ヨリ著名トナリ同地山田彦次郎氏ニヨレバ明治五六年頃ニハ國富、島伊太利ノ如キ品種流行シ一本五十錢ノ高價ヲ示セシ事アリ濱名郡ニテハ天王村古シ同地ニテハ明治十年頃名古屋市ノ長平ト云フモノ天王村附近ニ桑苗行商ニ來リ同村竹山孫八郎宅ニ滞在シ遂ニコノ地ニテ接木ヲ行ヒシガ初メニシテ後竹山

吉三及ビ竹山孫八郎ノ兩氏コレヲ初メ明治十一年ニハ同地勾坂松平モコレヲ行ヒシモ當時多クハ挿木多カリシカクテ明治二十年ニ至リ、茨城縣ヨリ代出シ輸入セラレヌ次ニ同郡北濱村ニテハ字小林ニ於テ明治十五六年頃ヨリ販出セラレ同村中條ニテハ明治二十五年頃ヨリ遠高ヲ産シ、積志村ニテハ明治二十年頃ヨリ遠高ヲ産シ又市野村ニテハ明治二十五年頃ヨリ初マリ明治四十年來盛トナルニ至レリ
彼ノ遠高ハ勾坂松平氏ニヨレバ嘗テ濱名郡ニテハ地苗ト稱シタルモノナルガ天王村下堀高森金右衛門ト云フモノ明治十年頃遠高ト命名セルモノナリト

磐田郡ニテハ井通村彌藤太島、熊岡角太郎氏明治三十二年頃ヨリ該地産ヲ販出スルニ至レリ
駿東郡ニテハ明治十五六年頃ヨリ印野村地方ヨリ産出セラレ殊ニ明治三十五六年來盛トナリ明治四十三四年來魯桑ヲモ産シ目下笑平八分魯桑二分ノ比ニ産出セラレ當地産魯桑ハ特ニ久太郎魯桑ト稱シ印野村岩瀬久太郎氏ノ選出セシ品種ナリ

扱桑苗ハ大正五年來著シク其産額ヲ増加シ殆ト本邦各地ニ輸出スルニ至レリ

産額

郡町村名	生産戸數	數量	價額	單位	價額
引佐郡鹿玉村	二五〇	八〇〇〇〇〇	四〇〇〇〇〇	個	三〇
濱名郡北濱村	六〇〇	三〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇〇	個	三〇
同積志村	七〇〇	二七五〇〇〇	一三五〇〇〇〇	個	三〇

苗木ノ價格

苗木ノ價格ハ變動多キモノナルガ大正六年春相場ニヨレバ千本ニ付平均次ノ如シ(濱名郡市野村)

遠高 一圓五十錢 (魯桑類) 十圓 十文字類 六圓

次ニ苗ノ大サニヨレバ(濱名郡天王村)

種 類	三尺以上	二尺以上	尺以上
和助十文字	一錢二厘	六 厘	三厘六毛
十文字	七 厘	四厘二毛	一厘二毛
魯 桑	一 錢	六 厘	三厘六毛

荷造法

荷造法ハ土地ニヨリ又輸出先キノ遠近其他苗木品種等ニヨリテモ多少異ル處ナルガ遠高類ハ小東百本トシ一捆千二百本入、大葉物ハ小東五十本トシ一捆六〇〇—八〇〇本入ヲ普通トセル菰包ミニセルモノニテ市野村山本鐵次郎氏ノ如キハ遠國輸送ノモノハ千本ニツキ二束ノ濡レ藁ヲ用ヒ途中ニ於ケル乾燥ヲ防ギツ、アリ千本一捆ニツキ左ノ費用ヲ要ス

藁	二錢	蓆	三錢	繩	三錢
手間	五錢	小運送費	五錢	計	金十八錢

注意 藁ヲ濡ラス程度最モ重要ナル事ニシテ天然的ニ濡レシ程度ノモノヨシ、一時的ニ水ヲカケシガ如キハ不良ナリ殊ニ青森等ノ寒冷地方へ輸出ニ際シテハ凍ルヲ以テ藁ヲ多ク水ヲ少ナク用フベキナリ

販路及取引時期

大分、宮崎、鹿兒島、鳥取、愛知、奈良、德島、香川、岐阜、三重、和歌山、廣島、岡山、滋賀、兵庫、神奈川、埼玉、群馬、山梨、茨城、福島、宮城、岩手、青森、長野、千葉、富山、新潟等縣外九割乃至八割ノ大部分ヲ占メ縣内ハ甚ダ少數ヲ極ム
取引時期ハ十一月乃至三月ナルモ二月下旬乃至三月下旬最モ盛ニシテ四月上旬ニ及ブ事アリ

主ナル取扱人

引佐郡鹿玉村新原	山田彦四郎
濱名郡北濱村小林	村松治作 鈴木源作 鈴木濱太郎
同 郡同村横須賀	小林良作 小杉宇吉
同 中條	高柳吉三 松下惣十 高柳七郎
同 郡積志村橋爪	村木益吉 同 清吉
同 村西ヶ崎	富士森 榮次郎
同 赤佐村雲岩寺	野澤勝太郎
同 村於 呂	掛畑安太郎
同 市野村市野	岡野德太郎 山本鐵次郎
同 天王村下石田	勾坂松平 伊藤茂平 伊藤要次郎 伊藤鐵次郎

同 村下堀 袴田長太郎
 磐田郡井通村彌藤太島 熊岡角太郎
 富士郡大宮町萬野 日原儀八
 同郡富士根村小泉 遠藤彌十郎 石川茂作
 駿東郡長泉村 池谷伊勢
 同 印野村 石田房五郎 岩瀬久太郎 山本文次郎

收支計算

一、代出法十文字苗ノ場合(磐田郡井通村ニ付調査)

收入 金百六十二圓七十五錢 十文字苗反當賣却代
 内譯 金百〇四圓 三尺以上一等苗一三〇〇〇本賣却代
 金十二圓五十錢 二尺—三尺中等苗二五〇〇本同
 金一圓二十五錢 二尺以上苗 五百本同
 金四十五圓 苗仕立中收穫葉代
 支出 金百一十一圓四十錢
 内譯 金五十圓 原料代
 金三十五圓 栽培及掘上費用

差引金五十一圓三十五錢 (益)

二、接木法甘露桑苗ノ場合(同上村ニテノ調査)

收入 金二百八十圓 甘露桑苗反當賣却代
 内譯 金二百圓 一等苗一萬本賣却代
 金三十二圓 二等苗二千本賣却代
 金三圓 三等苗一本賣却代
 金四十五圓 苗仕立中收穫葉代
 支出 金百九十二圓九十五錢
 内譯 金百三十二圓五十錢 原料代
 金三十五圓 栽培及掘上費用
 金二十圓 肥料代
 金三圓 植込費用
 金二圓四十五錢 荷造及小運送費

差引金八十七圓〇五錢 (益)

經濟的概況及將來ノ見込

生産地附近ニアリテハ桑苗木ニヨレル收入ハ一戸ニ付五十圓乃至五百圓ニシテ經濟上ニ及ボス處大ナリ殊ニ大正五年來養蠶ノ景況良好ナリシヲ以テ自然桑苗ノ需用モ増加シコレガ生産モ頗ル増加シツ、アルモ本業ハ養蠶ノ景況ニ伴フ一種ノ企業ナルヲ以テ將來ノ見込不明ナルモノナリ

附録

引佐郡鹿玉村農會ノ桑苗生産調査ハ參考ニ資スベキモノ多シ左ニコレヲ抄録ス

桑苗生産調査(大正五年分)鹿玉村

Table with columns: 種類名, 苗圃反別, 三尺以上, 二尺以上, 一尺以上, 一尺以下, 同上, 計. Rows include 遠高, 赤木, 九文龍, 八ツ房, 和助十文字, 白桑, 甘樂桑.

Table with columns: 其他接木, 魯桑實生, 內挿木, 實生, 合計. Rows include 價數, 價數, 價數, 價數, 價數, 價數, 額量, 額量, 額量, 額量, 額量, 額量.

備考 接木ノ分類ハ赤木外五種ニ分類スレドモ系統ノ同シキモノハ其内ノ主ナル品種名ヲ記入セリ挿木ハ遠高、實生ハ魯桑ナリトス

桑苗收穫査定表 鹿玉村

一、大正五年生産桑苗反當平均收穫ヲ査定スルコト左ノ如シ
但シ本年ハ前年ヨリ薄仕立ノモノ多ク活着及伸長共良好ニシテ其成績前年ニ比シ佳良ナリトス

一、挿木ノ部

一反歩當收穫

Table with columns: 桑苗丈數, 量, 同上, 歩合, 前年, 同歩合, 前年, 増減. Rows include 一尺以下, 一尺以上, 二尺以上, 三尺以上, 計.

二、接木ノ部

一、反歩當收穫

桑苗丈數	量	同上年	歩合	數	前年	同上年	歩合	增	前年ニ比シ
三	10,000	10,000	100%	9,000	90%	10%	111%		111%
二	2,000	2,000	100%	1,800	90%	20%	110%		110%
一	1,000	1,000	100%	900	90%	10%	105%		105%
計	13,000	13,000	100%	11,800	91%	9%	108%		108%

備考 數量査定ハ村内生産ヲ平均シタルモノナリ

桑苗價格計算表 鹿玉村

一、大正五年生産ノ桑苗統計價格ヲ評價スルコト左ノ如シ

但シ評價格ハ村内生産者ノ大部分賣却セル價格ノ平均ヲ標準トセリ

一、挿木ノ部

尺	數	本年	反歩	數	前年	前年ニ比シ
三	1,500	15,000	10	1,000	10,000	110%
二	2,500	25,000	10	2,000	20,000	112.5%
一	3,000	30,000	10	2,500	25,000	120%
計	7,000	70,000	10	5,500	55,000	109%

二、接木ノ部

尺	數	本年	反歩	數	前年	前年ニ比シ
三	1,000	10,000	10	800	8,000	125%
二	2,000	20,000	10	1,500	15,000	133.3%
一	3,000	30,000	10	2,200	22,000	136.4%
計	6,000	60,000	10	4,500	47,000	127.7%

三、實生ノ部

實生一反歩生産數量十萬本價格ハ平均一本代七毛反當金七十圓ノ收穫トス

桑苗生産狀況 鹿玉村

年次	數量	價格	生産額	數	價	木	額	數	價	木	額	計	價
明治四十三年	10,000	100,000	10,000	10,000	100,000	10,000	100,000	10,000	100,000	10,000	100,000	10,000	100,000
同四十四年	10,000	100,000	10,000	10,000	100,000	10,000	100,000	10,000	100,000	10,000	100,000	10,000	100,000
同四十五年	10,000	100,000	10,000	10,000	100,000	10,000	100,000	10,000	100,000	10,000	100,000	10,000	100,000
大正元年	10,000	100,000	10,000	10,000	100,000	10,000	100,000	10,000	100,000	10,000	100,000	10,000	100,000
同二年	10,000	100,000	10,000	10,000	100,000	10,000	100,000	10,000	100,000	10,000	100,000	10,000	100,000
同三年	10,000	100,000	10,000	10,000	100,000	10,000	100,000	10,000	100,000	10,000	100,000	10,000	100,000
同四年	10,000	100,000	10,000	10,000	100,000	10,000	100,000	10,000	100,000	10,000	100,000	10,000	100,000
同五年	10,000	100,000	10,000	10,000	100,000	10,000	100,000	10,000	100,000	10,000	100,000	10,000	100,000

備考 明治四十三年ヨリ大正二年迄ノ間ニ於ケル實生ハ挿木ノ部ニ合算シタルヲ以テ欄中記載ナク

第二節 柑橘苗

沿革

引佐郡鹿玉村新原ニテハ紀州蜜柑苗木ハ明治維新前ヨリ産シ桑苗ニ比シ其沿革古キモノニテ同村川合三五郎ト云フモノハ天保ノ頃ヨリ駿州ニ販出セリ庵原郡ニテハ飯田村及袖師村ノ産有クナリ飯田村高橋ニテハ千葉淺次郎氏コレガ元祖ニシテ明治七年頃ヨリコレヲ取扱ヒタリ然ルニ明治二十八九年頃庵原郡杉山及山切ニテ盛ニコレガ栽培セラレシ以來各地ニ販出セラレタリ袖師村西久保ニテハ小林勝次郎氏最モ古ク明治十年頃ヨリ尾張ヨリ彼地産ノ苗ヲ取次販賣セリ然ルニ明治十九年ヨリ稍盛況ニ向ヒ明治三十五六年來頓ト増加スルニ至レリカクテ明治四十二、三、四年ニハ西ヶ谷可吉氏ニヨリ北米てきさず州ナル三重縣人眞弓吉雄氏園ニ二三千本ヅ、輸出スルニ至レリ

産額

郡	町村名	生産戸數	數量	單價	總額	單價
庵原郡	袖師村	三〇	三〇〇〇〇	二四、〇〇〇	八〇〇	同
同	飯田村	七〇	二〇〇〇〇	二四、〇〇〇	一〇〇	同
同	庵原村	三	二〇〇〇〇	二、〇〇〇	一〇〇	同
同	天王村	三	二〇〇〇〇	五〇〇	二五	同
同	市野村	一	二〇〇〇〇	五〇〇	同	同
同	北濱村	一	二〇〇〇〇	五〇〇	同	同
同	血玉村	四〇	六三、〇〇〇	一一、二五〇	同	同
計				五二、七五〇		

苗木仕立法

柑橘苗ノ主産地タル庵原郡ニテハ愛知縣中島郡ヨリ二一六年生ヲ輸入シコレヲ庵原郡苗木シテ取引スルモノ多シ即チ愛知縣ニテ繁殖セラレシモノヲ仕立ツルニ過ギズ

(植付) 反當四千本植ニシテ一日一人約三百本ヲ移植シ得ベシサレバ普通男女ヲ通ジ反當移植ニハ十四人ヲ要ス

(肥料) 飯田村ニテハ五月中旬及ビ七月中旬ノ二回ニ鯀粕及豆粕ヲ用ヒ特ニ春鯀粕秋豆粕ヲ施用スルヲ佳トス反當肥料代約金三十圓ナリ

袖師村ニテハ同上肥料ヲ三月及六月ノ二回ニ施用シ反當肥料代約金二十餘圓ナリ

(手入) 除草三一四回男ニテ六人女ニテ八人ヲ要ス(反當)
 (病虫害防除) 病虫害豫防トシテハ發芽前(四月上旬)及九月ノ二回ニ三斗式石灰ぼるどう液反當一石二斗ヲ撒布シ、介殼蟲驅除ニハ青酸瓦斯燻蒸ヲ行フ其藥代畑ニテ行フ場合ハ一本ニ付四年生以上ナレバ金四厘掘取後コレヲ施行セバ百本ニ付二十錢ヲ要ス其他害虫ハ除蟲菊石鹼液ヲ以テ驅除ス

苗木ノ種類及價格

柑橘類ノ苗木ハ温州八割ねいぶる類及夏橙一割五分其他雜柑類五分ノ比ニ産セラレ取引多キハ四年乃至五年生苗ナリ價格ハ四一六年生温州ナレバ八一十二錢ニテ愛知縣ヨリ輸入當時ノ價格ハ二年生一本二錢四年生一本六、七錢ナリ

荷造及費用

生産者ニヨリ一様ナラズ袖師村ニテハ四十本一包五年生二五―三〇本一包ミトナシ掘取リシ後根部ニ水ヲカケ荷造トナスナリ荷造費一箇ニ付菰及繩代五錢、一人一時間ニ付約八―十箇ヲ取扱フベシ一包重量約十三貫目ナリ

飯田村ニテハ一梱本數ハ二年生一〇〇―一二〇本三年生百本、床替三年生七〇本四年生五〇本五、六年生三十本ニテ遠方輸送品ハ一梱ニ付水臺約二錢八厘ヲ要シ包裝費ハ一梱ニ付十一錢五厘ヲ要ス、然シテ一梱平均十四貫七噸貨車ニハ一〇箇ヲ入ルベシ

販路

縣内ハニ對シ縣外ニノ比ニシテ縣内トシテハ安倍 庵原 志太 田方ヲ主トシ縣外トシテハ神奈川 千葉 宮崎 長崎 香川 徳島 高知 愛媛ノ諸縣トス

取引時期

三月下旬乃至五月中旬殊ニ四月最モ盛ナリ

主ナル取扱人

庵原郡袖師村西久保 小林勝次郎 澤野彌重
同 飯田村高橋 外岡竹次郎 服部服太郎 同 小三郎 柳元孫太郎
遠藤廣吉 澤井銀三

同 江尻町 西ヶ谷可吉
濱名郡天王村天王 竹山敷雄
同 郡同村天王新田 中村浦次
同 郡同 村下石田 伊藤茂平 伊藤要次郎 勾坂松平
同 郡市野村市野 山本鐵次郎
同 郡北濱村小林 村松治作
引佐郡鹿玉村新原 山田彦四郎

收支計算

収入 金四百圓 五年生苗四千本賣却代
支出 金三百十二圓七十錢
内譯 金二百四十圓 四年生苗購入代四千本
金三十圓 肥料代
金六圓七十錢 植付費用(男十人 一日金五十五錢)
金十一圓 手入費用(男廿人) 金三十錢
金十圓 藥代其他
金十五圓 掘取リ及荷造費

生産地	生産戸数	数量	金額
引佐郡鹿玉村	100	11,400,000	6,700
濱名郡北濱村	100	6,000,000	1,600
安曇郡有度村	7	250,000	1,375
富士郡土根村	1	250,000	1,000
同 大宮町	2	4,500,000	9,000
同 長泉村	2	600,000	1,800
同 東郡	6	600,000	1,200
同 計	140	24,600,000	35,675

苗木仕立法

(播種ト發芽) 一畝ニ要スル播種量ハ八升乃至一斗ニシテ一人一日ヲ要ス三月播種スカクセバ約二十日ヲ經テ發芽スルモノナリ本植物ハ發芽不良ニ付一割發芽セバ普通ナリ

(肥料) 肥料トシテハ一畝ニ付油粕八升下肥八荷(三、四回ニ)ニシテ播種前ニハ下肥ヲ二荷位用ヒ油粕ノ如キモノハ六月下旬乃至八月ノ頃コレヲ施用ス、一畝一人ヲ要ス

(手入) 播種當時ハ苗床乾燥スル故ニ麥藁類ヲ夏ハ日覆ニ又小麥稈ヲ用フ但シ施肥ノトキハコレヲ除去スベシコノ日覆ハ高約一尺五寸乃至二尺ノ距離ニ排置スコノ作業ニ約一人ヲ要ス

(除草) 平均六回ハ行フベシ一畝ニ付二人手間ヲ要スカクテ一畝ニ付十萬本出來レバ上等トス

(二年苗) 一畝ニ付四千本植トナシコレニ約二十人ヲ要ス肥料ハ三回ニ用ヒ二畝一度ニ一斗ヲ要ス、日

覆ハ二年生ニハ用ヒズ中耕三回除草其他ニテ二十五人手間ヲ要スベシ

(三年苗) 三年苗ハ山苗ト稱シ一畝ニ付二五〇〇—三〇〇〇本植トシ肥料ハ二年苗ニ同シナルモ二回ニテヨシ管理ハ約三十人ヲ要ス

苗木ノ種類及價格

苗木ノ種類及價格ハ次ノ如シ

種類	大	サ	價格(一萬本ニ付)
山苗(三四年生ヲ云フ)	尺以上—尺二寸以上	尺二寸以上—尺四寸以上	三十七圓—四十八圓
二年生(ツケ苗)	六—八寸	十五—	二十五圓
一年生	二寸	三寸	三圓

荷造及費用

山苗ナレバ五十本一束、二年生百本一束、一年生百本一束トナシ更ラニ一捆ハ山苗六〇〇—八〇〇本二年生六寸以上二五〇〇本八寸以上千五百本、一年生ハ四萬本ヲ以テ一捆トナシ包裝ニハ空俵ヲ使用シ濱名郡北濱村小林ニテハ水苔代用トシテ藁ノ葉鞘ヲ濡シテ使用ス即チ荷造材料及費用一捆ニ付左ノ如シ

空俵一枚半三錢 繩一錢ニシテ一捆重量十一十三貫目山苗ナレバ十二三貫目ヲ普通トス一年生ハ四萬本ニテ五貫位ナリ、安倍郡ニテハ五〇—一〇〇本ヲ一束トナシ根ト根ト合セテ菰包ミトナシ百本束一俵ノ重量ハ一貫四百乃乃至二貫目アリ荷造上四月十五日以後ハ空氣抜キヲおどろ(竹ノ枝)ニテナシ遠國輸出ヲナス

ニ苗木保險期間ハ早春ノ頃ナレバ二週間乃至十五日間四月十五日以後ハ一週間ナリ荷造費ハ一梱ニ付四錢ナリ

駿東郡大岡村ニテハ一梱ノ容量ハ三年生六百本、二年生二千本入ナリ、一梱重量六―七貫、菰代一―二錢繩約五厘ヲ要ス

販路及取引時期並ビニ狀況

引佐、濱名産ハ縣外四縣内用六ノ比ニ販出セラレ縣外ハ愛知、滋賀、三重、岐阜、神奈川主ニテ縣内ハ駿河及伊豆ナリ駿東郡苗ノ八割ハ愛知縣商人ノ手ニヨリ一時愛知縣へ運送ノ上更ニ各地へ販出セラルモノニテ産地ヨリ直接取引セラル、事甚ダ稀レナリコレガ取引時期ハ二月―四月ノ頃トス

主ナル取扱人

- 引佐郡鹿玉郡新原 山田彦四郎
- 濱名郡北濱村小林 村松治作 鈴木源兵衛
- 安倍郡有渡村一里山 伊藤丑太郎 高木義喜
- 同 同 村草薙 高木與吉
- 富士郡富士根村小泉 遠藤彌十郎 石川茂作
- 同 大宮町萬野 日原儀八
- 駿東郡大岡村上小林 神田平藏 日吉多郎 日吉徳吉 飯田瀧次郎

- 同 泉村久根 室伏金作
- 同 平 松岡寅三
- 同 茶 畑山本俊雄 芹澤清一郎 笠間萬吉
- 同 長泉村長久保 清澄正吾 同村中土狩 池谷いせ

收支計算

一年生苗販賣ニ付調査

収入金 三十圓 一年生苗十萬本賣却代

支出金 十二圓六十三錢

内譯 金五圓四十錢 種子九升購入代

金一圓七十三錢 肥料代

金二圓五十錢 手間代

金一圓 地代

金二圓 荷造費

差引金十七圓三十七錢 (益)

經濟的概況及將來ノ見込

濱名郡北濱村小林附近ニテハ苗木ニヨル收入一戸平均百圓内外ニシテ農家全收入ノ約五分ノ一ハコレニヨ

ル收入ナリ且生産地ハ水田ナク本業トシテハ養蠶、へちま、落花生、甘藷、麥等ナルヲ以テ苗木育生業ハ最モ適當ナル副業ナリサレバ麥ノ間作トシテ苗木ヲ栽培セルモノ約全生産家ノ三分ノ一アリテ將來ノ見込多シサレドモコレガ育生ハ他ノ作物栽培ニ比シ企業的ノモノナレバ生産者ハコレガ經營上大イニ注意スベキモノナリ

第四節 杉苗

沿革

來歴ハ前者ニ準ズルモ杉苗ニハ明治四十四五年來杉赤枯病發生ノタメ大打撃ヲ蒙リ各生産地トモ以來甚シク産額ヲ減少スルニ至レリ駿東郡泉村産ハ明治十五年頃ヨリ販出セラレ明治三十七八年戰役後記念殖林各地ニ行ハレシ以來盛トナリシモ近年赤枯病ノタメ減少スルニ至ル

生産地	生産戸數	數量	價額
引佐郡龜田村	一五	八〇〇、〇〇〇	四、八〇〇
同郡北田村	一一	一、二〇〇、〇〇〇	七二〇
濱名郡濱田村	一五	三〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇
安倍郡有波村	八	二〇〇、〇〇〇	一、二〇〇
駿東郡大岡村	六	一〇〇、〇〇〇	九〇〇
同郡長泉村	二	一〇〇、〇〇〇	八〇〇
同郡長泉村	四〇	七〇〇、〇〇〇	三、八五〇
計	九七	二、一四〇、〇〇〇	一、一七九〇

苗仕立法

(播種) 播種量ハ一坪二―四合ヲ普通トシ播種期ハ三月中下旬トス

(植付及肥料) 植付ハ四月コノ際元肥トシテ安倍郡有波村ニテハ鰯粕二俵(二十圓)後土用後水肥反當金五圓ヲ施用ス植付手間ハ反當十人除草四回ニ十六人ヲ要ス

荷造法

安倍郡ニテハ豫メ水ニ濡シ一捆ニ付三年生苗、四〇〇―六〇〇本

駿東郡ニテハ三年生五〇〇本、二年生一五〇〇本入トシ一捆重量十貫乃至十二貫コレニ要スル荷造費ハ概代二錢繩代一錢ナリ

販路及取引時期

駿東郡産東京、神奈川、山梨、引佐郡産ハ茨城、福島、三重、石川、濱名郡産ハ縣内、安倍郡産ハ主トシテ安倍、志太地方ニ過ギズ然シテコレガ取引時期ハ檜ニ同ジ

種類及價格

産地ニヨリ一定セズ駿東郡泉村ニテハ二年生一萬本ニ付五十圓三年生一萬本ニ付六十圓同郡大岡村ニテハ三年生六七十圓二年生二十圓ナリ然シテ取引多キハ二年生ナリ

主ナル取扱人

檜苗ニ同ジ

第五節 黒松苗

沿革

來歴前者ニ準ズルモ安倍郡有渡村ニテハ昔ハ山地ニ野生セルモノヲ販賣ニ供セシトノ事ナルモ明治十七年頃大暴風雨アリテ東海道ノ並木等折シモノ多カリケルガ當時同村伊藤丑太郎氏等ハ其實ヲ採集シ初メテ實蒔法ニヨル繁殖法ヲ講ジタリカクテ明治三十九年乃至四十四年頃最モ盛ニシテ近年ニ至リ稍衰フニ至ル

産額

生産地	生産戸數	數量	價額
引佐郡 龜玉村	一〇〇戸	一、九〇〇、〇〇〇本	八、七〇〇
濱名郡 濱濱村	一〇〇戸	一、〇〇〇、〇〇〇本	四、〇〇〇
安倍郡 有田村	一〇〇戸	二〇〇、〇〇〇本	三六〇
庵原郡 飯田村	一〇〇戸	一〇〇、〇〇〇本	一八〇
駿東郡 長泉村	七〇〇戸	七〇〇、〇〇〇本	五六〇
同 大泉村	五〇〇戸	五〇〇、〇〇〇本	五〇〇
同 泉岡村	六〇〇戸	六〇〇、〇〇〇本	二、四〇〇
同 計	四〇〇戸	六、四〇〇、〇〇〇本	一六、七〇〇

苗仕立法

本苗ノ仕立上特異トスル處ハ楡苗ノ跡作トナス事ニテ楡苗ハ連作ヲ忌メバナリ

種類ト價額

産地ニヨリ左ノ如シ(一萬本ニ付)

産地	三年生苗	二年生苗	一年生苗
引佐郡 龜玉村	一三一、一五〇	一、二五〇	一、一〇〇
濱名郡 北濱村	一〇五、〇〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇
同 長泉村	一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇
同 大泉村	一〇五、〇〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇

荷造法

駿東郡ニテハ二年生百本小束ニ三年生ハ五十本小束ニナシ一捆二年生一五〇〇一八〇〇本、三年生八〇〇一〇〇〇本入トナスカク菰包ミトセバ普通十五日位ハ枯死セザルモノナリ

販路及取引時期

駿東郡産ハ朝鮮、愛知、岐阜ニ販出セラレ他ハ主トシテ縣内多シコレガ取引時期ハ二一三月ノ頃ナリ

取扱人

前者ニ同ジ

第六節 赤松苗

産額

生産地	生産戸数	量	價
濱名郡北濱村	四〇戸	五〇、〇〇〇本	一、〇〇〇
駿東郡北濱村	四〇戸	一、〇〇〇、〇〇〇	一、五〇〇
同 計	八二	一、八〇〇、〇〇〇	二、〇五〇

價格及荷造

駿東郡泉村ニテハ二年生一本一厘五毛、三年生一厘八毛ニテ二年生ノ方販出多シ濱名郡北濱村ニテハ普通黒松ヨリハ五割高ニシテ一萬本二十圓ナリ荷造ハ黒松ニ同ジ

販路

濱名郡産ハ縣内多ク縣外トシテハ奈良縣ニ販出シ駿東郡産ハ川梨及神奈川ノ諸縣ナリ

取扱人

同上

第七節 槇苗

産額

生産地	生産戸数	量	價
引佐郡龜玉村	三〇戸	一〇、〇〇〇本	一、〇〇〇
濱名郡北濱村	四〇	四〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇
安倍郡有渡村	七七	六〇、〇〇〇	五四〇
同 計	七七	五六〇、〇〇〇	五、五四〇

價格及荷造

安倍郡ニテハ三年生一尺五寸以上百本九十錢、濱名郡市野村ニテハ四年生二尺以上千本十圓、北濱村ニテハ平均一本一錢ナリ
荷造ハ二五―五〇本小束トナシ三四年生尺五寸以上ナレバ四百本一捆トナス荷造上槇ハ稍長形ノ捆トナルヲ以テ運賃モ從テ稍高價ナリ

販路

引佐郡産ハ、朝鮮、名古屋、濱名郡産ハ愛知、三重、岐阜、安倍郡産ハ横須賀市、他縣内トシテ富士、小笠、濱名ノ諸地方ナリ

取扱人

同上

第八節 柿苗

産額

生産地	生産戸数	数量	価格
引佐郡鹿玉村	四〇	三〇、〇〇〇	一、二〇〇
濱名郡北濱村	五〇	七〇、〇〇〇	二、八〇〇
庵原郡飯田村	一	一〇、〇〇〇	五〇〇
計	九一	一一〇、〇〇〇	三、五〇〇

苗仕立法

春坪五合播ニ種子ヲ下シ發芽シ莖開展セバコレヲ二寸距離ニ植エ替ヘ一畝ニ付千五百本植トシ、實生臺木ヲ育生シ三月下旬乃至四月上旬接木スニ日一人ニ付約四百本ノ接木作業ヲ行フベシ
肥料ハ一畝ニ付種粕一斗、人糞尿八荷、手間ハ檜苗育生ニ比シ少ナシ

種類及價格

産出多キハ一般ニ次郎種ナルモ濱名郡北濱村ニ於ケル處ニヨレバ左ノ如シ(價格ハ一本ニ付)
次郎 四―五錢 富有 同上
蜂屋 六錢 美ノ鶴 六錢
其他引佐郡鹿玉村ニテハ御所、百目ノ産モ次郎ニ次ギ多シ
荷造及取引時期

荷造法ハ大體桑ニ準ズルモ普通三尺以上ナレバ小束五十本一捆二百本トナシ出ス、コレガ取引時期ハ十一月乃至三月最モ多キハ十一月―十二月ノ頃トス

販路

多ク縣内ニ販出セラル、モ特ニ一定セル販路ヲ有セズ

主ナル取扱人

- 引佐郡鹿玉村新原 山田彦四郎
- 濱名郡北濱村小林 村松治作
- 庵原郡飯田村高橋 外岡竹次郎

第九節 梨苗

沿革

引佐郡鹿玉村ニテハ明治二十年頃ヨリ梨苗ヲ産シ當時ハ大平、平子、土用梨、らいあん、淡雪、五車、軸長等ノ種類ナリシガ明治三十五年頃ヨリ長十郎流行トナリ殆ド全種類ノ八割ヲ占ムルニ至レリ、庵原郡苗ハ明治四十二年頃最モ盛ニシテ當時ハ富士郡加島村地方ハ主トシテ販出セラレヌ然ルニ大正四年來甚シク不況トナリ濱名郡市野村ノ如キ大正四年ニハ數十萬本ヲ産セシモ現今ニテハ僅ニ五千本ニ減少シ一年生苗三錢ニテ求メシモノ四年生ニ至リ一錢五厘ノ悲境ニ陥ルガ如キ狀況ニアリ

産額

生産地	数量	価格
引佐郡 鹿玉村	二、〇〇〇	二、〇〇〇
濱名郡 小野口村	三、〇〇〇	三、〇〇〇
同 北濱村	三、〇〇〇	三、〇〇〇
同 三方原村	三、〇〇〇	三、〇〇〇
同 市野村	五、〇〇〇	五、〇〇〇
同 袖師村	八、〇〇〇	六、四〇〇
同 飯田村	一、〇〇〇	八、〇〇〇
計	三、四、〇〇〇	三、〇、四〇〇

苗仕立法

實生ヨリ仕立ツル事ナク多クハ一年生苗ヲ安行又ハ愛知(安行ノ方多シ)ヨリ輸入シ反當七〇〇—八〇〇本
 植トナシ三—四年生トナシ販賣ス然シテ其ノ周圍四寸廻リ四年生ノモノ最モ販出多シ梨苗ハ病蟲害多ク仕
 立量モ他ノ苗木ニ比シ困難ナリ然レドモ肥料其他ハ柑橘苗ノ半額ナリ

價格及荷造

種類ハ長十郎八割其他ニ獨逸眞鍮、早生赤、古河等ニシテ明治四十年頃ハ一本ニ付四年生二三十錢位ナリ
 シモ大正六年ニハ庵原郡ニテハ八錢、濱名郡ニテハ十錢ナリ
 荷造ハ四—五本ヲ一束トナシ荷造費用ハ柑橘ノ半額ナリ

取引時期及販路

十一月—十二月ニテ販路ハ縣内ナリ

取扱人

- 庵原郡飯田村高橋 外岡竹次郎
- 同 袖師村西久保 小林勝次郎
- 濱名郡市野村市野 山本鐵次郎
- 引佐郡鹿玉村新原 小田彦四郎

第十節 赤楊類苗

沿革

駿東郡泉村ニテハ明治四十年頃ヨリ赤楊類ヲ産シ大正四年來特ニ盛トナルニ至レリ

産額

樹名	生産地名	生産戸數	数量	價
白揚	駿東郡泉村	四〇	四、〇〇〇	六、〇〇〇
(一名ヤシヤブシ)	同 長泉村	二	一、〇〇〇	一、〇〇〇
赤楊	同 大岡村	六	八、〇〇〇	六、四〇〇
ハゲシバリ	駿東郡泉村	四〇	一、五〇〇	二、一〇〇
計	同	四八	七、八〇〇	一〇、五九〇

苗仕立法

赤楊類ハ乾燥ヲ忌ムヲ以テ苗床ハ湿地ヲヨシトス故ニ多ク田ニコレヲ設ク、播種量ハ一坪二合五勺三月彼岸頃播種ス發芽良好ナルモ夏土用ニ乾燥ノタメ二割ハ枯損ス故ニ一升ニ付約一萬本ノ苗木ヲ得ルナリ種子代一升ニ付白楊金十五錢赤楊二十二錢ハゲシバリ金二十五錢ナリ苗徑一分二厘及一分五厘以上ハ山出トシ其以下ハ二年生トナス春播種セルモノハ十月中旬頃トナレバ一分二厘大トナル

價格及荷造

駿東郡泉村ニテハ一本ニ付一年生、白楊一厘五毛、赤楊一厘四毛、ハゲシバリ一厘七毛、同郡大岡村ニテハ白楊一年生一萬本八圓長泉村ニテハ十圓—十三圓ナリ

コレガ荷造ハ百本ヲ以テ小束トシ苗ノ大サニヨリ一捆ノ本數次ノ如シ

一分二厘以上 二五〇〇—三〇〇〇本(一本一厘五毛)

一分五厘以上 一五〇〇—二〇〇〇本(一本一厘七毛)

カクテコレヲ菰包トシシハ重量六一七貫荷造費トシテハ菰二錢、繩五厘ヲ要シ、一人一日撰木約一萬本荷造約一人一日六十捆ナリ

販路及取引時期

縣外八縣内ニシテ比ニ販出セラレ、縣外トシテハ愛知、岡山、東京主ナリ取引ハ二、三月ノ頃最モ盛ナリ

取扱人

駿東郡泉村平松 岡田寅三 同村久根 室伏金作

同 桑名 原 龜 吉 同 茶畑 山本 俊雄 芹澤清一郎

同大岡村上小林 神田平藏 日吉芳太郎 日吉多郎

日吉徳吉 飯田瀧次郎

同長泉村中土狩 池上伊勢

第十一節 觀賞用植物苗

沿革

觀賞用植物苗木ハ引佐郡鹿玉村新原及濱名郡北濱村小林ハ古來各種苗木類ト共ニ觀賞植物苗木ヲモ産シ生産地ヲ中心トシ三河、遠州ニ於ケル主ナル緣日ニハ行商的ニコレヲ露グモノ多シ、安倍郡有渡村ニテハ明治初年ノ頃ヨリ高木善次郎(源三郎ノ父)氏ニヨリ静岡市方面へ販賣セリ當時ノ植物ハ海棠、紅葉、羅漢柏等主ナルモノナリキ明治十三、四年頃ニハ蘭、萬年青流行シ明治十七年頃ニハ仙人掌流行シ當時ハ約三十種アリ、霧島ハ大正四年ヨリ流行シ來ル

産額及種類

種類	生産地	數量	價額
羅漢	引佐郡鹿玉村	二〇、〇〇〇本	一、六〇〇圓
漢	濱名郡北濱村	二〇、〇〇〇	一、六〇〇
	安倍郡有渡村	一、〇〇〇	八〇〇
	小計	四一、〇〇〇	四、〇〇〇

紅葉	躑躅類	桐	櫻	五葉松	なぎ	高野槇
引佐郡龜玉村 濱名郡北濱村 安倍郡有渡村 小計	濱名郡北濱村 安倍郡有渡村 小計	引佐郡龜玉村 濱名郡北濱村 小計	駿東郡泉村 安倍郡有渡村 小計	濱名郡北濱村 安倍郡有渡村 小計	濱名郡北濱村 安倍郡有渡村 小計	引佐郡龜玉村 濱名郡北濱村 安倍郡有渡村 小計
三、〇〇〇本 二〇、〇〇〇 一、二〇〇〇 三五、〇〇〇	四、〇〇〇 二五、〇〇〇 二九、〇〇〇	一〇、〇〇〇 二〇、〇〇〇 二二、〇〇〇	一五〇、〇〇〇 二〇、〇〇〇 一七〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇 三、〇〇〇 一三、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇 一〇〇、〇〇〇 三〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇 五、〇〇〇 一、五〇〇〇 一、五〇〇〇 一一、五〇〇〇
三百四十 一五〇圓 一、〇〇〇 六〇〇 一、六五〇	一二〇 七五〇 八七〇	二〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、二〇〇	一四、六一四 一、八〇〇 一六、四一四	一、〇〇〇 三〇〇 一、三〇〇	一、〇〇〇 五〇〇 一、五〇〇	一六〇圓 四〇〇 五六〇

茶	唐	石	かなめ
梅 引佐郡龜玉村 濱名郡北濱村 小計	從 引佐郡龜玉村 濱名郡北濱村 小計	榴 濱名郡北濱村 安倍郡有渡村 小計	かなめ 濱名郡北濱村 安倍郡有渡村 小計
二、〇〇〇本 五、〇〇〇 七、〇〇〇	一、〇〇〇 五、〇〇〇 六、〇〇〇	五、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一五、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇 一、五〇〇 一〇一、五〇〇
一六〇圓	一〇〇	五〇〇	二、二〇〇 一、二〇〇 二、二〇〇

以上ハ其主ナルモノナルガ其他、仙人掌、そなれ、くちなし、しゅろちく、いぶき、ひいらぎ、ばら等
平均五千本位産スルモノハイト多シ

價額及荷造

觀賞植物ノ價格ハ甚ダ不定ノモノニシテ需用者ノ如何ニヨリ評價セラレ一定ノ價格ヲ有セザルモノナリ
荷造ハ紅葉類ナレバ落葉期間ナレバ二年生五百本一梱、春ナレバ百本一梱トシテ出シ冬ハ普通苗木ト同ジ
ク菰包ミトナス一梱ニ付約十五錢ヲ要ス、夏ハ安倍郡有渡村ニテハ籠ヲ用フコトキハ一梱ニ付籠代二十
錢丈高クナルナリ

其他植物ノ種類等ニヨリ一様ナラズ

販賣及販路

小生産家ハ自ラコレヲ縁日其他ノ場合ニ行商スルモノ多ク普通生産者ハ多クハ庭園業者即チ植木屋ト連絡ヲ取り販賣スルモノ多シ販路ハ生産地附近トス

取引時期及經濟的概況

春ハ三、四月ノ頃秋ハ九、十二月ノ頃ニテ特ニ多キハ四月及ビ十一月ナリ、觀賞用苗木ヲノミ副業的ニ栽培セルハ安倍郡有渡村中ノ郷ニ約二十五戸アリ該地ハ静岡市ニ接近セルヲ以テ時世ノ要求ニツレコレガ産出モ増加シツ、アリテ、栽培者ハ少ナクモ一戸ニ付五圓内外ノ收入ヲ得ツ、アリ

取扱人

引佐郡鹿玉村新原 山田彦四郎

濱名郡北濱村小林 村松治作

安倍郡有渡村草薙 高木源三郎

漆畑吉三

同村中ノ郷 瀧田長太郎

瀧田銀三

引佐郡鹿玉村山林苗其他生産調査

引佐郡鹿玉村農會調査ノ苗木生産調査ハ參考ニ資スベキ處多シ左ニコレヲ抄録ス

大正五年 山林苗其他 生産調査 鹿玉村

品目	反	別	數	價	額
品目		別			
松		歩	一、五四三、五〇〇	九七三、四五〇	
檜		歩	三、〇七五、七〇〇	四、六三八、一五〇	
杉		歩	三五三、五〇〇	一八八、七五〇	
温州		苗	一四六、八五〇	二、二一八、五〇〇	
金柑		苗	一九、一〇〇	四四四、〇〇〇	
雜柑		苗	一〇、二〇〇	三〇六、〇〇〇	
柑		苗	一一五、三〇〇	三六八、六五〇	
橘		苗	三、三〇〇	六六、〇〇〇	
柿		苗	五、二六七、四五〇	九、二〇三、六〇〇	
計					

部落ニ分別スレバ左ノ如シ

新原 東原部

品目	樹齡	反	別	數	價	額
品目	樹齡	反	別	數	價	額
松	一年		歩	三五、〇〇〇	二、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇
同	二年		歩	一四四、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一、四四〇、〇〇〇
同	三年		歩	一六三、五〇〇	一三、〇〇〇	二、一三五、五〇〇
計				三四二、五〇〇		三、六三三、五五〇
杉	一年		歩	二〇、〇〇〇	五、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
同	二年		歩	一三、五〇〇	三、〇〇〇	四一五、〇〇〇
同	三年		歩	一三、五〇〇	三、〇〇〇	四一五、〇〇〇
計				四七、〇〇〇		一、八三五、〇〇〇

通計	雜柑苗	同計	同計	金柑苗	温州苗					同計	同計	檢計	計
					一	二	三	四	五				
1	2,3年	3	2	1	5年以上	4	3	2	1	3	2	1	1
40,415	1,020	725	225	225	9,823	520	805	4,000	3,923	505	2,000	1,712	320
2,036,750	1,020	8,000	2,500	2,500	10,105	5,350	8,400	40,700	40,800	5,800	7,520	7,520	33,500
1	1,030	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1
5,061,200	306,000	2,400,000	560,000	560,000	3,160,000	1,680,000	2,400,000	8,140,000	8,140,000	2,900,000	1,880,000	1,880,000	28,750

新原 本村部

通計	金柑苗	同計	同計	温州苗	品計	樹齡	反別	數	單價	價
1,315	115	100	100	1,100	7,150	1	1	1,640	0.08	213,000
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
38,000	26,000	26,000	26,000	175,000	97,000	1	1	38,000	0.08	31,200

新原 下村善願部

同計	同計	同計	同計	同計	同計	樹齡	反別	數	單價	價
1,901	4,600	5,915	1,316	1,316	1,316	1	1	1,201	0.08	97,600
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	1	1	16,000	0.08	128,000
1,700,000	2,500,000	2,500,000	2,500,000	2,500,000	2,500,000	1	1	2,500,000	0.08	200,000

品名	樹齡	反	別	數	量	單價	價
檜	三年				二八九,〇〇〇	三五,〇〇〇	一,〇一一,五〇〇
溫州苗	二、三年				一、四四七,五〇〇	一〇,〇〇〇	一、九四二,七五〇
金柑苗	三年				二九,二〇〇	〇,一〇〇	四三四,〇〇〇
通計					三,〇〇〇,七〇〇	三,〇〇〇	三,二三六,七五〇

宮口 井泉田段下洗淨部

品名	樹齡	反	別	數	量	單價	價
檜	二、三年				八〇,〇〇〇	一七,〇〇〇	二〇八,〇〇〇
溫州苗	二年				八〇,〇〇〇	一七,〇〇〇	二〇八,〇〇〇
通計					一六〇,〇〇〇	三,〇〇〇	二〇八,〇〇〇

村外ヨリ入作(新原地内)

品名	樹齡	反	別	數	量	單價	價
檜	二年				一一,〇〇〇	一七,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇
溫州苗	二年				一一,〇〇〇	一七,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇
通計					二二,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇

龜玉村 通計					七八,三二七		八,七六八,九五〇
					五,一四八,八五〇		

◎雜ノ部
新原 東原部

品名	樹齡	反	別	數	量	單價	價
檜	一年性				一一,〇〇〇	五,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇
檜	二年性				二五,〇〇〇	三,〇〇〇	八二,五〇〇
檜	三年性				三四,二〇〇	四,五〇〇	一五三,九〇〇
檜	四年性				七,〇〇〇	七五,〇〇〇	五二,五〇〇
柿	計				七八,二〇〇	二〇	二九四,九〇〇
合計					七八,五〇〇		三〇〇,九〇〇

新原 下村善願部

品名	樹齡	反	別	數	量	單價	價
檜	一年生				二〇,六〇〇	五,〇〇〇	一〇三,〇〇〇
檜	二年生				四,〇〇〇	三,〇〇〇	一三,二〇〇
檜	三年生				三,五〇〇	四,五〇〇	一五,七五〇
通計					二八,一〇〇		三九,二五〇

柿苗	一〇〇	七〇〇	二〇	一四、〇〇〇
合計	九一〇	七〇〇	二〇	一四、〇〇〇

新原 本村部

品名	樹齡	反	量	單	價
同計	二年生	二〇〇	四、〇〇〇	三三、〇〇〇	一三、二〇〇
	三年生	二〇〇	四、〇〇〇	四五、〇〇〇	一八、〇〇〇
合計		四〇〇	八、〇〇〇		三一、二〇〇

宮口

品名	樹齡	反	量	單	價
柿苗	二年生	二二〇	二、三〇〇	二〇、〇〇〇	四六、〇〇〇
合計		二二〇	二、三〇〇		四六、〇〇〇

他村人(村外ヨリ入作新原地内)

品名	樹齡	反	量	單	價
雑通計	二年生	一〇〇	一、〇〇〇	三三、〇〇〇	三、三〇〇
合計		四、六一〇	一一八、六〇〇		四三四、六五〇

第十三章 特殊栽培類

第一節 水菜(水掛菜)ノ栽培

一、水菜栽培ノ沿革

北駿ニ於ケル水菜ノ栽培ハ小山、北郷ヲ栽培ノ中心トシテ足柄、高根、玉穂、富士岡ノ諸村ニ亘リテ生産セラレ同地方冬春期ニ於ケル蔬菜トシテ又水田ノ緑肥トシテ輕視スベカラザル作物タルヲ失ハズ而シテ之ガ栽培ノ起原沿革ニ付テハ記録ノ存スルナク之レヲ詳カニスルニ由ナク地方古老ノ言ニ依ルモ何レノ時代ヨリ栽培セシヤ明カナラズ從テ其経路栽培方法ノ變遷等ニ至ル迄茲ニ述ブル能ハズト雖明治三十年頃迄ハ主トシテ農家ノ自家用及緑肥ヲ目的トシテ栽培セラレタルモ明治二十九年小山紡績會社創立セラレ、アリテ人口ノ増加ト共ニ蔬菜ノ需要頻ニ多キヲ加ヘ當時ヨリ販賣蔬菜トシテ有望ナル位置ヲ占メ而モ二、三月ノ候他ノ菜類ノ生産渺ナキ時期ナルヲ以テ水菜ノ特徴ト相俟テ盛ニ歡迎セラル、ニ至リ現今ニアリテハ即チ販賣用、肥料及自家用蔬菜トシテ利用範圍ヲ廣メ栽培セラル、ニ至レリ

二、水菜生産狀況

水菜ハ後章栽培法中ニ述ブル如ク灌漑水ノ如何ニ密接ノ關係ヲ有スルガ故ニ栽培地域ヲ制限セラル、ヲ以テ他ノ作物ノ如ク甚ダシク面積ヲ擴張スル能ハズト雖近年栽培面積ヲ増加セリ左ニ北駿ニ於ケル生産ノ概況ヲ示セバ左ノ如シ

町村名	栽培戸數	栽培反別	收穫	肥料	計高	同	上	價	額
富士岡村	空	10,000	6,000	3,000	3,000	500	250	700	7,000
玉穂村	空	5,000	5,000	1,000	1,000	500	100	500	5,000
高根村	空	3,000	1,200	6,000	5,800	500	500	1,000	1,000
北郷村	空	1,000	1,000	1,000	1,000	500	500	1,000	1,000
小山町	空	11,000	11,000	3,000	8,000	900	400	1,300	1,300
足柄村	空	0,000	5,000	3,100	3,600	500	300	800	800
合計	400	40,000	40,000	20,000	20,000	3,500	1,500	5,000	5,000

備考 一、反當收量 蔬菜トシテ 六貫乃至百三十貫
 緑肥トシテ 一五〇貫乃至四百貫
 二、單 價 緑肥 一貫ニ付 五錢乃至十二錢
 緑肥 百貫ニ付 一圓内外

三、位置及適地

栽培地ハ其附近ニ樹木、家屋等ノ障害物ナク日光ノ當射充分ナルヲ要ス土質ハ栽培上ノ影響比較的少ナキガ如キモ砂質壤土ヲ最上トス而シテ栽培上最モ緊要缺クベカラザルハ排水良好ナルニアリ然ラザル土地ニ於テハ其他ノ要件如何ニ完備スト雖モ多クハ發芽後腐敗枯死スルヲ以テナリ排水ト共ニ必要ナルハ灌溉ニ便ナルコトニシテ而モ其用水ハ温度高クシテ之レガ栽培ニ適セザルベカラズ

四、播種期播種ノ方法

播種期 ハ毎年十月初旬ニ初メ中旬ニ終ルヲ普通トス即チ播種遅ル、トキハ發芽後ノ成績不良ニシテ寒氣

ノ爲メ枯死スルモノ多キヲ常トス

播種ノ準備整理ハ水菜栽培上深ク注意ヲ要スル事項ニシテ其良否精粗ガ成育ニ關スル所頗ル多キヲ以テ灌溉水ノ良否、土地ノ排水ノ如何整理ノ適否ハ三大要件ト稱スルヲ得ベク從テ最モ重キヲ置カル、作業ナリトス即チ水菜ハ灌水ヲ必要トスレドモ水ノ停滞スルヲ許サズ故ニ栽培地ハ緩斜傾ニ整地セザルベカラズ其程度ハ概略十間ニ對シ五六寸乃至七八寸内外ナルガ如シ之レガ爲メニ灌溉水引キ入レ口ヨリ耕起ヲ初メ排水溝ニ至リテ止ム如クス而シテ幅九尺毎ニ斜傾ニ沿フテ深キ溝ヲ掘ル(此溝ハ排水ノ便ヲ得ル爲メニシテ底土ニ達スル位ニ掘リ且ツ上部三尺乃至四尺ノ間ハ其儘トス圖ノ如シ)耕起シタル土壤ハ其表面二三寸ニ至ル間ノ土塊ヲ碎キ二尺毎ニ二寸位ノ小溝ヲ設ク(二、三寸ノ土塊ヲ碎キ深クセザルハ排水ヲ良好ナラシムル爲メナリ)之レ即チ灌溉水ヲ通ズル溝ナリトス

播種ノ方法 播種スルニ當リテハ種子、腐熟セル人糞、糞灰ヲ混合スルヲ普通トス一反歩ニ用ユル配合量大約左ノ如シ

- 一、種子 一升八合乃至二升 (播種期遅ル、トキハ其量ヲ増ス)
- 二、人糞尿 四十貫内外 (腐敗セルモノニテ濃厚ナルモノヲ用フ)
- 三、糞灰 四斗内外

以上ヲ能ク配合シタルモノヲ撒播シ二寸ノ小溝トスル部分ノ土ヲ取り薄ク振り掛ケルニアリ種子肥料ヲ混合セルモノハ直チニ播種シ時日ヲ經過セシメザルヲ要ス

五、播種後ノ管理

(a) 發芽及灌水迄ノ注意

播種セル後ハ排水ニ注意シ降雨アリタル場合ノ如キハ水ノ停滯セザルヲ要ス爾後ニ於ケル狀態適順ナルトキハ六、七月位ニテ發芽スルモ甚ダシク濕潤ナル場合ハ種子ノ發芽極メテ不良ナルガ故ニ此點ニ注意セザルベカラズ發芽後生育ノ狀態ニ鑑ミ一回乃至二回位稀薄ナル人糞(一〇〇貫乃至一五〇貫)ヲ施シ發育ヲ促シ殊ニ根部ノ健全ナル活動ヲ圖ルヲ要ス而シテ二十五日乃至三十日内外ニシテ二三寸ノ成育スルニ至リテ灌水ス

(b) 灌 溉

灌溉ハ水菜栽培上最モ緊要ナル要件ナリトス之レ全ク他ノ蔬菜ト異ナル所ニシテ之レヲ灌水スルコトナク栽培スルトキハ生育良好ナラザルノミナラズ莖葉極メテ剛ク品質香味ヲ損シ俗ニあくノ量ヲ増シ苦味ヲ感ズルニ至ルヲ普通トス即チ灌溉スル所以ノモノハ極寒ニ際シ水温ヨリ土壤ヲ温メ凝霜氷結ヲ防グト共ニ一而養分ノ補給ヲナシ以テ其生育ヲ促進セシムルモノニシテ恰モ促成の意味ヲ有ス去レバ水菜ハ莖葉共ニ柔軟ニシテ纖維少ナク品質良好ナリトス

水源ハ栽培地ニヨリ多少趣ヲ異ニスト雖北郷、小山地方ニアリテハ須川流域ニヨリテ之レヲ灌溉ス須川ハ水源ヲ北郷村大御神、棚頭トシ流レテ鮎澤川ニ入ル(鮎澤川ハ酒匂川ノ上流ナリ)此流水ハ寒中ニ於テ水温極メテ高ク他ノ流水ノ及ブ所ニアラズト稱セラル即チ水菜ノ灌溉ハ水温高キヲ第一ノ要トスルガ如

シ

灌溉スルニ當リテハ整地セル傾斜地ノ高所ニ幅一尺内外ニシテ深キ(底上ニ達スル位迄)溝ヲ傾斜ニ對シ直角ニ掘リ(此灌溉溝ヲ枕掘ト稱ス)水ヲ通シテ豫メ設備セル小溝(傾斜ニ並行シテ設ケタル小溝)ニ導キ全面ニ向ツテ灌溉ス

灌水シ初ムルハ前記ノ如ク發芽シテヨリ約三十日内外ヲ經過シ二、三寸ニ發育セルノ時ニシテ夜間及雨天、曇天、及冷氣等甚ダシキ時期ニ於テシ其他ハ日中排水スルヲ普通トス而シテ蔬菜トシテノ收穫終ラバ灌水スルコト稀レナリトス

水菜ハ病害蟲ニ犯サル、コト殆ンド稀レナルヲ以テ之レニ對スル注意ハ一般ニ之レヲ要セザルガ如キモ之レガ管理トシテ灌溉排水ノ作業ヲ怠ルトキハ甚ダシキ寒害ヲ蒙リ收穫ヲ見ル能ハザルニ至ルヲ珍トセズ去レバ水田ノ水見廻リノ如ク朝夕之レヲ注意スルコト肝要ナリトス

六、收 穫

(a) 蔬菜トシテノ收穫

十二月下旬ニ至リ間引ヲ行フモノアリト雖モ適當ナル方法ニアラズ多クハ根部ヲ緩メ其生育ヲ害スルヲ以テ一般ニ行ハレズ早キハ二月ニ至リナスモノアリト雖自家用ニ供スルニ止マリ普通三月中下旬莖ヲ抽出シ花蕾(所謂トウ)ヲ着生スル頃ヲ以テ採收ノ適期トス即チ既ニ開花セルモノハ品質良好ナラズ適期ヲ失セリト謂フヲ得ベシ

摘採ノ方法ハ地上ヨリ二寸内外ヲ存シ本葉一、二枚ヲ存シ指ヲ以テ摘ミ取ルヲ良シトス此際地際ヨリス
 ルトキハ液芽ノ伸長不充分ニシテ二番ノ抽出發育ニ關係アルノミナラズ下部ハ概シテ硬ク品質ヲ損スル
 ヲ以テナリ一番採收後五、六日乃至一週間ニシテ盛ニ發育スルヲ以テ更ニ採收スルモノアリト雖ニ番摘
 採ノモノハ纖維ヲ増シ且ツ莖細ク品質一番ノ比ニアラズト稱セラル、ヲ以テ年ノ豊凶及市場ノ如何ニヨ
 リ採收セラル、状態ナリトス
 而シテ最後ニ發育セルモノハ綠肥トスルヲ以テ稻種秧前ニ迄成育セシムルヲ普通トス
 反當收量ハ年ノ豊凶地方ニヨリ異レドモ、蔬菜用トシテ六〇貫乃至百二十貫肥料トシテ百五十貫乃至
 四百貫内外トス、

七、採種

水菜ノ種子ハ栽培者各自ニ採種ス即チ採種地ノ栽培方法ハ普通栽培ト異ナルコトナシト雖只採種豫定地
 ニ於テハ收穫スルコトナクシテ發育セシム三月下旬ヨリ四月ニ亘リ開花ス結實セバ莢ノ稍苗色ヲ呈スル
 頃即チ五月上旬收納シ之レヲ乾燥調製ス一畝歩ヨリ得ベキ種子量ハ大約五升内外ナリト云フ

八、販賣

採收セルモノハ小山、御殿場、地方仲買ニ販賣スルモノ及各自之レヲ運搬シテ需要者ニ直接販賣スルモ
 ノ、二種アリ而シテ近年京濱地方ニ移出セラルアリト雖大部分ヲ地方ニ於テ消費セラルノ狀況ナリ取引
 ハ一貫目ヲ單位トシ其價格モ年ニヨリ又時期ニヨリ多少ノ高低アリト雖最低五六錢最高十二三錢普通八

錢内外ナリトス

九、用途

普通菜類ト大差ナク煮食及漬物用ニ供セラル

煮食中最モ普通ニシテ而モ賞美セラル、ハ之レヲ湯ニテ茹デ一寸五分乃至二寸位ニ切り醬油ヲ落シテ味
 フ方法ナリ而シテ湯ニテ茹ル場合ハ(一)、煮過ギザルコト(二)、湯ノ中ヨリ出シタルモノハ一寸冷水ニ
 浸シ直チニ水ヲ切ルコト等ノ注意ヲ怠ルトキハ風味ヲ損スト稱セラル
 鹽漬ハ地方ニ於ケル漬物トシテ最モ歡迎セラル前漬方ノ如何ニヨリテハ年中食膳ニ上スコトヲ得而モ風
 味ヲ失フコトナキハ水菜ノ特點ト謂フベシ其概要ヲ述ブレバ

水 菜 約十五貫内外

鹽 三升乃至四升(貯藏期短キモノハ三升一ケ年間モ貯藏セラレタルモノハ四升乃至四斗餘)

先ツ四斗樽ヲ準備シ底部ニ鹽ヲ撒布シ菜ヲ入レテ之レヲ平ラニ並ベ能ク踏ミ付ケ水ヲ振り更ニ菜ヲ積ミ
 入レ鹽ヲ振り更ニ踏ミ付ク斯クスルコト數回ニシテ最後ニ蓋ヲナシ十貫目位ノ重ミヲナス
 尙以上ノ外樽ニ容ルニ先チ菜ヲ鹽ニテモミ之レヲ樽ニ詰メ重ミヲ加ルフモノアリ
 以上ノ如クスルトキハ十日内外ニシテ食スルヲ得而シテ土用ヲ越サシメントスルモノハ樽ニ溜リタル鹽
 汁ヲ(重ミヲ去ルコトナク)除去スルニアリト云フ

一〇、收支計算

(一反步當中等作)

小山町

渡邊萬次郎
富川廣吉

入	出	支		種別	勞力		土地ニ關スル課
		種目	數量		男	女	
收	肥料	糞尿	一八合	整地	六		地租
收	肥料	人糞	一五〇丈	播種(準備ヨリ)	二		地稅
收	肥料	灰四斗(一俵)	一俵一五〇	灌溉其他管理	三		町稅
收	肥料	農具損料	一俵一五〇	收穫	二		會村稅
收	肥料	土地公課	積(農作トシテ見)	收穫	六		他稅
收	肥料	計	六五〇	收穫	六		租
入	綠肥	計	九〇〇	計	一七		計
入	綠肥	計	一〇〇貫反付	計	一		計
入	綠肥	計	三五〇	計	六		計
入	綠肥	計	一〇〇貫=付	計	一七		計
入	綠肥	計	一二、三〇〇	計	一七		計
入	綠肥	計	九、九〇〇	計	一七		計

備考 女一人ノ蔬菜採收能力ヲ普通一日二十貫ナリト云フ

注意 水菜ハ新ラシキ地ニ栽培スレバ成績良好ナリト稱セラル、モ直作スルモ相當收穫アリト稱セラル先ツテ直作ニ堪ユル作物ナリ(栽培法中へ記入スベキ所ナレドモ略ス)

第二節 安倍郡麻機村ニ於ケル枇杷ノ栽培

沿革

明治二十五年頃本村尾頭銀之助氏田中枇杷ノ接穂ヲ千代田村下足洗後藤宅次郎氏ヨリ貰ヒ受ケテ自家所

有ノ在來種ニ接ギタリ(後藤氏ハ有度村楠新田石川治作ヨリ接穂ヲ貰ヒ受ケタリト云フ)之同村ニ現今ノ如ク田中枇杷栽培セラル、ニ至レル始メナリ又之ト殆ンド同時期ニ本村望月平作氏ハ安倍郡長田村丸子新田多田元吉氏所有ノ田中枇杷ノ穂ヲ以テ自家ノ在來種ニ接ギ之モ同内ニ擴メラレタリト云フ是レ以前ハ同村枇杷ハ在來種多クシテ殆ンド放置ノ状態ニアリタルモノナリ

產額	四百本	生産數量	二千四百貫	價額	一千四百四十圓
樹數	四百本	生産數量	二千四百貫	價額	一千四百四十圓
栽培	四百本	生産數量	二千四百貫	價額	一千四百四十圓

品種 田中枇杷、茂木枇杷、唐枇杷、土肥枇杷、在來種
 栽植山地ノ傾斜急ナル所又ハ日蔭地等ニ五本或ハ十本位ヅ、植付ケラレ園ヲナセルモノナシ目下苗ヲ養成シテ將來大イニ増植セン模様ナリ苗ハ實生へ接木ヲナシテ養成スルモノニシテ臺木ハ四年生位ノモノヲ用ヒ當地栽培家ハ臺木モ田中枇杷ノ實生ヲ選ブ切接又ハ相接ヲ行ヒ春秋二期ヲ可トスルモ枇杷ハ寒中及酷暑ヲ除ク外ハ何時ニテモ活着可良ナリ

肥料 四五年前ハ殆ンド肥料ヲ施サザリシガ近年漸ク其必要ヲ認メ人糞尿、過磷酸石灰、木灰等ヲ僅ニ與フ其ノ方法ハ根元ヲ淺ク耕シテ其上ニ施肥シ土ト混合ス、普通秋期施スモ果ノ着色ヲ遅延センガ爲メニ五月下旬又ハ六月上旬速効性ノ窒素肥料ヲ施ス事アリ

摘果 袋掛前ニ行ヒ(普通四月上旬)發育不良ノモノ及配置悪シキモノヲ除キ一房五粒以下トナス
袋掛ケ 四月廿日頃行ヒ新聞紙一枚ヲ八ツ切りニセルモノヲ以テ袋ヲ造ル、結束材料ハ古疊ノ蘭ヲ七八寸ノ長サニ切りテ用フ袋掛ケハ樹ノ枝ト枝ニ丸太ヲ結びツケ之ニ據ツテ行フ
其ノ他ノ手入、整枝剪定ハ殆ンド行ハズ自然ノ生育ニ任セ枯枝ノ剪除等ニ過ギズ

採收 六月七日頃ヨリ採集ヲ初メ六月下旬ニ終ル剪定缺ヲ用ヒ必ズ葉ヲ附ス然カレバ價額廉シ田中枇杷ニテ大ナルモノハ一粒二十匁ヨリ二十四匁ニ達ス一本ノ生産高十二年生位ニシテ二十貫内外トス

病虫害

病害ニ癌腫病アリ幹、枝根ヲ浸シ被害尠カラズ尾頭銀之助氏ハ被害部ニ五升ノぼるどう液ヲ塗布シ良好ノ成績ヲ收メツ、アリ

其他斑點病瘡痂病等アルモ被害少ナシ

虫害ニ天手アリテ幹内ニ入ルモ害大ナラズ

販賣取引

販賣ハ生産者ト果物商トノ直接取引多ク静岡市ヲ主ナル販路トスルモ望月平作氏ハ桃ヲ東京ニ販賣スル關係上五年前ヨリ枇杷モ亦東京市場ニ出ス静岡市其他附近へ販賣スルニハ網代籠等へ入レテ運搬スルモ東京市場へ出スニハ蜜柑箱(縦六寸七分横八寸六分深四寸五分)ヲ用ヒ底部ニ麥稈ヲ敷キテ臺上ニ果ヲ置キ(果ハ必ズ藁ヲ附シ其ノ葉ニテ包ムガ如クナス)上部ニ又薄ク稈トヲ被フ普通一貫目入レトス四箱ヲ一桐麥

ナシテ輸送ス然シテ東京市場ハ房州産枇杷ノ爲メニ壓セラレテ未ダ有利ノ地位ニアリト云フ可カラズ

價額

静岡 一貫目 六月上旬八十錢 六月下旬 四十五錢内外

東京 一貫目 平均七十五錢

主ナル取引商

静岡市吳服町一丁目 大石果實店

同 榮町一丁目 森久商店

東京京橋市場 鈴木商店 長谷商店 三長商店

枇杷ノ主ナル生産家

麻機村南 望月平作

同 同 尾頭銀之助

第二節 芹(肥料用)

沿革

食用トシテ野生ノ芹ヲ利用スルハ古來各地ニ行ハル、處ナルモ肥料トシテ芹ヲ栽培スルハ蓋擴ク聞カザル處ナリ富士郡富丘村中里及淀師附近ハ古來肥料用芹ノ産地ニシテ名高ク同郡大宮町黒田附近ニモ亦産セラレ何レモ自家用ニ供ス然レ共大正三四年來勞働賃金高マリシタメニコレガ栽培稍減ズルニ至レリ

産額	生産地	栽培面積	産額
	富丘村	一〇町	一五〇、〇〇〇貫
	大宮町	二町	三〇、〇〇〇貫
計		一二町	一八〇、〇〇〇貫

栽培及ビ收益

コレガ栽培法最モ容易ニシテ十一月一坪ニ付約三貫目ノ結實セル芹ヲ置キ冬期水ノ凍ルヲ防ギ二月即チ水ヲ淀マスナリカクセバ五月ニハ高九尺ニ達シ反當一五〇〇貫—二〇〇〇貫ヲ收穫シ得ベシ、又二月特ニ露采用トシテ芹ノ若芽ヲ販賣スルトセバ一尺五寸廻リ束一ヶ金五錢即チ反當二十圓ノ蔬菜的收入ト更ラニ反當千貫ノ肥料的收入アリ、然シテコレガ栽培地ハ不毛地ナレバ排地利用トシテモ有利ナリ

施用量

肥料トシテ施用スルニハ富丘村ニテハ左ノ通りニ稻ニ反當施用スルモノ多シ

(乾田施用方法) 芹六〇〇貫 厩肥一〇〇貫 過磷酸石灰一貫

(水田施用方法) 芹四〇〇貫 單用

將來ノ見込

芹ノ栽培ハ排地利用トシテ有利ナルモノニシテ從來肥料用ヲ目的トシテ産セララル、モ轉ジテ蔬菜用トシテコレガ販出セバ將來ノ見込多キモノナリ、然レドモ産地附近ハ工業ノ發達ニ伴ヒ勞働賃金高キヲ以テコレガ栽培者減少ノ傾向アルハ遺憾ナル處ナリ

静岡縣農家副藝一斑 終

靜岡縣農會事務所

大正六年九月十五日印刷
大正六年九月十八日發行

發行所

靜岡市追手町二百四十七番地
靜岡縣農會事務所

編輯者兼

後藤平

靜岡市水落町三丁目二十二番地ノ三

印刷者

小長谷勝之助

靜岡市廣匠町三丁目三十一番地

印刷所

帝國印刷製本株式會社

東京市牛込區西五軒町三十四番地

326

277

終

